

令和 3 年 第 2 回

芦北町議会 3 月定例会会議録

開会 令和 3 年 3 月 2 日

閉会 令和 3 年 3 月 12 日



熊本県芦北町議会

令和 3 年第 2 回芦北町議会定例会会期日程

月 日	曜日	日 程
3・2	火	本会議（開 会） 諸報告 議長諸般の報告 行政報告 議案審議（委員長報告） 令和 3 年度施政方針と予算大綱説明 議案審議 議案等の委員会付託
3	水	委員会審査 文教厚生（生涯学習課、住民生活課、コミュニティセンター課） 建設経済（現地調査、建設課、上下水道課）
4	木	委員会審査 総 務（総務課、企画財政課、税務課、会計室、議会事務局）
5	金	委員会審査 建設経済（商工観光課、農林水産課） 文教厚生（教育課、福祉課、健康増進課）
6	土	休 日
7	日	休 日
8	月	休 会（議事整理）
9	火	休 会（議事整理）
10	水	休 会（議事整理）
11	木	本会議 一般質問
12	金	本会議（最終日） 議案審議（委員長報告） 議員派遣の件 閉会中の継続調査の申出 （閉 会）

目 次

第1号（3月2日）	頁
1 議事日程	3
2 出席議員氏名	5
3 欠席議員氏名	6
4 説明のため出席した者の職氏名	6
5 事務局職員出席者	6
6 開会 開議	9
第1 会議録署名議員の指名	9
第2 会期の決定について	9
第3 諸報告	9
議長諸般の報告	9
行政報告	9
（一括議題＝日程第4から日程第12まで）	
第4 認定第1号 令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算の認定について	9
第5 認定第2号 令和元年度芦北町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	9
第6 認定第3号 令和元年度芦北町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	9
第7 認定第4号 令和元年度芦北町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	9
第8 認定第5号 令和元年度芦北町生活排水処理事業特別会計歳入歳出決算の認定について	10
第9 認定第6号 令和元年度芦北町有温泉事業特別会計歳入歳出決算の認定について	10
第10 認定第7号 令和元年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計歳入歳出決算の認定について	10
第11 認定第8号 令和元年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について	10
第12 議案第63号 芦北町地方創生臨時基金条例の制定について	10
第13 議案第5号 令和2年度芦北町一般会計補正予算（第10号）	19
第14 議案第6号 令和2年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）	33

第15	議案第7号	令和2年度芦北町介護保険事業特別会計補正予算 (第4号)	34
第16	議案第8号	令和2年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算 (第4号)	35
第17	議案第9号	令和2年度芦北町有温泉事業特別会計補正予算 (第4号)	37
第18	議案第10号	令和2年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計補正予算 (第1号)	38
第19	令和3年度施政方針と予算大綱説明 39 (一括議題＝日程第20から日程第30まで)		
第20	議案第11号	令和3年度芦北町一般会計予算	46
第21	議案第12号	令和3年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算	46
第22	議案第13号	令和3年度芦北町介護保険事業特別会計予算	46
第23	議案第14号	令和3年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算	46
第24	議案第15号	令和3年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算	46
第25	議案第16号	令和3年度芦北町有温泉事業特別会計予算	46
第26	議案第17号	令和3年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算	46
第27	議案第18号	令和3年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算	46
第28	議案第19号	令和3年度芦北町水道事業会計予算	46
第29	議案第20号	芦北町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定 について	46
第30	議案第21号	芦北町災害復興基金条例の制定について	46
第31	議案第22号	芦北町職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例の 制定について	49
第32	議案第23号	芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に 関する条例の一部を改正する条例の制定について	50
第33	議案第24号	芦北町土地開発基金条例の一部を改正する条例の制定に ついて	51
第34	議案第25号	芦北町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定に ついて	52
第35	議案第26号	芦北町介護保険条例の一部を改正する条例の制定につい いて	53
(一括議題＝日程第36から日程第39まで)			
第36	議案第27号	芦北町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び	

	運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の 制定について	53
第37 議案第28号	芦北町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、 設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに 係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準 を定める条例の一部を改正する条例の制定について	54
第38 議案第29号	芦北町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに 指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支 援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条 例の制定について	54
第39 議案第30号	芦北町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関す る基準等を定める条例の一部を改正する条例の制定につ いて	54
第40 議案第31号	芦北町文化財保護審議会条例の一部を改正する条例の制 定について	56
第41 議案第32号	芦北町薩摩街道佐敷宿交流館の指定管理者の指定につい て	57
第42 議案第33号	芦北町女島活力推進センターの指定管理者の指定につい て	58
第43 議案第34号	芦北町高齢者生活福祉センターの指定管理者の指定につ いて	59
第44 議案第35号	芦北町水産物直売施設の指定管理者の指定について	60
第45 議案第36号	芦北町吉尾温泉公衆浴場の指定管理者の指定について	60
第46 議案第37号	芦北町物産館の指定管理者の指定について	61
第47 議案第38号	芦北町御立岬公園の指定管理者の指定について	62
第48 議案第39号	芦北町御立岬公園釣り場の指定管理者の指定について	63
第49 議案第40号	芦北町大野温泉センターの指定管理者の指定について	63
第50 議案第41号	古石地区生涯学習センターみどりの里の指定管理者の指定 について	64
7 散 会		65
第2号（3月11日）		頁
1 議事日程		69
2 出席議員氏名		69

3	欠席議員氏名	69
4	説明のため出席した者の職氏名	69
5	事務局職員出席者	69
6	開会 開議	76
	第1 一般質問	76
	(1) 坂本登議員第1回目一般質問	76
	○竹崎町長答弁	77
	○岩田教育長答弁	78
	○松本総務課長答弁	78
	○内田福祉課長答弁	79
	○田中健康増進課長答弁	79
	(2) 坂本登議員第2回目一般質問	80
	○竹崎町長答弁	81
	(3) 坂本登議員第3回目一般質問	81
	○白坂教育課長答弁	82
	(4) 坂本登議員第4回目一般質問	82
	○白坂教育課長答弁	82
	(5) 坂本登議員第5回目一般質問	82
	○内田福祉課長答弁	83
	(6) 坂本登議員第6回目一般質問	83
	○釜商工観光課長答弁	83
	(7) 坂本登議員第7回目一般質問	84
	○内田福祉課長答弁	84
	(8) 坂本登議員第8回目一般質問	84
	○内田福祉課長答弁	84
	(9) 坂本登議員第9回目一般質問	85
	○田中健康増進課長答弁	86
	(10) 坂本登議員第10回目一般質問	86
	○田中健康増進課長答弁	86
	(11) 坂本登議員第11回目一般質問	87
	○竹崎町長答弁	88
	(12) 坂本登議員第12回目一般質問	88
	○松本総務課長答弁	89
	(13) 坂本登議員第13回目一般質問	89

(1) 楠原清照議員第1回目一般質問	89
○竹崎町長答弁	92
○佐竹農林水産課長答弁	93
○鎌倉建設課長答弁	94
○田中健康増進課長答弁	94
○松本総務課長答弁	95
(2) 楠原清照議員第2回目一般質問	95
○佐竹農林水産課長答弁	95
(3) 楠原清照議員第3回目一般質問	95
○鎌倉建設課長答弁	96
(4) 楠原清照議員第4回目一般質問	96
○鎌倉建設課長答弁	96
(5) 楠原清照議員第5回目一般質問	96
○松本総務課長答弁	98
(6) 楠原清照議員第6回目一般質問	99
(1) 林田燿宏議員第1回目一般質問	100
○竹崎町長答弁	102
○岩田教育長答弁	102
○田渕住民生活課長答弁	103
○田中健康増進課長答弁	103
(2) 林田燿宏議員第2回目一般質問	104
○田中健康増進課長答弁	104
(3) 林田燿宏議員第3回目一般質問	105
○田中健康増進課長答弁	105
(4) 林田燿宏議員第4回目一般質問	105
○田中健康増進課長答弁	105
(5) 林田燿宏議員第5回目一般質問	106
○田中健康増進課長答弁	106
(6) 林田燿宏議員第6回目一般質問	106
○白坂教育課長答弁	107
(7) 林田燿宏議員第7回目一般質問	108
○白坂教育課長答弁	109
(8) 林田燿宏議員第8回目一般質問	109
○岩田教育長答弁	110

(9) 林田燿宏議員第9回目一般質問	110
○竹崎町長答弁	111
(10) 林田燿宏議員第10回目一般質問	111
(1) 川尻成美議員第1回目一般質問	112
○竹崎町長答弁	113
○松本総務課長答弁	113
○佐竹農林水産課長答弁	114
(2) 川尻成美議員第2回目一般質問	115
○松本総務課長答弁	115
(3) 川尻成美議員第3回目一般質問	115
○松本総務課長答弁	116
(4) 川尻成美議員第4回目一般質問	116
○松本総務課長答弁	117
(5) 川尻成美議員第5回目一般質問	117
○竹崎町長答弁	118
(6) 川尻成美議員第6回目一般質問	118
○竹崎町長答弁	119
(7) 川尻成美議員第7回目一般質問	120
7 散 会	120

第3号(3月12日)	頁
1 議事日程	123
2 出席議員氏名	123
3 欠席議員氏名	124
4 説明のため出席した者の職氏名	124
5 事務局職員出席者	124
6 開会 開議	126
(一括議題＝日程第1から日程第11まで)	
第1 議案第11号 令和3年度芦北町一般会計予算	126
第2 議案第12号 令和3年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算	126
第3 議案第13号 令和3年度芦北町介護保険事業特別会計予算	126
第4 議案第14号 令和3年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算	126
第5 議案第15号 令和3年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算	126
第6 議案第16号 令和3年度芦北町有温泉事業特別会計予算	126

第7	議案第17号	令和3年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算	126
第8	議案第18号	令和3年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算	126
第9	議案第19号	令和3年度芦北町水道事業会計予算	126
第10	議案第20号	芦北町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定 について	126
第11	議案第21号	芦北町災害復興基金条例の制定について	126
第12	議員派遣の件		142
	(一括議題＝日程第13から日程第17まで)		
第13	総務常任委員会の閉会中の継続調査の申出		142
第14	建設経済常任委員会の閉会中の継続調査の申出		142
第15	文教厚生常任委員会の閉会中の継続調査の申出		142
第16	議会広報委員会の閉会中の継続調査の申出		142
第17	議会運営委員会の閉会中の継続調査の申出		142
	追加日程		
第1	議案第42号	令和2年度芦北町一般会計補正予算(第11号)	143
7	閉会		145

令和3年第2回芦北町議会定例会議事日程（第1号）

令和3年3月2日

午前10時 開会

於 議 場

1 議事日程

開会宣告

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 会期の決定について

第 3 諸報告

議長諸般の報告

行政報告

（一括議題＝日程第4から日程第12まで）

第 4 認定第 1号 令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算の認定について

第 5 認定第 2号 令和元年度芦北町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第 6 認定第 3号 令和元年度芦北町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第 7 認定第 4号 令和元年度芦北町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第 8 認定第 5号 令和元年度芦北町生活排水処理事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第 9 認定第 6号 令和元年度芦北町有温泉事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第10 認定第 7号 令和元年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第11 認定第 8号 令和元年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第12 議案第63号 芦北町地方創生臨時基金条例の制定について

第13 議案第 5号 令和2年度芦北町一般会計補正予算（第10号）

第14 議案第 6号 令和2年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）

第15 議案第 7号 令和2年度芦北町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）

- 第 16 議案第 8 号 令和 2 年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算
(第 4 号)
- 第 17 議案第 9 号 令和 2 年度芦北町有温泉事業特別会計補正予算 (第 4 号)
- 第 18 議案第 10 号 令和 2 年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計補正予算
(第 1 号)
- 第 19 令和 3 年度施政方針と予算大綱説明
(一括議題＝日程第 20 から日程第 30 まで)
- 第 20 議案第 11 号 令和 3 年度芦北町一般会計予算
- 第 21 議案第 12 号 令和 3 年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算
- 第 22 議案第 13 号 令和 3 年度芦北町介護保険事業特別会計予算
- 第 23 議案第 14 号 令和 3 年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算
- 第 24 議案第 15 号 令和 3 年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算
- 第 25 議案第 16 号 令和 3 年度芦北町有温泉事業特別会計予算
- 第 26 議案第 17 号 令和 3 年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算
- 第 27 議案第 18 号 令和 3 年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算
- 第 28 議案第 19 号 令和 3 年度芦北町水道事業会計予算
- 第 29 議案第 20 号 芦北町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定
について
- 第 30 議案第 21 号 芦北町災害復興基金条例の制定について
- 第 31 議案第 22 号 芦北町職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例の
制定について
- 第 32 議案第 23 号 芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に
関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 第 33 議案第 24 号 芦北町土地開発基金条例の一部を改正する条例の制定に
ついて
- 第 34 議案第 25 号 芦北町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定に
ついて
- 第 35 議案第 26 号 芦北町介護保険条例の一部を改正する条例の制定につい
て
- (一括議題＝日程第 36 から日程第 39 まで)
- 第 36 議案第 27 号 芦北町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び
運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の
制定について
- 第 37 議案第 28 号 芦北町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、

設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について

第38 議案第29号 芦北町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について

第39 議案第30号 芦北町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例の制定について

第40 議案第31号 芦北町文化財保護審議会条例の一部を改正する条例の制定について

第41 議案第32号 芦北町薩摩街道佐敷宿交流館の指定管理者の指定について

第42 議案第33号 芦北町女島活力推進センターの指定管理者の指定について

第43 議案第34号 芦北町高齢者生活福祉センターの指定管理者の指定について

第44 議案第35号 芦北町水産物直売施設の指定管理者の指定について

第45 議案第36号 芦北町吉尾温泉公衆浴場の指定管理者の指定について

第46 議案第37号 芦北町物産館の指定管理者の指定について

第47 議案第38号 芦北町御立岬公園の指定管理者の指定について

第48 議案第39号 芦北町御立岬公園釣り場の指定管理者の指定について

第49 議案第40号 芦北町大野温泉センターの指定管理者の指定について

第50 議案第41号 古石地区生涯学習センターみどりの里の指定管理者の指定について

(散 会)

2 出席議員（15人）

1番 楠 原 清 照 君
3番 林 田 燿 宏 君
5番 宮 内 道 則 君
7番 古 村 逸 男 君
10番 元 山 秀 志 君

2番 長 口 隆 君
4番 坂 本 登 君
6番 寺 本 順 一 君
9番 前 田 徹 一 君
11番 平 松 洋 一 君

12番 川 尻 成 美 君
14番 岡 部 恵美子 君
16番 宮 尾 秀 行 君

13番 寺 本 修 一 君
15番 草 野 安 道 君

3 欠席議員（1人）

8番 白 坂 康 浩 君

4 説明のため出席した者の職氏名（17人）

町 長	竹 崎 一 成 君	副 町 長	藤 崎 正 司 君
教 育 長	岩 田 繁 義 君	総 務 課 長	松 本 俊 造 君
企画財政課長	川 尾 敏 浩 君	税 務 課 長	元 山 俊 治 君
住民生活課長	田 渕 耕 一 君	福 祉 課 長	内 田 照 也 君
健康増進課長	田 中 公 広 君	農林水産課長	佐 竹 貴 幸 君
商工観光課長	釜 辰 信 君	建 設 課 長	鎌 倉 博 之 君
上下水道課長	杉 本 芳 郎 君	会 計 管 理 者	福 田 貴 司 君
教 育 課 長	白 坂 達 也 君	生涯学習課長	福 井 成 昭 君
コミュニティセンター課長	志 水 哲 治 君		

5 職務のため出席した事務局職員の職氏名（2人）

議会事務局長	長 崎 十三男 君	次長(課長補佐)	田 代 忍 君
--------	-----------	----------	---------

議長諸般の報告

- 1 例月現金出納検査結果報告書（別紙のとおり）
- 2 水俣芦北広域行政事務組合議会定例会
期 日 令和2年12月18日（金）
場 所 水俣芦北広域行政事務組合多目的ホール
議 題 ・令和元年度水俣芦北広域行政事務組合一般会計歳入歳出決算認定について（可決）
・令和元年度水俣芦北広域行政事務組合一般会計補正予算（第2号）（可決）
- 3 熊本県町村議会議長会第4回理事会議
期 日 令和2年12月25日（金）
場 所 熊本県市町村自治会館
議 題 令和3年度事業計画及び予算案協議
- 4 熊本県町村議会議長会第5回理事会議
期 日 令和3年2月3日（水）
場 所 熊本県市町村自治会館
議 題 議長会研修及び第71回定期総会の運営協議
- 5 熊本県町村議会議長会第71回定期総会
期 日 令和3年2月19日（金）
場 所 ホテル熊本テルサ（熊本市）
議 題 ・会務報告
・令和元年度歳入歳出決算の認定（認定）
・令和3年度事業計画及び歳入歳出予算（可決）
・各郡提出要望の件
・宣言（可決）
・決議（可決）

令和3年3月2日

芦北町議会議長 宮 尾 秀 行

芦町監第34号
令和3年2月4日

芦北町議会議長 宮 尾 秀 行 様

芦北町監査委員 井 川 良 一

芦北町監査委員 古 村 逸 男

例月現金出納検査の結果に関する報告の提出について

地方自治法第235条の2第1項の規定により例月現金出納検査を実施したので、同条第3項の規定により、その結果に関する報告を下記のとおり提出します。

記

1 検査の対象

会計管理者の権限に属する現金（歳計現金、一時借入金及び基金並びに歳入歳出外現金）の出納及び保管

2 検査現在期日

令和3年1月31日

3 検査実施日

令和3年2月4日

4 検査の結果及び意見

検査現在期日における歳計現金及び基金並びに歳入歳出外現金（一時借入金なし）の保管状況は、預金通帳、保管現金及び現金保管状況一覧表と照合した結果すべて符合し相違ないこと及び適正に処理されていることを確認した。

また、出納事務については、現金出納にかかる証拠書類及び関係帳表と照合、検査の結果、計数に誤りはなく何ら不正非違の点も見受けられず、すべて適正に処理されていることを認めた。

なお、参考まで検査現在期日における現金の現在高は、次のとおりである。

一般会計・特別会計	歳 計 現 金	735,991,751 円
	一 時 借 入 金	0 円
	基金に関する現金	3,968,871,612 円
	歳入歳出外現金	85,467,238 円
	計	4,790,330,601 円
水道事業会計		289,397,896 円

開会 午前１０時００分

-----○-----

○議長（宮尾秀行君） おはようございます。

ただいまから令和３年第２回芦北町議会定例会を開会します。

白坂君から欠席届が出ております。

これより本日の会議を開きます。

お手元に配付の議事日程にしたがって会議を進めてまいります。

-----○-----

第１ 会議録署名議員の指名

○議長（宮尾秀行君） 日程第１「会議録署名議員の指名」を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第１２５条の規定により、３番 林田君
及び４番 坂本君の２名を指名します。

-----○-----

第２ 会期の決定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第２「会期の決定について」を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、議会運営委員会からの答申に基づき、本日から３月１２日までの１１日間にしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、本定例会の会期は、本日から３月１２日までの１１日間に決定しました。

-----○-----

第３ 諸報告

○議長（宮尾秀行君） 日程第３「諸報告」を行います。

例月現金出納検査結果、閉会中に出席した議長諸般の報告及び町長の行政報告の内容は、お手元に配付のとおりです。

以上で、諸報告を終わります。

-----○-----

第 ４ 認定第 １号 令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算の認定について

第 ５ 認定第 ２号 令和元年度芦北町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の
認定について

第 ６ 認定第 ３号 令和元年度芦北町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定
について

第 ７ 認定第 ４号 令和元年度芦北町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の
認定について

第 8 認定第 5 号 令和元年度芦北町生活排水処理事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第 9 認定第 6 号 令和元年度芦北町有温泉事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第 10 認定第 7 号 令和元年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第 11 認定第 8 号 令和元年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第 12 議案第 63 号 芦北町地方創生臨時基金条例の制定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第 4、認定第 1 号「令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算の認定について」から日程第 12、議案第 63 号「芦北町地方創生臨時基金条例の制定について」までは、議会運営委員会の答申に基づき、一括議題とします。

ただ今一括議題としましたので、この 9 件については令和 2 年第 6 回定例会において、所管の常任委員会に付託し、閉会中の継続審査としておりましたので、委員長及び副委員長に審査結果の報告を求めます。

質疑は、報告が終了した後、一括して行います。はじめに、平松総務常任副委員長。

○総務常任副委員長（平松洋一君） おはようございます。

総務常任委員副委員長報告を申し上げます。

12 月定例会において当委員会に付託され、閉会中の継続審査となっていました認定第 1 号、令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算の認定について及び議案第 63 号、芦北町地方創生臨時基金条例の制定については、2 月 8 日に審査を行いました。

詳細な報告書については、お手元に配付しておりますので、経過と結果について概要を報告します。

まず、令和元年度決算状況について、一般会計の歳入決算総額は 109 億 7,607 万 4,000 円で、対前年度 6 億 4,974 万 3,000 円の増、歳出決算総額は 105 億 4,948 万 8,000 円で、対前年度 6 億 215 万 2,000 円の増となっています。

財政指標については、実質収支比率が 0.9 ポイント増加し、経常収支比率は 0.2 ポイント改善し 92.1% となり、総合的に判断すると健全財政が保たれています。

詳細については、お手元の報告書に記載のとおりです。

以下、審査過程において議論された主なものについて申し上げます。

はじめに、企画財政課では、町総合戦略に基づく地方創生の推進、国際化・国際交流の充実、人材育成、地域・民間団体の支援、公共交通機関の維持等に係る各種事業が実施されています。ふるさと応援寄附金事業では、170品目を超える返礼品を揃え、寄附件数、寄附金額が増える等、町のPRと販路拡大による地域経済の活性化が図られています。また、町国際交流員による国際理解協力事業の実施や、ふれあいツクールバスの路線の新規追加や有償化等の見直しが行われました。

主な質疑を申し上げますと、空き家活用推進事業の補助金について、新たに住む人に対しての補助金なのかとの質疑に対し、補助対象者は空き家の所有者または使用者で、補助内訳は改修費用の上限30万円、不要物撤去に上限20万円交付しているとの答弁がありました。

次に、税務課では、地方税法や関連法令等に基づき、厳正かつ公正・公平な課税、徴収及び地籍調査終了後の修正業務等が行われています。町税の収納状況については、現年分、滞納繰越分を合計した収納率は前年度比で0.28%増となり、滞納整理方針に基づく預貯金等の差押えや、納税指導による厳正な滞納処分が効果を上げています。

主な質疑を申し上げますと、不納欠損の137件、27人の税目毎の内訳はどのようなになっているかとの質疑に対し、町民税が4人で32万3,290円、固定資産税が17人で46万7,200円、軽自動車税が6人で4万2,000円であったとの答弁がありました。

次に、会計室では、公金の安全かつ適正な管理を行うため、収入・支出に係る審査、収納、支払いの効率的な出納業務が行われております。歳入においては、収入印紙等購入基金繰入金が芦北地域振興局売店の閉鎖により、熊本県証紙の販売が増加し、前年度比20.6%の増となっています。

次に、議会事務局では、議会費と監査委員費が執行され、ほとんど経常的な経費となっています。議会費においては、議員1名の欠員による報酬等の執行残により不用額が生じたとの説明がありました。

次に、総務課では、消防防災対策、交通安全対策、防犯対策、職員の人材育成、庁舎維持管理事業、財産管理事業をはじめ、各種事業が行われています。消防防災対策事業では、地域防災計画の見直しや芦北町総合防災マップの更新が行われました。また、財産管理事業では、町有施設の長寿命化や予防保全を行うため、芦北町個別施設計画の策定に向けて、施設カルテが作成されています。

主な質疑を申し上げますと、自主防災組織について、現在、49組織ということであるが、今後の組織化の見込みはどうかとの質疑に対し、地域防災力の向上を目指し、未設置の地区の組織化については、行政区長を通じ、アプローチしていくと

の答弁がありました。

以上のことから、審査の結果、当委員会に付託されました認定第1号、令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算の認定については、予算議決の趣旨と目的に従って、適正な事業が実施されたものと判断し、全会一致で認定すべきものと決しました。

次に、議案第63号、芦北町地方創生臨時基金条例の制定について申し上げます。本条例は、新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を財源として、災害時等特別資金利子補給補助金の令和3年度以降の支出に充当するために基金を積み立てることを目的に制定するもので、令和2年度に6,600万円を積み立てて、交付金を有効に活用していくとの説明がありました。

主な質疑を申し上げますと、利子補給の対象となる借入件数と実績額についての質疑に対し、令和2年度末までの借入金が対象となるが、昨年12月末までの実績は117件、15億9,606万2,000円であるとの答弁がありました。

以上のことから、審査の結果、当委員会に付託されました議案第63号、芦北町地方創生臨時基金条例の制定については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、総務常任副委員長報告を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 次に、宮内建設経済常任委員長。

○建設経済常任委員長（宮内道則君） おはようございます。

建設経済常任委員長報告を申し上げます。

12月定例会において、当委員会に付託され、閉会中の継続審査となっていました認定第1号、令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算の認定について及び認定第4号、令和元年度芦北町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について、ほか2件の特別会計の決算認定については、現地調査も含めて、2月12日及び15日に審査を行いました。詳細な報告書については、お手元に配付しておりますので、経過と結果について概要を報告します。

主な質疑を申し上げますと、浄化槽設置工事、浄化槽設置補助金の不用額が多いのはなぜかとの質疑に対し、昨年までの実績相当で50基を予算計上していたが、これを下回ったためであるとの答弁がありました。

次に、農業集落排水事業特別会計では、芦北地区農業集落排水施設の更新に係る事業計画が策定され、適切な施設管理による公衆衛生の向上を図るための取組がなされています。また、接続促進に努められ、15件の新規接続があっています。

次に、生活排水処理事業特別会計では、田浦地区及び湯浦、湯南団地の浄化槽維持管理が行われています。

主な質疑を申し上げますと、不納欠損処分したのはどのようなものかとの質疑が

あり、該当者は２人で、死亡が確認された方と、住所が不明な方について行ったとの答弁であり、委員からは、公正・公平の観点から今後も徴収努力をお願いしたいとの要望がありました。

次に、商工観光課では、商工業の振興について、プレミアム付商品券発行に対する補助を総額２億２,０００万円分発行する等、地域経済の活性化に取り組まれており、また旧計石小学校への進出協定が２件と、小田浦地区生涯学習センターへの進出協定１件が締結されています。

次に、観光振興対策事業では、主要観光資源のＰＲとともに、八代市氷川町と連携した観光客誘致のイベント等に取り組まれています。また、観光うたせ船については、観光うたせ船等総合振興補助金を創設し、乗船環境の向上を図る取組が行われています。

主な質疑を申し上げますと、八代圏域つながるインターンシップ推進事業によって、若者が圏域に定着しているといえる具体的なものはあるかとの質疑に対し、正確な数値としてはないが、合同就職面談会等を実施したことにより、芦北高校生の約半数は圏域に就職しているとの答弁がありました。

次に、町有温泉事業特別会計について申し上げます。各温泉施設では、配管洗浄や給水ポンプのオーバーホール、照明器具の取替等、施設の適正な維持管理を行い、利用者の入浴環境改善と利用便の向上に努められており、総入浴者数は前年度比１．７％増の２７万３,２１４人となっています。

次に、農林水産課について申し上げます。まず、農業の振興についてであります。農地集積集約化事業の新たな取組として、芦北町農業委員会農地幹旋事業が整備されています。

次に、林業の振興については、町産材を使用した住宅の建築に対して補助金が交付され、木育事業では町産材を使用した木のおもちゃ贈呈の取組が行われています。

次に、漁業の振興では、芦北町漁協の主力品である田浦銀太刀に続く第２のブランド商品として、サワラの地域ブランド構築に対する支援を行い、漁業者の収益向上と漁協の販売事業強化の取組が行われています。

主な質疑を申し上げますと、有害鳥獣被害について、山間地域だけではなく、身近な問題となってきたが、今後の対策をどう考えているかとの質疑に対し、重要な課題として捉えており、今後は捕獲だけではなく、農地に近づかないような対策や、ＩＣＴを活用し、捕獲者に負担がかからないような施策等により、作物被害の低減に努めていくとの答弁がありました。

○議長（宮尾秀行君）　しばらく休憩します。

—————○—————

休憩 午前１０時１８分

再開 午前１０時１８分

—————○—————

○議長（宮尾秀行君） 会議を再開します。

○建設経済常任委員長（宮内道則君） 大変失礼いたしました。長文化でございますので、簡素化にして答弁しておりますので御理解をいただきたいと思います。

以上、当委員会に付託されました認定第１号、令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算認定について及び認定第４号、令和元年度芦北町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について、ほか２件の特別会計の決算認定については、予算議決の趣旨と目的に従って適正な事業が実施されたものと判断し、全会一致をもって認定すべきものと決しました。

以上で、建設経済常任委員長報告を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 最後に、林田文教厚生常任委員長。

○文教厚生常任委員長（林田耀宏君） おはようございます。

文教厚生常任委員長報告を申し上げます。

１２月定例会において、当委員会に付託され、閉会中の継続審査となっていました認定第１号、令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算の認定について及び認定第２号、令和元年度芦北町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について、ほか３件の特別会計の決算認定については、２月９日及び１０日に審査を行いました。詳細な報告書については、お手元に配付しておりますので、経過と結果について概要を報告します。

まず、生涯学習課では、トップアスリート合宿誘致事業として、新体操日本選抜団体チームのフェアリージャパンＰＯＬＡを招聘して、県内クラブ選出の技術力向上等を図っており、そのほか生き生き大学、子ども体験学習、文化祭、演能会等を実施されています。また、新芦北町誌編さん事業ではダイジェスト版の刊行に向け取り組んでいます。

主な質疑として、地域学校協働本部事業の事業内容と、その効果はとの質疑に対し、学習支援、環境整備支援、安全支援、心の支援について、学校の要請に応じてコーディネーターが支援員を派遣しており、効果としては、学校だけではなく地域で子どもを育てることによる地域の活性化と、学校における教師の負担軽減につながっているとの答弁がありました。

次に、健康増進課では、芦北町健康づくり推進条例に基づき、各家庭、個人の主体的取組と、地域や団体等が連携を図り協働するという二本柱を基本理念として、各種事業を実施しており、新たな事業として、町内の医科歯科医療機関の医師との

連携会議の設置や、一般不妊治療の治療費一部助成及び検診事業においては、乳がん及び子宮がんの個別がん検診を行う等、健康管理と予防に取り組んでいます。

主な質疑として、予防接種事業や検診事業で、受診者数が減っているがなぜかとの質疑に対し、全体的に対象者も減っているため、受診率では一部を除き変動は少ない状況であるが、これからも受診勧奨に力をいれていくとの答弁がありました。

次に、福祉課では、総合計画に掲げる基本目標、「地域で守り育てるまちづくり」を目指して、各種事業を実施しています。第7期芦北町老人保健福祉計画・介護保険事業計画等、各種計画に基づき、高齢者福祉サービス、障がい福祉サービスが提供され、日常生活及び社会生活が総合的に支援され、18歳までの子ども医療費無料化等、子どもの健全な育成と子育て支援に努められています。

主な質疑として、避難行動要支援制度の進捗状況はとの質疑に対し、登録者数は285人で、名簿については随時登録更新を行い、関係者に周知しているとの答弁がありました。

介護保険事業特別会計では、介護や支援の必要な方に対する適切な保険給付や、食の自立支援事業等の介護予防事業を行っています。

主な質疑として、地域密着型介護予防サービス給付費が減少しているのはなぜかとの質疑に対し、要支援2の利用者の介護度が上がり、地域密着型介護サービス給付へ移行したためとの答弁がありました。

次に、コミュニティセンター課は、生涯学習の充実、青少年の健全育成、文化振興に係る各種事業を実施しています。町民講座を新たに1講座開講し、全34講座が開催され、総合コミュニティセンター整備事業については、令和2年度の開館に向け整備を行っています。

主な質疑として、町民講座の中で人気のある講座と新規講座は何かとの質疑に対し、人気があるのはヨガ講座であり、新たに始めた講座はクラシックギター講座であるとの答弁がありました。

次に、教育課では、論語を通した徳育の推進や、学校現場に精通した指導主事を配置して、連携強化等に取り組んでおり、またICT機器を活用した授業への積極的な取組については、全小中学校への無線LANと教育用タブレット端末の整備等、さらに子どもたちを中心とした、いじめ防止対策の研究を小中連携で実施する等、きめ細やかな指導といじめ防止等に努めています。

主な質疑として、ICT化により書く力の衰退、鉛筆を持って書くことの重要性に対する懸念は考えられないかとの質疑に対し、教師の板書や子どものノートの必要性は、時代が変わっても変わらない大切な不易な部分であると考えている。書く活動については、今後も重視していくよう、学校現場で指導していきたいとの答弁

がありました。

奨学資金貸付事業特別会計では、新たに大学生12人を奨学生として認定し、計33人へ奨学資金の貸付が行われ、経済的な理由による奨学困難者への便宜が図られています。

主な質疑として、滞納状況と不納欠損についての質疑に対し、滞納者は17人で、502万6,800円となっており、不納欠損はないとの答弁がありました。

次に、住民生活課については、ごみの減量化の推進として清掃センターの運営をはじめ、不法投棄対策では、環境衛生巡視員による巡視活動等を引き続き実施し、そのほか防疫、地球温暖化、生活環境対策事業にも取り組んでいます。また、水俣病対策では、「うたせ船で水俣病を学ぶ講座」や「水俣病発生地域高齢者在宅支援事業」等を実施し、地域間交流及び地域活性化の向上に努めています。

主な質疑として、水俣病対策については、これまで女島活力推進センターゆめもやいの管理運営や情報発信、各種支援事業等を実施してきた。その中で、もやい直しのきっかけとなったのは差別の解消であったが、現在も同様の事案はあるかとの質疑に対し、そのような報告はあつてないとの答弁がありました。

次に、国民健康保険事業特別会計事業勘定では、健康管理と疾病の早期発見・早期治療を目的とした人間ドックの助成や特定健診の受診勧奨を行うとともに、18歳以下の子どもに係る均等割の減免を実施し、子育て世代の生活支援を図っています。

国民健康保険事業特別会計の直診勘定では、吉尾温泉診療所において、へき地医療支援機構等からの支援を受け、派遣医師による診療を行っています。

主な質疑として、事業勘定における滞納繰越の近年の推移はどうなっているかとの質疑に対し、平成30年度4,490万円、令和元年度3,549万円、令和2年度は3,042万円と、年々減少しているとの答弁がありました。

最後に、後期高齢者医療事業特別会計については、熊本県後期高齢者医療広域連合が保険者となっており、町では申請や相談等の窓口業務及び保険料の徴収等を行っています。

主な質疑として、被保険者は全町民の何パーセントになるかとの質疑に対し、約26%であるとの答弁がありました。

以上のことから、審査の結果、当委員会に付託されました認定第1号、令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算の認定について、及び認定第2号、令和元年度芦北町国民健康保険事業特別会計事業歳入歳出決算の認定について、ほか3件の特別会計の決算の認定については、予算議決の趣旨と目的に従って適正な事業が実施されたものと判断し、全会一致で認定すべきものと決しました。

以上で、文教厚生常任委員長報告を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 報告が終わりました。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから日程第4、認定第1号から日程第12、議案第63号までを順次討論を行い、採決します。

日程第4、認定第1号、令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算の認定について、討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから認定第1号を採決します。

お諮りします。委員長及び副委員長報告は原案認定であります。報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、認定第1号は原案のとおり認定することに決定しました。

日程第5、認定第2号、令和元年度芦北町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について、討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから認定第2号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案認定であります。委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、認定第2号は原案のとおり認定することに決定しました。

日程第6、認定第3号、令和元年度芦北町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について、討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから認定第3号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案認定であります。委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、認定第3号は原案のとおり認定することに決定しました。

日程第7、認定第4号、令和元年度芦北町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について、討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから認定第4号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案認定であります。委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、認定第4号は原案のとおり認定することに決定しました。

日程第8、認定第5号、令和元年度芦北町生活排水処理事業特別会計歳入歳出決算の認定について、討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから認定第5号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案認定であります。委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、認定第5号は原案のとおり認定することに決定しました。

日程第9、認定第6号、令和元年度芦北町有温泉事業特別会計歳入歳出決算の認定について、討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから認定第6号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案認定であります。委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、認定第6号は原案のとおり認定することに決定しました。

日程第10、認定第7号、令和元年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計歳入歳出

決算の認定について、討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから認定第7号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案認定であります。委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、認定第7号は原案のとおり認定することに決定しました。

日程第11、認定第8号、令和元年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について、討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから認定第8号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案認定であります。委員長報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、認定第8号は原案のとおり認定することに決定しました。

日程第12、議案第63号、芦北町地方創生臨時基金条例の制定について、討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第63号を採決します。

お諮りします。副委員長報告は原案可決であります。報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第63号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第13 議案第5号 令和2年度芦北町一般会計補正予算（第10号）

○議長（宮尾秀行君） 日程第13、議案第5号「令和2年度芦北町一般会計補正予算（第10号）」を議題とします。

本案について説明を求めます。川尾企画財政課長。

○企画財政課長（川尾敏浩君） おはようございます。

それでは、議案第5号、令和2年度芦北町一般会計補正予算（第10号）について御説明いたします。

今回の補正は、予算の総額に歳入歳出それぞれ16億9,473万8,000円を追加し、総額を230億5,526万円とするものです。また、第2条で繰越明許費、第3条で債務負担行為、第4条で地方債の補正をそれぞれ計上しております。

今回、コロナ禍、豪雨災害による事業の縮小、中止や入札差額等の実績見込みにより減額補正を行っております。また、地方債、国庫支出金等の特定財源の変更、確定に伴い、財源組替も行っております。これらにつきましては、主なもののみ説明させていただきたいと思います。

それでは、予算書をもとに歳出から説明を申し上げます。

予算書の18ページをお開きください。

款2目1一般管理費の459万7,000円は、応募認定退職者1名分の退職手当組合特別負担金です。

目5財産管理費の2億2,436万1,000円は、土地開発基金の処分に係る町有施設整備基金積立金と、災害寄附金及びふるさと納税を財源とした災害復興基金積立金です。また、ふるさと応援寄附金積立金を2,440万円減額しています。今回、ふるさと応援寄附金を歳入において2,110万円増額しておりますけれども、災害支援として指定されたふるさと応援寄附金4,550万円を災害復興基金に積み立てるために、差し引き2,440万円の減額となるものであります。

目6企画費の節13、111万1,000円は、ふるさと納税の増額に伴うポータルサイト利用料です。

目16豪雨災害対策費の4,608万円の減額は、災害派遣職員に係る人件費等で、派遣の受け入れが10人少なかったことに伴い減額するものです。

19ページをお願いします。

款3項1目2障がい者福祉費の306万1,000円は、放課後等デイサービスの利用増による扶助費の増額です。

目4高齢者福祉費の383万6,000円は、老人ホーム入所者増による委託料の増額です。

項2目1児童福祉総務費の節18、303万7,000円は、新型コロナウイルス感染症対応で、臨時開所した事業者に対する放課後児童健全育成事業補助金と、豪雨災害で被災した家庭に対する放課後児童クラブ利用者支援事業補助金です。

目2児童措置費の374万7,000円は、認定こども園の入所児童数が当初見込みより増加したことによる保育所運営費等委託料の増額です。

項3目1 国民年金事務取扱費の10万6,000円は、法律改正に伴うシステム改修委託料です。

項4目2 豪雨災害救助費の4億1,453万6,000円の減額は、住宅応急修理件数の実績見込みが減となることから、被災者住宅応急工事費を減額するものです。

款4項1目9 豪雨災害廃棄物処理費の7億9,340万2,000円は、公費解体及び自費解体の実績見込み件数増に伴う委託料と償還補助金の増額です。

20ページをお願いします。

款5項1目3 農業振興費の200万円は、大川内地区が実施します田植え機整備に係る中山間農業モデル地区支援事業補助金です。

目6 かんがい排水改良事業費の232万9,000円は、国見地区基盤整備に係る換地委員報酬と県への負担金です。

目8 中山間地域等直接支払事業費の44万8,000円は、集落の協定面積変更に伴う増額です。

目9 中山間地域総合整備事業費の2,169万8,000円は、県の事業費確定による負担金の増額です。

目13 豪雨災害対策費の2,314万1,000円は、被災した農業用機械の修繕、再取得に対する申請件数増による、強い農業・担い手づくり総合支援事業の増額です。

項2目2 林業振興費の283万8,000円は、捕獲頭数の増加による有害鳥獣被害防止対策事業費補助金の増額です。

目5 豪雨災害対策費の246万9,000円は、国直轄の治山事業に伴う町実施分で、女島地区の土地境界測量設計業務委託料と、5地区の建設機械等借上料です。

21ページになります。

款6目3 観光費の節27 繰出金の1,175万円は、入浴料の減収を補填する町有温泉事業への繰出金です。

目4 芦北海浜総合公園管理運営費の400万円の減額は、豪雨災害により公園が被災し閉園となったことに伴う経費の減額です。

22ページをお願いします。

款7項3目4 砂防費の2,214万8,000円は、県が実施する急傾斜地崩壊対策事業への負担金で、当初予算計上分で実施できない箇所と、災害で新たに実施する箇所を相殺し、増額補正するものです。

目5 海岸保全の427万円も砂防費と同様、事業箇所及び事業費の変更に伴う増額です。

目6 豪雨災害対策費は、花東排水機場災害復旧事業で借り上げている発電機の使

用期間延長に伴う増額です。

23ページをお願いします。

項6目1住宅管理費の2,141万4,000円の減額は、豪雨災害により事業実施時期を先送りしたことによる減額です。

目2住宅建設費の6,234万9,000円は、土地開発基金で先行取得した地域優良賃貸住宅建設用地の購入費です。

款8項1目4災害対策費の265万9,000円は、災害に伴い増加した防災行政無線戸別受信機の設置調整に係る手数料です。

款9項1目2事務局費の219万2,000円は、Wi-Fi環境が整っていない小中学生の家庭に貸与するモバイルルーター購入費です。

項2目1学校管理費の541万1,000円は、佐敷小学校被災と仮設住宅からの送迎追加によるスクールバス運転業務委託料の増額です。

項4目2社会教育センター費の388万4,000円の減額は、豪雨災害により被災した社会教育センターの運営に係る経費の減額です。

24ページをお願いします。

目3公民館費の628万2,000円の減額は、新型コロナ禍の影響により、事業を中止したことに伴う減額です。

25ページになります。

目4図書館費の2,443万8,000円の減額は、新型コロナ禍の影響により事業を中止したことに伴う減額と、コミュニティセンター管理備品の入札差額による減額です。

目12になります。豪雨災害対策費の401万7,000円は、釜公民館と諏訪公民館の災害復旧に係る補助金です。

款10項1目1農地災害復旧費の209万3,000円は、県営事業で実施する災害復旧の事業費確定に伴う負担金の増です。

26ページをお願いします。

款10項2目1公共土木施設災害復旧費の1億2,499万4,000円は、町道川嶽線の事業費追加に伴う国への負担金の増です。

目2都市災害復旧費の9億2,720万円は、災害査定が終了し、宅地内堆積土砂撤去の事業費が確定したことによる委託料の増額です。

項3目1公立学校施設災害復旧費の265万4,000円は、佐敷小学校の校舎の工事期間延長に伴う仮設校舎借上料の増です。

款11項1の元金と利子は、町債の借り換えと繰上償還による増額と減額となります。

次に、歳入について説明いたします。

予算書は１２ページになります。

款１町税は、災害に係る個人住民税と固定資産税の減免分をそれぞれ減額しております。

款１０地方交付税の減額は、災害派遣職員の受け入れが少なかったことに伴い、特別交付税を減額するものです。

款１２目１農林水産業費分担金は、中山間地域総合整備事業と国見地区基盤整備に係る分担金です。

目２民生費負担金は、老人ホーム入所者負担金の増と、災害による保育料の減免等に係る保育所等利用者負担金の減です。

款１３項１目５商工観光使用料の５,９９０万９,０００円の減額は、芦北海浜総合公園や御立岬公園において、豪雨災害や新型コロナ禍により施設使用料が減少したことによる減額です。

１３ページをお願いします。

款１４項１目１民生費国庫負担金の１,７２１万円は、障がい児入所給付費の補正と保育所運営費に係る国の負担割合の改正による増額です。

目３災害復旧費国庫負担金の３億２,３９７万３,０００円の減額は、災害査定結果や宅地内堆積土砂撤去事業の精査をしたことに伴う減額であります。

項２目１総務費国庫補助金の２,７１０万２,０００円は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金で、補助事業に充当する第２次分及び第３次国分を増減し、第３次分を既存事業に充当するものであります。

目２民生費国庫補助金の４９８万２,０００円は、災害による障がい福祉サービス利用料減免に係る特例補助金と、放課後児童健全育成事業に係る交付金及び保育料減免に係る臨時特例補助金です。

目３衛生費国庫補助金の５億２,５６１万５,０００円は、公費解体及び災害廃棄物処理に係る補助金です。

目６教育費国庫補助金の２１７万８,０００円は、モバイルルーター購入に係る補助金です。

１３ページから１４ページになりますが、目８災害復旧費補助金の３億８,０４３万６,０００円は、宅地内堆積土砂撤去事業に係る都市災害給付費補助金の増と、道路橋りょうに係る査定設計委託等の補助金の減、及び仮設校舎リースに係る公立学校施設災害復旧費補助金です。

項３目２の民生費委託金の１０万６,０００円は、国民年金システム改修委託料に係る委託金です。

款 15 項 1 目 1 民生費県負担金の節 3、72 万 6,000 円は、障がい通所給付費扶助費に係る県負担金です。

節 6 の 4 億 1,453 万 6,000 円の減額は、住宅応急修理件数の実績見込みが減となることから、県負担金を減額するものであります。

項 2 目 1 総務費県補助金 22 万 1,000 円は、放課後児童クラブ利用者支援事業に充当します球磨川流域復興基金です。

目 2 民生費県補助金 351 万 2,000 円のうちの増額分は、保育所運営事業と放課後児童健全育成事業に係る補助金です。

目 3 衛生費県補助金の 176 万 7,000 円は、石灰等の購入に係る疾病予防費補助金です。

目 4 農林水産業費県補助金の 140 万 6,000 円は、そこに記載の 3 つの事業にそれぞれ充当するものであります。

15 ページです。

項 3 目 3 農林水産業費委託金の 5 万 8,000 円は、国見地区基盤整備換地業務に係る委託金です。

款 17 目 1 寄附金の 9,741 万 1,000 円は、ふるさと応援寄附金の増額見込み額と、図書購入に係る指定寄附金、及び今回の災害に対して寄せられました災害復興寄附金です。

款 18 繰入金、目 1 町有施設整備基金繰入金は地域優良賃貸住宅建設用地購入に、目 8 ふるさと応援寄附金基金繰入金はポータルサイト利用料に充当するものです。

目 12 財政調整基金繰入金は公共土木施設災害復旧事業の財源に、目 13 土地開発基金繰入金は同基金の処分により、それぞれ繰り入れを行うのです。

款 19 繰越金は、一般財源の不足額に充てております。

16 ページをお願いします。

款 20 雑入の増額分、災害対策費用保険金は台風 9 号及び 10 号の出動等に対する保険金で、単県道路改良事業負担金返還金は県が令和元年度から令和 2 年度に繰り越したものの、災害により未実施となった事業に係る返還金であります。

款 21 町債は、それぞれの事業費の増減を調整しているものであります。

なお、目 1 総務債の減収補填債は、新型コロナウイルスによる地方消費税交付金等の減収見込み分、目 8 節 7 の歳入欠かん債は個人住民税等の災害減免に対して発行をするものであります。

次に、6 ページをお開きいただきたいと思います。

第 2 表、繰越明許費補正について説明いたします。

款 2 総務費、項 1 総務管理費の旧白木小学校体育館災害復旧事業から、7 ページ

の款１０災害復旧費、項３文教施設災害復旧費の湯浦温泉射撃場災害復旧事業まで３２事業、合計６３億７,６８２万８,０００円は、年度内完了が困難であるため、翌年度へ繰り越すものであります。

８ページをお願いいたします。

第３表、債務負担行為補正でございます。

令和３年度からの指定管理に伴う運営委託料が、薩摩街道佐敷宿交流館運営委託料から古石地区生涯学習センター運営委託料までの計６件と、利子補給に伴う新型コロナウイルス対策緊急支援資金利子補給補助金、ほか２件の計９件、限度額合計３億４,７３８万２,０００円を追加し、また変更としまして、令和３年度までとしていました芦北町紹介動画制作委託料は、期間を令和４年度まで延長し、限度額を４１９万２,０００円とするものであります。

９ページをお願いしたいと思います。

第４表、地方債補正であります。

減収補填債ほか２件、１億１００万円の追加と、臨時財政対策債から災害廃棄物処理対策事業まで１５件、限度額に１０億３,５３８万３,０００円を増額し、４０億１,５１８万３,０００円とするものであります。

以上で、一般会計補正予算（第１０号）の説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。前田君。

○９番（前田徹一君） ２、３質問いたします。

１９ページの豪雨災害廃棄物処理なんですけれども、昨年度の議会では公費解体が１６０何件かなというふうに説明があったかと思えますけれども、今回また３００何件に増えて、これは被災者にすれば大変いいことだなというふうに思えますけれども、この増えた原因ですね、何かあったのかなと思ひまして、その説明をお願いします。

あとは、土地購入なんですけれども、これも昨年度の初年度だったかな、湯浦のあのボーリング場近くの土地購入というふうに私はこれを思っているんですけれども、あの辺が今度、浸水しまして、１メートル以上浸かったかなと、あの辺は思うんですけれども、今後のですね、その土地の町営住宅が建つということで、どのくらいの計画がなされておるのかなというふうに、それを伺いたいと思います。

あと１点は、スクールバスの業務委託なんですけれども、補正なんですけれども、結構大きい金が出ていますので、この辺まで説明があったかなと思えますけれども、ちょっと聞き逃したかなと思ひますので、再度お願いをしたいと思います。

以上３点、お願いします。

○議長（宮尾秀行君） 田渕住民生活課長。

○住民生活課長（田渕耕一君） 公費解体の件数が増えた要因といたしますか、原因のお尋ねでございますけれども、現在、申請のほうが350件ほど上がってきております。住家と、今回、非住家ですね、空き家等がもう全体の半数近く上がってきております。要因としては、空き家が非常に増えたということが一つの要因でございます。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） 鎌倉建設課長。

○建設課長（鎌倉博之君） 湯浦地区の地域優良賃貸住宅建設事業についてでございますけれども、建設予定地がですね、少し浸水したということですね、その今後どうするのかというこの質問でございますが、今後は設計のほうを行っていきます。ただ、あそこの造成工事も計画しております。嵩上げて、今後、浸水しないような造成工事を計画して、その後、建築工事に入りたいというふうに予定しております。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 白坂教育課長。

○教育課長（白坂達也君） スクールバスの運転業務委託料の増額についてでございます。まず、佐敷小学校からですね、田浦小中学校への送迎分が増加の一つの要因。それから、バスのピストン輸送を、佐敷小学校から田浦小中学校に都合、1日20台、往復ピストンでしております。その間にですね、交通指導員を配置をするようにということで、警察署から指導を受けましたので、その増額分。それから、女島の仮設団地から佐敷小学校・中学校、それから大野小への児童生徒の送迎の追加分。それから、既存のバス路線の運行距離がですね、台数も増え、それからピントン輸送等しておりますので、その運行距離が増加した分。それから、災害対応の管理費として、今回、委託料の増額をお願いするものでございます。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） ほかに質疑はありませんか。楠原君。

○1番（楠原清照君） 1点、質問をさせていただきます。

補正予算書の23ページでございますけれども、款の9教育費、項の教育総務費、2の事務局費の、10の需用費の219万2,000円について質問させていただきます。先ほどの財政課長の説明では、家庭学習用ですね、のWi-Fiのモバイルルーターを購入するということでございますけれども、その背景等をもう少し詳しく説明してもらいたいと思います。教育長、いかがでしょうか。

○議長（宮尾秀行君） 岩田教育長。

○教育長（岩田繁義君） 説明をさせていただきます。

背景ということでございますので、国の現在の動きと、それと本町の取組について説明をさせていただいた上で、このW i - F i ルーターの取組について、また説明させていただきたいと思います。

国の動きといたしまして、文部科学省は児童生徒1人1台のタブレット端末と高速通信ネットワークを一体に整備するG I G A構想を掲げておりまして、令和5年度までに整備するよう計画がなされていたところでございますが、コロナ禍における状況を鑑みまして、現在、構想の前倒しとしまして、令和2年度中の整備を各自自治体に求めているところでございます。

本町における小中学校のI C T化の環境整備の状況は、平成21年度から学習者用パソコンや電子黒板等の導入から始まりまして、デジタル教科書やタブレット端末等を早期の段階から導入してきておりました。また、G I G Aスクール構想の前倒しを受けまして、昨年6月の補正予算におきまして、校舎内の高速通信ネットワークの整備費や、9月補正予算におきまして児童生徒数のタブレット端末購入費を計上しておりました。この事業につきましては、本年2月に全ての小中学校で環境整備が整ったところでございます。

この度の補正予算では、来年度から本格的に取り組めますタブレット持ち帰りによる家庭学習用としまして、W i - F i モバイルルーターを整備するもので、昨年調査いたしました通信環境が整っていない御家庭の相当分を、今回整備するものでございます。

○議長（宮尾秀行君） 楠原君。

○1番（楠原清照君） 詳しい説明、本当ありがとうございました。

なるほど、G I G Aスクール構想ですか、このもとにいろんなこの取組をやられておられるということで、ハード面の整備がどんどん進んでおるなというふうに感じました。

これは文科省の指導のもとにですね、いろいろ他の自治体も頑張っておられると思いますけれども、ほかの自治体と比較してですね、本町はどのような状況にあるのかですね、分かる範囲で再度お尋ねしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（宮尾秀行君） 白坂教育課長。

○教育課長（白坂達也君） お答えいたします。

文部科学省が行っております学校における教育の情報化の実態に関する調査というものがありまして、令和元年度の調査をもとにいたしまして、インフラ整備率と、それから教員のI C T活用力を示す教員指導率のスコアを算出いたしまして、I C T教育の専門士が一つ分析を行っております。

その結果といたしまして、全国の自治体数が約1,800ございますけれども、その自治体ランキングで、小学校は全国38位、中学校が33位というふうになっております。また、小規模自治体を除きました小学校5校以上、中学校3校以上の自治体のランキングにおきましては、全国で小学校が第9位、それから中学校が11位というふうになっているデータもございます。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 楠原君。

○1番（楠原清照君） そういう背景があったわけですね。非常に驚きました。正直驚いて、また感心したところでございます。本町のICTの整備状況がですね、全国のトップクラスで先頭を走っておるということですね。これは町長がいつも掲げておられる、すべては次代を担う子どもたちのためにという、このポリシーに非常に合致する先進的かつ積極的な取組であると評価したいと思います。

教育の町芦北としてですね、日本一の教育環境、そして日本一の子どもたちを目指してですね、これからも頑張っていただきたいと思います。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） ほかに質疑はありませんか。川尻君。

○12番（川尻成美君） 2点ほど聞きますが、まず26ページ、款10災害復旧費の都市災害復旧費ですけども、この説明の項目で、堆積した土砂をどこかに持っていくのか、家屋の中から取れるものじゃないというふうに思いますが、ちょっと詳しく、流木の最終処分という形のほうも、金額が大きいものですから、ちょっと詳しく説明いただければと思います。

そして、災害義援金とか寄附金のほうでお尋ねいたしますけども、種類も3つに分かれとるような説明がありました。2億円近い義援金が入っているように、ここにありますが、その義援金の件数ですね、幅も相当あると思いますけども、主なものをお願いしたいと思います。

また、被災された方に配分をされておると思いますけども、何件に配分されたのかということもお伝えください。

○議長（宮尾秀行君） 鎌倉建設課長。

○建設課長（鎌倉博之君） お答えします。

まず、宅地内堆積土砂撤去発注管理業務委託料の中身でございますけれども、現在も宅地内の土砂、あるいはその撤去等を行っておるところでございますが、今後ですね、砂防や治山の事業、また公費解体等、ほかの事業と連携して土砂を排除する必要があります、かなり大規模なものとなってまいります。また、それらには多くのがれきや流木が混じっております。それらの分別や処分等を含めたところでござい

ます。

また、流木の最終処分業務委託料につきましても、今申し上げましたとおり、砂防や治山事業でかなり大規模ながれき、流木等が出てまいります。その分を運搬費、処分費等をあわせた金額を計上し、流木の最終処分場まで持っていきまして処分する費用でございます。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） 義援金のことについて、お答えを申し上げます。

ホームページ等で御確認をいただいていると思いますけれども、今、本町では義援金、それと寄附金、ふるさと納税という3つのカテゴリーですね、浄銭を受け付けとるわけでございます。

義援金でございますけれども、これまで義援金が433件、トータル5,288万969円、受け入れをしてございます。義援金につきましては、被災者の方に配分をいたしますので、これまで第1次配分から第3次配分まで、合計3,796万円を県の義援金とあわせて配分をいたしているところでございまして、義援金の残数は残りの1,492万969円となっております。

また、一般寄附でございますけれども、寄附が216件、7,561万3,279円ということでございますので、現在、両方とも通帳で管理をしてございますので、今回、寄附金のほうは予算化をして、基金のほうに積んでいくというふうなことになるまいります。

それで、先ほどお支払いしたものを申し上げましたけれども、1次でお支払いした額が1,528件で、町の義援金だけで3,287万5,000円、これに熊本県の義援金と災害見舞金を含めると3億6,600万円ほどお支払いをしてございます。2次の支給が1,321件ございまして、町の義援金が487万円お支払いをしてございます。県の義援金とあわせて2億8,121万円、3次配分が、町の義援金が21万5,000円、県の義援金とあわせて311万5,000円というふうなことでございます。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） 質疑じゃありませんけれども、お願いでございますけれども、議会運営委員会でも申し上げましたように、町民の方がこの義援金の使途等、どうなっているのかという伺いが非常に来ておりますので、是非、広報紙で今の答弁なされたことを、ちゃんと表にさせていただいて、表してもらえればと思いますが、よろしく願いいたします。

○議長（宮尾秀行君） ほかに質疑はありませんか。平松君。

○11番（平松洋一君） 先ほどの楠原議員のちょっと関連質問になりますが、23ページ、教育費関係でですね、同じ関連であります、町長は普段から、すべては子どもたちの未来のためにということでおっしゃっておられます。私もこれについては、もう全く、具体的に何をするかといったらですね、子どもたちの教育、こういうところに芦北の今の力を注ぐということが一番大事だろうと思っております。背景についてもですね、先ほど教育長が言われましたけども、その通りでありまして、国も急いどるなという気がしています。GIGA構想なり、時代がものすごく大きく変遷していると。私等、今70代ですけど、60年前にオリンピックがありましたけども、アメリカには何か車があるげなとか、もうどんどんどんどん変わって、今ではその情報がどんどんどん、またコロナという非常に大きな問題がございました。ですから、オンライン授業ができたところとできないところがありました。そういう中で、とにかく急いでやれという話で、こういう話が来ていると思いますが、今回、国家予算でございまして、そのほとんどが国家の予算ですね。国家の予算を今回、先ほど文教委員長ではですね、令和元年度の報告としては3分の1完了をした。令和2年度でタブレットを配ったりして、だいたい落ち着いてきたと。まだ足らんからこしこだということですが、この環境整備のためのあれですが、ちょっと足りない、私としては大丈夫ですかという感じなんですけどですね。それともう一つは、具体的に小学校が何台なのか、中学校が何台なのか、予算からすると、小学校が148万5,000円ですから、中学校の69万円ですかね、かなり小学校が多いのかと思いますが、住宅に住んでおられる方と、個人住宅の方、国の補助金を個人のために消耗品として出して、運用の問題だと思いますが、そこらへんは問題ないんでしょうかということと、具体的な数字をどのような数なのか。それで、今回で完璧に道具としてはですね、環境としては進んでいるのかということと、もう1点はですね、ついでですけど、町のインターネットの環境整備はどうなんでしょうかねと思ってですね。この3つをお願いします。

○議長（宮尾秀行君） 白坂教育課長。

○教育課長（白坂達也君） 今回、お願いしておりますモバイルルーターにつきましては、220台を購入の予定でございます。先ほど教育長からもありましたけれども、6月にそれぞれアンケート調査をいたしまして、その環境にないという数字がですね、約2割程度でございました。その台数分をですね、今回お願いしているところでございます。

それから、運用につきましては、先ほど議員さんの指摘がございましたとおり、各家庭にですね、持ち帰って学習をするということになりますので、もちろん町が

個人に貸し出すという形になりますので、台帳等を整備いたしまして、管理をしたいというふうに思っております。

それから、運用方法につきましても、今後、詳細をですね、作成しまして、今後運用を図っていききたいと思っております。

それから、環境整備につきましては、今回の6月の補正予算でLAN整備、それから9月のタブレット購入をもちまして、全ての各学校でですね、環境整備が整ったというような状況でございます。

○議長（宮尾秀行君） 平松君。

○11番（平松洋一君） 大いにこれは頑張っていたきたいと思っております。

ただ、環境は揃ってもですね、これを指導する立場の方も非常に大事でございますので、今後、教職員の方へですね、どのようにこの問題を共有して進めていくかということも、教育課の大きな課題だと思いますので、是非そこは力を入れて頑張っていたきたいと思います。

これについては、町長、一言何か意気込みがあればですね、お願いしたいと思います。

○議長（宮尾秀行君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） ハード面の整備におきましては、今、熊本県では小学校はトップの位置を占めております。中学校においても2位ということでありまして、そこで今おっしゃったような指導体制がどうかということですが、そのソフト面もですね、きちんと総合評価の中にやっぱり組み込まれておりまして、その対象になっております。さらに充実を図っていききたいと思っております。

○議長（宮尾秀行君） ほかに質疑はありませんか。坂本君。

○4番（坂本 登君） 25ページの図書館費の備品購入費、総合コミュニティセンター管理備品がマイナス、これをもうちょっと詳しくというか、だいたいこの予定していた2,400万円がちょっと金額が大きいので、どういうものを予定していたのがこのマイナスになったのかということ、ちょっと詳しく教えてください。

それともう一つは、先ほど住民生活課長の答弁の中で、公費解体の増えた半分ぐらいはもともと空き家だったのが増えたんだというような説明で、それに関連してちょっとお聞きしたいと思っております。これは災害で解体をせざるを得なくなったというのが被災された方だと思うんですね。だから、これは空き家と、もともと住んでいた人と同類か同類じゃないかは分からないんですが、固定資産税が本来ならば建物がある状態とない状態では、金額がアップするというので、そのところが災害によって公費解体を選ばれたと。そこで支援されているわけですが、空き家だったというのは、芦北町に住んでいなかったという可能性もあると思うんですね。

他県、また他町に持ち主が住んでいたという、そういう人たちにも、その固定資産税の据え置きというか、そういう支援策があるのか。当然、その本人の皆さんたちには、そういう周知はしていると思うんですけど、私はそういうふうに相談を受けたときに、自分が知らなかったものですから、その固定資産税等がどうなるのか、やっぱりみんなに、町民皆さんに分かるように教えていただければと思います。

○議長（宮尾秀行君） 志水コミュニティセンター課長。

○コミュニティセンター課長（志水哲治君） 備品購入について、お答えいたします。

備品につきましては、図書館、公民館、子どもの広場、そういったセンター全体のですね、閲覧用テーブル、事務机、椅子、会議用テーブル、書類棚、その他必要備品のほうを購入をしております。

昨年、9月議会において御議決いただきましたとおり、入札において45.5%という、かなり低い率での入札となっております。そういったことにより、不用額が生じております。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） 元山税務課長。

○税務課長（元山俊治君） 坂本議員の、公費解体後の固定資産税ということで御質問がありましたので、お答えいたします。固定資産税につきましてはですね、居宅が建っておれば6分の1、若しくはその面積によって若干変わってきますが、3分の1とかですね、そういう特例がありますが、解体をされた場合ですね、これは解体後2年間は前と同じような固定資産税ということで、据え置きという形になるということでございます。すみません。土地についてはですね。建物については、もう解体された時点で固定資産税はかかりませんので、その方がですね、町外であろうが、その納税義務者のほうで課税はしてありますので、町外だろうと、それは関係ないところでございます。すみません。あくまでも1月1日時点でそこは判断いたしますので、課税基準日は1月1日ということになります。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） ちょっと何か分かったような分からんような、2年間は据え置きということですかね。空き家であろうが、住んでた人だろうが、ちょっと簡単でよかすけん、お願いします。

○議長（宮尾秀行君） 元山税務課長。

○税務課長（元山俊治君） 1月1日現在の時点で解体されとれば、その後2年間はそのまま据え置きということになります。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） 1月1日でという、1月いっぱいまでに解体をしてしまったところだけということですか。だって、まだ解体してないところがいっぱいあるじゃないですか。

○議長（宮尾秀行君） 元山税務課長。

○税務課長（元山俊治君） 固定資産税の場合は、1月1日が基準日となっておりますので、あくまでもそれを基準として、こちらのほうは把握をしております。もし、その年にですね、1月1日の後にされた場合は、その次の年からまた2年間ということになりますので。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第5号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第5号は原案のとおり可決しました。

ここでしばらく休憩します。議場の時計で35分より再開いたします。

-----○-----

休憩 午前11時25分

再開 午前11時35分

-----○-----

○議長（宮尾秀行君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

-----○-----

第14 議案第6号 令和2年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）

○議長（宮尾秀行君） 日程第14、議案第6号「令和2年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）」を議題とします。

本案について説明を求めます。田渕住民生活課長。

○住民生活課長（田渕耕一君） 議案第6号、令和2年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）について、御説明申し上げます。

予算の総額に歳入歳出それぞれ1,098万4,000円を追加し、総額を29億

3,816万5,000円とするものでございます。

歳出から御説明申し上げます。

7ページになります。

款2 保険給付費、目1 一般被保険者療養給付費の1,098万4,000円の補正につきましては、令和2年7月豪雨災害により、床上浸水以上の被害があった被保険者の自己負担の一部免除分でございます、493世帯、796人の方が現在対象となっております。

歳入は、6ページになります。

款1 国民健康保険税、目1 一般被保険者国民健康保険税の2,255万7,000円の減額は、7月豪雨による減免で、半壊以上の410世帯が対象となっており、全壊世帯は保険税の全額、半壊世帯は保険税額の半分が免除ということになります。

款3 国庫支出金、目3 災害等臨時特例補助金の670万6,000円の増額、及び款4 県支出金、目1 保険給付費等交付金の2,683万5,000円の増額は、豪雨災害に伴う保険税及び一部負担金免除に係る国・県からの財政支援分でございます。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第6号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第6号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第15 議案第7号 令和2年度芦北町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）

○議長（宮尾秀行君） 日程第15、議案第7号「令和2年度芦北町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）」を議題とします。

本案について説明を求めます。内田福祉課長。

○福祉課長（内田照也君） 議案第7号、令和2年度芦北町介護保険事業特別会計補正

予算（第４号）について、御説明いたします。

予算の総額に歳入歳出それぞれ４,６９５万３,０００円を追加し、総額を２４億２,４７２万８,０００円とするものです。

予算書をもとに、歳出から御説明いたします。

予算書は、７ページになります。

款２保険給付費、項１介護サービス等諸費、目１居宅介護サービス給付費、及び目５施設介護サービス給付費、項４高額介護サービス等費、目１高額介護サービス費、項５高額医療合算介護サービス等費、目１高額医療合算介護サービス費、項６特定入所者介護サービス等費、目１特定入所者介護サービス費の給付費の負担金の補正につきましては、全て実績見込みによる予算額の増減です。

次に、歳入につきましては、６ページになります。

款１保険料、項１介護保険料、目１第１号被保険者保険料は、介護保険料減免による１,７７５万円の減額です。

款３国庫支出金、項２国庫補助金、目１調整交付金１,０２６万８,０００円は、令和２年７月豪雨に伴う介護保険料減免及び利用者負担免除に係る調整交付金です。

同じく、目７災害等臨時特例補助金の５６０万８,０００円は、令和２年７月豪雨に伴う介護保険料減免及び利用者負担免除に係る補助金です。

次の、款８繰越金の４,８８２万７,０００円は、前年度繰越金を補正財源とするものです。

以上で、議案第７号の説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第７号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第７号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第１６ 議案第８号 令和２年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算（第４号）

○議長（宮尾秀行君） 日程第16、議案第8号「令和2年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算（第4号）」を議題とします。

本案について説明を求めます。杉本上下水道課長。

○上下水道課長（杉本芳郎君） 議案第8号、令和2年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算（第4号）について、御説明いたします。

予算の総額に歳入歳出それぞれ124万6,000円を減額し、総額を3億8,430万7,000円とするものです。

また、第2表で繰越明許費、第3表で地方債補正を計上しております。

歳出から御説明いたします。

予算書の9ページになります。

款1 農業集落排水事業費、項3目1 豪雨災害対策費、補正額124万6,000円の減額は、実績見込み額に基づくものです。

次に、歳入につきましては、8ページになります。

款5 町債、項1目2 災害復旧債340万円は、財源組替に係るものです。

款6 県支出金、項1 県補助金、目2 災害復旧費県補助金464万6,000円の減額は、災害査定確定に伴い、見込めなくなった県支出金を減額補正するものでございます。

次に、予算書は4ページになります。

第2表、繰越明許費補正について御説明します。

款1 項3、事業名、集排災害対策事業合計1億2,974万8,000円は、7月豪雨災害で被災した処理場や中継ポンプ制御盤、電気機械設備等の復旧工事費を年度内工期が不足するため繰り越すものでございます。

次に、予算書は5ページになります。

第3表、地方債補正について御説明いたします。

農業集落排水施設災害復旧事業を4,120万円から340万円増額し、4,460万円とするものです。利率や償還方法は表に記載のとおりでございます。

なお、予算書10ページに地方債の現在高の見込みに関する調書を添付いたしております。

以上で、芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算（第4号）の説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第8号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第8号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第17 議案第9号 令和2年度芦北町有温泉事業特別会計補正予算（第4号）

○議長（宮尾秀行君） 日程第17、議案第9号「令和2年度芦北町有温泉事業特別会計補正予算（第4号）」を議題とします。

本案について説明を求めます。釜商工観光課長。

○商工観光課長（釜 辰信君） 議案第9号、令和2年度芦北町有温泉事業特別会計補正予算（第4号）について、御説明いたします。

今回の補正は、歳入の財源組替のみとなっており、予算総額の増減は伴わない補正予算となっております。また、第2条で債務負担行為の補正を計上しております。予算書をもとに説明いたします。

予算書は8ページになります。

款1使用料及び手数料、項1使用料、目1入浴料の1,175万円の減額につきましては、コロナウイルス感染症及び令和2年7月豪雨災害の影響によるものでございます。

款3繰入金、項1他会計繰入金、目1一般会計繰入金の1,175万円の補正は、入浴料の減額分を一般会計から補填するものです。

なお、予算書9ページに、債務負担行為で当該年度以降の支出予定額等に関する調書を添付しております。

以上で、議案第9号の説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第9号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第9号は原案のとおり可決しました。

-----○-----

第18 議案第10号 令和2年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）

○議長（宮尾秀行君） 日程第18、議案第10号「令和2年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）」を議題とします。

本案について説明を求めます。田淵住民生活課長。

○住民生活課長（田淵耕一君） 議案第10号、令和2年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）について、御説明いたします。

予算の総額に歳入歳出それぞれ1,285万8,000円を減額し、総額を2億9,514万2,000円とするものでございます。

歳出から御説明いたします。

7ページになります。

款2目1後期高齢者医療広域連合納付金の1,285万8,000円の減額につきましては、令和2年7月豪雨災害により、床上浸水以上の被害があった被保険者の保険料が減免になることに伴う減額でございます。

歳入、6ページになります。

款1後期高齢者医療保険料、目1特別徴収保険料の1,027万1,000円の減額、及び目2普通徴収保険料の258万7,000円の減額は、ともに令和2年7月豪雨災害により、床上浸水以上の被害があった被保険者の保険料が減免になるもので、全壊は保険料の全額、半壊または床上浸水以上は半額、保険料が減免になるものでございます。582人の申請がっております。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第10号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第10号は原案のとおり可決しました。

-----○-----

第19 令和3年度施政方針と予算大綱説明

○議長（宮尾秀行君） 日程第19「令和3年度施政方針と予算大綱説明」を求めます。
竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） おはようございます。

本日、令和3年第2回芦北町議会定例会の招集を申し上げましたところ、議員各位におかれましては、大変お忙しい中、御出席を賜り誠にありがとうございます。

令和3年度施政方針と予算大綱について御説明申し上げます。

まず冒頭に、災害からの復旧・復興と新型コロナウイルス感染症対策について申し上げます。

7月豪雨から8カ月が経過しようとしております。発災直後から町民の命を守ることを最優先に対応にあたり、累次にわたる補正予算を措置し、復旧・復興に邁進してまいりました。先月には、町民の方々の御意見をいただきながら、被災地ではいち早く、芦北町復旧・復興計画を公表しました。

計画は、『自然と共生する安全・安心の「新しいあたりまえ」を創造する』という理念のもと、今なお避難生活を続ける方々をはじめ、被災された地域の「生活再建」と「なりわい再建」、「社会機能の回復」を重点施策に定め、令和5年度までの取組をまとめております。

令和3年度予算は、計画を着実に実行していくための復興元年予算として位置づけ、必要な事業を積極的に措置しました。

次に、新型コロナウイルス感染症対策についてです。ちょうど1年前の今日、政府の要請により小中学校を休校とすることや、爾後の対応について、この場で御説明申し上げ、以来、感染拡大防止、雇用対策や生活支援等、町としてでき得る施策を最大限講じてまいりました。

現在、感染収束には至っておりませんが、その決め手と期待され、待望久しかったワクチン接種を来月から開始する計画です。町内医療機関の御協力を得ながら、円滑かつ確実に実施してまいります。また、必要な対策については、今後も躊躇なく実施してまいります。

それでは、予算編成・規模について申し上げます。

令和３年度の一般会計予算総額は、過去最大の１４０億円となりました。

歳出については、災害復旧費に３５億２,３７６万円を計上しました。また、普通建設事業費に１２億８,７０５万円措置しております。

歳入については、町税や使用料の減額が見込まれる厳しい中、国県支出金を３９億９,４７５万円、町債を２５億６,２４０万円措置しました。また、地方交付税については３６億６,５００万円を見込みました。

以下、主な施策について、復旧・復興計画の内容も踏まえ、説明いたします。

なお、町が主催する行事等については、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、開催の可否や方法について、慎重に検討し、取り組んでまいります。

第１は、「地域活力と雇用を生み出す産業づくり」についてであります。

本町の基幹産業である農林漁業は、豪雨により甚大な被害を受けました。そのため、第１に農地、農業用施設、林道の早期復旧を推し進めるとともに、広域的な被害を受けた吉尾地区等については、基盤整備を含めた創造的復興を推進します。

農業の振興につきましては、農作業の支援を引き続き実施するとともに、農業次世代人材投資資金を活用して、新規就農者を支援し、人材の確保と育成に努めてまいります。また、果樹振興については、被災農地の園内道整備や優良品種の苗木導入等に対する支援に取り組んでまいります。

農業農村整備につきましては、引き続き、国見地区の基盤整備を推進してまいります。

鳥獣被害対策につきましては、新たに地域おこし協力隊を任用し、ＩＣＴを活用したスマート農業の推進を図り、鳥獣被害を防止するための体制を構築してまいります。また、猟友会の有害鳥獣捕獲に対する支援を継続するとともに、狩猟免許取得支援をはじめ、防護柵や電気柵設置等に対する支援を行ってまいります。

農業委員会におきましては、被災した農業者にきめ細やかな対応を行い、耕作放棄地の発生防止や解消、担い手への農地集積に努め、農地利用の最適化に取り組んでまいります。

林業の振興につきましては、適齢期に達した森林の伐採や搬出作業の支援を継続するとともに、皆伐後の荒廃や苗木の食害を防ぐための支援を行ってまいります。また、森林経営管理事業では、所有者の意向調査、森林経営管理権の設定に加え、保育間伐に取り組んでまいります。

木育事業につきましては、１歳児に町産材を使用した木のおもちゃを贈呈することで、木の温もりに触れる機会を提供し、将来的な木材需要拡大を目指します。また、本町独自の木造住宅建築支援事業を拡充し、被災した住宅の再建等を積極的に支援してまいります。

漁業の振興につきましては、豪雨による土砂堆積や海底ごみにより、漁場の環境悪化が懸念されることから、海底耕耘を実施し、漁場の環境改善に取り組んでまいります。また、漁業者の所得向上策として、クマモト・オイスターやマガキ養殖への助成、各種放流事業への支援を継続するとともに、田浦銀太刀のブランド力強化や新たなブランドとして、田浦釣サワラに対する支援を行ってまいります。

商工業の振興につきましては、副業人材を活用して創造的復興に取り組む商工事業者を支援するための新たな補助金を創設するほか、プレミアム付商品券発行補助金も引き続き措置し、商工業の育成・強化及び町内での消費喚起による地域経済の活性化を図ってまいります。

企業誘致につきましては、ＩＴ企業の集積に向け、遊休施設等を活用したサテライトオフィス誘致活動を行うとともに、進出したＩＴ企業と連携し、ＩＣＴを活用した地域課題解決への取組を進めてまいります。

観光振興につきましては、観光うたせ船を中心とする旅行商品造成や、観光うたせ船の担い手確保に資するため、地域おこし協力隊の確保を進めてまいります。また、芦北町を舞台としたテレビアニメを新たな観光資源として活用し、全国への情報発信に努めるとともに、観光イベントにつきましては、開催方法等、慎重に検討しながら取り組んでまいります。

芦北海浜総合公園、御立岬公園等の観光施設については、被災箇所の復旧と計画的な維持修繕等を行い、適正な施設運営に努めるとともに、御立岬公園では新たにキャンプ場の造成を行い、更なる活性化を図り、誘客に向けた取組を進めてまいります。

ふるさと応援寄附金事業につきましては、町内企業と連携し、返礼品の充実を図るとともに、地方創生と災害からの復旧・復興のための財源確保策として、企業版ふるさと納税を推進します。

第２に、「地域で守り育てるまちづくり」についてであります。

被災者の生活再建支援につきましては、地域支え合いセンターと連携し、１日も早く被災前の日常生活を取り戻せるよう、被災者に寄り添いながら丁寧に行ってまいります。

高齢者福祉につきましては、住み慣れた地域で安全・安心に暮らせるよう支援してまいります。また、災害時における避難行動要支援者の支援及び緊急通報装置の貸与により、緊急時の迅速な対応に努めてまいります。

障がい者福祉につきましては、心身の状況やニーズに配慮した福祉サービスの提供に努めるとともに、各種事業を通じ、障がいに対する理解の促進及び社会参加への機運醸成を図ってまいります。

地域福祉につきましては、社会福祉協議会や民生委員児童委員と連携し、その推進を図ってまいります。

児童福祉につきましては、保育料の負担軽減や子ども医療費助成、副食費の助成による子育て世帯の経済的負担軽減に引き続き取り組むとともに、児童の安全な保育環境を確保するため、保育所等の施設整備に対する支援に努めてまいります。また、子育て世代包括支援センターにおいて、妊娠期から子育て期まで切れ目なく支援を行ってまいります。

健康づくり事業につきましては、「生涯現役、健康寿命の延伸」に向け、ライフステージに合わせた取組を引き続き推進してまいります。

第3に、「郷土の未来を育む人づくり」についてであります。

学校教育につきましては、被害を受けた教育施設の復旧に着手しており、早期完成に向けて取り組んでまいります。また、心身に不安を抱える児童生徒に対する心のケアについても、きめ細やかに行ってまいります。

学習環境の整備充実につきましては、学校施設の適切な維持修繕を行うとともに、1人1台配備したタブレットや、ICT機器の効果的な活用を図りながら、児童生徒の学力向上を図ってまいります。また、新たに「子ども自立支援室」を設置し、学校に登校できない子どもたちに対して学習支援を行っていきます。

スポーツの振興につきましては、社会体育クラブや総合型地域スポーツクラブ等の支援を行うとともに、全国大会出場者等を支援し、競技力の向上と生涯スポーツの振興を図ってまいります。

また、トップアスリートの合宿誘致事業に引き続き取り組むとともに、町外から競技力向上を目的に、町内に下宿等を行う中学生に対する支援を継続してまいります。

町民総合センターについては、平成9年に開館以来23年が経過しており、施設の長寿命化とともに避難所としての活用を図るため、令和3年度から令和4年度にかけて大規模改修工事を行います。

文化振興につきましては、諸行事を通じ、意識の高揚を図るとともに、全国大会出場者等を支援し、文化活動の振興を図ってまいります。

文化財の保存・調査につきましては、被災した文化財の復旧を継続して行います。また、町誌編さんは『新 芦北町誌』通史編を刊行し、郷土の歴史及び風土について町民の認識共有を図るとともに、将来のまちづくりへの基礎資料として活用します。

復興のシンボルとして、昨年末に運用を開始しました芦北町総合コミュニティセンターにつきましては、オープン以来、延べ1万2,000人を超える方に御利用

いただき大変賑わっております。今後さらに、世代間、地域間の交流と学びの場として、施設全体の魅力向上と快適な利用環境の提供に努めてまいります。

星野富弘美術館につきましては、開館15周年記念事業として、星野富弘氏と富弘美術館協力のもと、原画の展示による特別企画展を開催します。

国際交流につきましては、引き続き国際交流協会と連携し、各種事業を実施するとともに、定住自立圏共生ビジョンに基づき、多文化共生事業に取り組んでまいります。

第4に、「暮らしを支える基盤づくり」についてであります。

交通基盤の整備につきましては、被災した道路・河川の復旧を最優先とし、また仮置場の災害土砂についても、早期の現状復旧を図ります。

町道関係につきましては、昨年末に全線開通しました町道射場芦北線周辺の河川や排水路改修を進めるとともに、計画的な維持修繕や橋りょう点検を行い、交通の安全確保に努めてまいります。

自然災害対策につきましては、排水機場の機能強化を図るため、排水解析調査を実施し、安全で安心して暮らせる生活環境の整備に取り組んでまいります。

県営事業につきましては、それらに係る負担金を措置するとともに、豪雨により被災した施設の早期復旧を要望してまいります。

公営住宅につきましては、計画的な維持管理に努め、安心して暮らせる住環境を提供するとともに、子育て世代の移住定住の促進を図るため、地域優良賃貸住宅の建設を進めます。また、一般住宅につきましては、木造住宅の耐震化促進事業に取り組んでまいります。

交通対策につきましては、乗り合いタクシー「まちなかルート」の実証運行を行い、利便性の向上を図り、町民に親しまれる持続可能な地域公共交通の構築を目指します。

防災対策につきましては、豪雨災害を受け、より実効性の高い行動が取れるよう、各種計画やマニュアルを見直し、風水害等の様々な災害に対して、迅速・適切に対応できるよう体制の強化を図ります。また、防災行政無線の屋外拡声子局の増設やSNSの活用、ウェブ版防災マップの整備等、情報伝達の重層化を図ってまいります。

また、土砂災害危険区域からの住宅移転を支援するため、これまでレッドゾーンのみ対象となっていた区域を拡大し、町独自でイエローゾーンからの移転を支援する制度を創設しました。

防災教育については、芦北町自主防災組織連絡会の活動を積極的に支援し、自助・共助の観点から地域防災力の向上を図るとともに、防災専門官の配置を検討し

てまいります。

防犯対策につきましては、犯罪抑止のため防犯カメラを計画的に整備するとともに、地域団体や町民の自主的な防犯活動を支援するため、防犯灯及び防犯カメラの設置に対する補助金を交付し、安全・安心なまちづくりの推進を図ってまいります。

水供給対策につきましては、水道区域外の地域に対して、安全・安心な生活用水の確保を図るため、飲料水供給施設の整備や災害復旧に取り組んでまいります。また、生活排水対策につきましては、引き続き浄化槽設置に対する支援を行ってまいります。

水俣病関連事業につきましては、相談窓口の設置を継続し、各種相談に対してきめ細やかに対応するとともに、情報発信支援事業、もやい直し事業、地域再生事業に引き続き取り組んでまいります。

第5に、「住民と行政の協働のまちづくり」についてであります。

今回の災害により、地域の支え合い、コミュニティの大切さを強く再認識しました。

まちづくり支援事業につきましては、これまでのメニューに加え、地域の復興に資する事業も含め、活動の支援を拡充します。

また、芦北高校の入学者確保と高校のさらなる魅力向上に資するため、ICT環境の整備による独自性のある授業構築のための支援等、学校・地元企業・行政が一体となった取組を進めます。

移住定住対策につきましては、空き家バンクの内容充実と利活用促進の支援を継続し、移住定住を促進してまいります。また、地域おこし協力隊の町への定住に向けた支援を行ってまいります。

行財政の運営につきましては、今後も効率的な行政組織の見直しと定員の適正化に努め、災害対応や町民ニーズに的確に対応するとともに、職員研修や人事評価による職員の意識改革と資質向上を図り、強固かつ柔軟な役場組織づくりに努めてまいります。

公共施設の計画的な整備等の推進につきましては、個別施設計画を基に町有施設の長寿命化を推進するとともに、本庁舎の防災機能の強化を図るための検討を進めてまいります。

町の情報発信につきましては、引き続き、広報あしきた、まちだより、ホームページを活用した情報提供に努めてまいります。

次に、特別会計について申し上げます。

国民健康保険事業（事業勘定）につきましては、各種健康づくり推進事業を実施する中で、国保財政の健全な運営を堅持してまいります。また、18歳以下の子ども

もに係る国民健康保険税の均等割額を引き続き全額減免いたします。

国民健康保険事業（直診勘定）につきましては、診療所が被災し休診中のため、これまで受診されていた方々に対し、町内医療機関までの送迎を行い、受診できる体制づくりに努めてまいります。

介護保険事業につきましては、介護予防・日常生活支援総合事業の充実、地域包括ケアシステムの深化・推進を図り、介護・医療の支援を必要とする高齢者が安心して暮らせるよう努めてまいります。

農業集落排水事業につきましては、被災した施設の災害復旧事業に取り組んでいくとともに、芦北地区処理場の更新工事を行い、施設の長寿命化と水環境の保全に努めてまいります。

生活排水処理事業につきましては、引き続き適切な放流水質の確保に努めてまいります。

町有温泉事業につきましては、各施設において快適な入浴環境の確保と、より一層のサービス向上に努めてまいります。

奨学資金貸付事業につきましては、通常の貸付に加えて、コロナ禍により生活が困窮している学生のため、町独自に毎月1万円を上乗せし給付し、奨学生を支援いたします。

後期高齢者医療事業につきましては、健康診査委託事業や人間ドック健診補助を実施し、町民の健康保持・増進を図るとともに、疾病の早期発見と重症化の防止に努めてまいります。

公営企業会計である水道事業につきましては、安全・安心な水道水供給のため、引き続き老朽化した水道管や施設の更新を計画的に実施し、安定経営に努めてまいります。

以上、一般会計、特別会計及び水道事業会計を合わせた令和3年度の予算総額は206億5,930万円となっております。

結びに、世界的な感染症の流行や大規模災害が頻発し、これまで「あたりまえ」と考えていたものが通用しない時代となりました。

社会の変革に対応した「新しいあたりまえ」を町民の皆さんと共に創造し、「すべては次代を担う子どもたちのために」被災前よりも光り輝く郷土芦北を築くため、全力を傾注してまいります。

議会並びに町民の皆様の御理解と御協力を心からお願い申し上げます。

○議長（宮尾秀行君） 町長の説明が終わりました。

ここでしばらく休憩します。午後は1時15分から再開をいたします。

—————○—————

休憩 午後 0 時 1 0 分

再開 午後 1 時 1 3 分

-----○-----

○議長（宮尾秀行君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

-----○-----

第 2 0 議案第 1 1 号 令和 3 年度芦北町一般会計予算

第 2 1 議案第 1 2 号 令和 3 年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算

第 2 2 議案第 1 3 号 令和 3 年度芦北町介護保険事業特別会計予算

第 2 3 議案第 1 4 号 令和 3 年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算

第 2 4 議案第 1 5 号 令和 3 年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算

第 2 5 議案第 1 6 号 令和 3 年度芦北町有温泉事業特別会計予算

第 2 6 議案第 1 7 号 令和 3 年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算

第 2 7 議案第 1 8 号 令和 3 年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算

第 2 8 議案第 1 9 号 令和 3 年度芦北町水道事業会計予算

第 2 9 議案第 2 0 号 芦北町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定について

第 3 0 議案第 2 1 号 芦北町災害復興基金条例の制定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第 2 0、議案第 1 1 号「令和 3 年度芦北町一般会計予算」から日程第 3 0、議案第 2 1 号「芦北町災害復興基金条例の制定について」は、議会運営委員会の答申に基づき、一括議題とします。

ただ今一括議題としました議案については、先ほどの日程第 1 9「令和 3 年度施政方針と予算大綱説明」で町長の説明もあり、また先の議会運営委員会において委員会付託とする旨の答申がっておりますので、会議規則第 3 8 条第 2 項の規定により、提案理由の説明を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、一括議題の議案は、提案理由の説明を省略することに決定しました。

これから一括議題について質疑を行います。先の議会運営委員会において、委員会付託の答申がっておりますので、質疑はあくまで総括的かつ大綱にとどめるよう求めます。質疑はありませんか。川尻君。

○12番（川尻成美君） それでは、令和 3 年度の予算につきまして、当初予算の分析をまず眺めてみたんですけども、今回、140 億円の歳入歳出予算であります。歳入におきましては、地方交付税、国県支出金、町債が非常に伸びている。歳出におきましては、災害復旧費あるいはそれに伴う総務、民生、教育費がっております

が、要するに前年度比42.5%の増でございます。そして、その財源内訳を見ますと、自主財源におきましては、32億8,900万円余の自主財源であります。前年比は6.3%減でございます。依存財源としては、大まかに町債が25億6,200万円ですかね、町債におきましては266.6%増ということで、要するに町債を発行せざるを得ないというふうに理解をしております。

そういうことで、令和2年度も町債が発行されまして、別表に地方債の、令和3年度の地方債の残高を見ますと、159億4,200万円余の町債でございます。平成30年度の町債を見ますと、97億7,200万円という形で大幅に膨らんでおることはもう承知のとおりであります。

そういう観点からですね、今後考えられるこの地方債の償還ということになりますけれども、私も100億円を切りましたので、10億円ずつ返していけばという形で考えておりましたが、こういう災害とかコロナによりまして膨らんだ事実でありますし、経営のどうのこうのという状況ではございませんけれども、要するに地方交付税、国県支出金に頼らざるを得ない状況はもう否めない事実でありますので、要するに災害復旧におきましての激甚災害等で、交付税で還元されるのがありますし、12月に決算のほうの大綱説明での答弁では、約90%は交付税で返ってくるという形でありますので、まず1点はその地方債の返済はだいたいどのくらいに、ずっと何年かにわたって返していかにやいかんと思うんですけれども、財源がやっぱり税收が落ちてきておりますので、それが1点。返済計画がですね。

地方交付税のこの国県支出金、地方交付税がどのくらい、この令和3年度の予算で還元されるのかというのが2点であります。

3点目に、財政調整基金が令和2年3月末では、14億3,000万円余のお金が令和2年度に7億6,000万円に減っておりますね。だから、この基金は令和3年度はどれくらい取り崩すのかなというふうに思いますので、その3点をお願いしたいと思います。

○議長（宮尾秀行君） 川尾企画財政課長。

○企画財政課長（川尾敏浩君） お答え申し上げます。

まず、地方債の償還の期間の御質問であったかと思えます。一般的な地方債の借り入れにつきましてはですね、地方債のメニュー、例えば過疎債とかですね、そういったもののメニュー、あるいは施設に充当するものでありますと、施設の構造等によって耐用年数が違いますので、自ずと償還期間というのが決められております。したがって、災害に充当しないもの、災害以外の充当する起債についてはですね、その国の定めた期間に沿って借り入れをすることになります。過疎債においては、12年の借り入れであります。うち、元金の据え置きをする期間が3年間と。

ですから、4年目からは元金と利子が発生すると、3年間は利子だけの償還という
ような形になるんですけども、今回、豪雨災害によりまして、多額の起債を、災害
復旧債を借り入れる計画を立てているところでありますけども、これにつきまして
も通常レベルですと、10年の償還期間、うち2年が据え置き期間ということにな
っております。過去の大きな災害を経験した地域におきましてはですね、この災害
復旧債に限ってですね、償還期限を期間を延長するということで、借り入れ実績
がなされております。そこで、この令和2年7月豪雨災害においてもですね、芦北
町から、または被災した地域とともにですね、熊本県を通じて国のほうに期間の延
長を強く要望していきたいというふうに思います。過去の例でおきますと、熊本地
震では10年、うち2年の据え置きというものが、20年、うち5年が据え置きと
いうようなことで、約2倍の償還期間に延長されております。そうしますと、元金
償還が2分の1に軽減されるというようなところになりますので、こういったとこ
ろを強く要望していきたいなというふうに考えているところであります。

次に、地方債の令和3年度の動向といたしますか、そういったものでありますけど
も、まだ国の地方財政計画に基づいてですね、交付税特別会計の出口ベース、地方
公共団体に払うベースでいきますと、5.3%ぐらい伸びるというようなことから、
今回、対前年比5.3%増ということで予算措置をしているところでありまして、
具体的にどの費目にどれだけ重点的に配分するかという詳細なところがまだ示され
ておりませんので、そういった係数を見てですね、今回は措置をしたところであり
ます。しかし、地方債を借りますと、その償還が実際、令和3年度から償還が始ま
りますので、それについては交付税に算入するというようになってまいりますので、
その分は増額になってくるというのは見込めるものだと思っております。

次に、財政調整基金でございます。今朝の熊本日日新聞の朝刊のほうにも大きく
取り上げてありましたけども、この芦北町の数字につきましては、1月の臨時会で
提案しました補正（9号）までの合計額を記載してございます。14億3,100
万円程度あったものが、7億8,700万円まで残高が落ちますよというようなと
ころになっております。取り崩しが6億4,400万円というようなことでありま
すが、その後、今回議決いただきました補正（10号）、こちらのほうで1億7,
700万円余の取り崩しを計画しております。

また、当初予算では、今、予算書のほうに35ページでございますけども、款1
8繰入金の目の12財政調整基金繰入金ということで1億円を計上したところであ
ります。そうしますと、約2億7,000万円、先ほど申し上げました残高から減
るというのが実態であります。そういう中でですね、今後、災害に対します国庫補
助金、負担金補助金の補助率の増嵩、嵩上げが予定されておりますので、そういっ

たもので地方債を減額しながらですね、あと決算を見ながらですね、地方債の充当できる減債基金の積み立てを視野に入れながらですね、地方債の償還を実質減らすような工面は、今後考えていきたいなというふうに思っているところであります。

以上であります。

○議長（宮尾秀行君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） 本当、限られた職員の人員でですね、去年から今年、相当量の予算を事業でしなければいけない、大変な思いだというふうに思いますけども、いわゆる町民の安全・安心を原点に置きながらですね、借入れは利子が付かんならいいんですけども、金利はやっぱり付くわけですので、そういう形の中でですね、きっちり努めていただければというふうに思います。頑張ってくださいように切望します。

○議長（宮尾秀行君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） これで質疑を終わります。

お諮りします。ただ今議題となっております議案第11号から議案第21号までは、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託することに決定しました。

各常任委員会におかれましては、慎重な審査をされ、その結果を最終日の本会議において、各常任委員長から報告願います。

—————○—————

第31 議案第22号 芦北町職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第31、議案第22号「芦北町職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） 議案第22号、芦北町職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について、御説明申し上げます。

この条例は、令和2年7月豪雨災害に伴い、他の自治体から中長期的に派遣されている職員に対し、派遣に伴う移転料等を支給するため、改正するものです。

現在、移転に伴う費用の支給については、本町職員の移転を想定し、1年以上の赴任が条件となっており、自治法派遣等により派遣される者に対し、12カ月未満

の場合も対象とするよう改正を行うものです。

附則として、この条例は公布の日から施行し、令和２年１０月１日から適用するものです。

なお、提案理由は記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第２２号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第２２号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第３２ 議案第２３号 芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第３２、議案第２３号「芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） 議案第２３号、芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、御説明申し上げます。

今回の改正は、予防接種、健診等に係る嘱託医の報酬について改正するもので、今後予定をされます新型コロナウイルスワクチンの集団接種等を見込み、嘱託医の報酬を一般的な水準にあわせるため見直すものです。

改正内容といたしましては、報酬額１万７，３００円を２万円に改めるもので、あわせて名称の改正も行っております。

附則として、この条例は令和３年４月１日から施行するものです。

なお、提案理由は記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第23号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第23号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第33 議案第24号 芦北町土地開発基金条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第33、議案第24号「芦北町土地開発基金条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。川尾企画財政課長。

○企画財政課長（川尾敏浩君） 議案第24号、芦北町土地開発基金条例の一部を改正する条例の制定について、御説明申し上げます。

この土地開発基金は、土地を先行取得するために設けられた定額の資金を運用するための基金でございます。これまでの運用実績に鑑み、先行取得する必要性等を考慮して、基金の一部を処分して有効活用を図るために条例の一部を改正するものであります。

改正内容といたしましては、第2条第1項中、基金の額を1億円に改めます。また、第6条中、現金以外の財産も処分できるように、「に属する現金」を削るものでございます。

附則としまして、公布の日から施行することとしております。

なお、提案理由は記載のとおりであります。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第24号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第24号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第34 議案第25号 芦北町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第34、議案第25号「芦北町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。田淵住民生活課長。

○住民生活課長（田淵耕一君） 議案第25号、芦北町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について、御説明申し上げます。

今回の改正は、新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律が改正され、新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが、指定感染症から新型インフルエンザ等感染症に変更されたことに伴い、市町村における関係条例を整備するものでございます。

内容といたしましては、本条例に規定してあります傷病手当金支給に記載してある新型コロナウイルス感染症の定義を改正するものでございます。

附則としまして、この条例は公布の日から施行し、令和3年2月13日から適用するものでございます。

提案理由につきましては、記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第 25 号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第 25 号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第 35 議案第 26 号 芦北町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第 35、議案第 26 号「芦北町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。内田福祉課長。

○福祉課長（内田照也君） 議案第 26 号、芦北町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について、御説明を申し上げます。

本案は、介護保険法施行令の一部改正、及び令和 3 年度から令和 5 年度までの 3 年間を事業期間とする第 8 期介護保険事業計画の策定に伴い、65 歳以上の第 1 号被保険者の保険料期間を改める必要があることから、条例の一部改正を行うものです。

附則としまして、この条例は令和 3 年 4 月 1 日から施行するものです。

なお、提案理由につきましては記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第 26 号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第 26 号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第 36 議案第 27 号 芦北町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定につ

いて

第 3 7 議案第 2 8 号 芦北町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について

第 3 8 議案第 2 9 号 芦北町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について

第 3 9 議案第 3 0 号 芦北町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第 3 6、議案第 2 7 号「芦北町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について」から日程第 3 9、議案第 3 0 号「芦北町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例の制定について」までを、議会運営委員会の答申に基づき、一括議題とします。

本案について説明を求めます。内田福祉課長。

○福祉課長（内田照也君） 議案第 2 7 号、芦北町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定についてから、議案第 3 0 号、芦北町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例の制定については、関連する改正となりますので、一括して御説明を申し上げます。

まず、この 4 件の条例につきましては、介護保険事業に係る条例であります、適用の対象者がそれぞれ異なっておりまして、議案第 2 7 号においては介護サービスが必要な要介護の方、そして議案第 2 8 号においては、介護サービスまで至らない要支援の方、議案第 2 9 号については、要支援の方に対するケアプランを作成する事業所、最後に議案第 3 0 号では、要介護の方に対するケアプランを作成する事業所に対し、それぞれ適用を行うものとなっています。

今回の改正は、国におきます指定地域密着型サービスの人員及び運営基準の改正と効果的な支援の方法に関する基準等について新たに定めることにより、所要の改正を行うものでございます。

改正の内容は、指定地域密着型サービス事業所や指定介護予防支援事業所における利用者の人権擁護及び虐待防止のための体制整備を行うこと、及び従業員の研修機会の確保、感染症や非常災害発生時における業務継続計画の策定、テレビ電話等

を活用した運営委員会等の実施等の項目において改正するものでございます。

附則として、これらの条例は令和３年４月１日から施行するものですが、議案第３０号における第１６条第２１号の改正規定、介護支援専門員の居宅サービス計画の届出義務は、令和３年１０月１日から施行するものです。

なお、提案理由は記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を一括して行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから日程第３６、議案第２７号から日程第３９、議案第３０号までを順次討論を行い、採決します。

日程第３６、議案第２７号、芦北町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について、討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第２７号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第２７号は原案のとおり可決しました。

日程第３７、議案第２８号、芦北町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第２８号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第２８号は原案のとおり可決しました。

日程第３８、議案第２９号、芦北町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並

びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第29号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第29号は原案のとおり可決しました。

日程第39、議案第30号、芦北町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例の制定について、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第30号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第30号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第40 議案第31号 芦北町文化財保護審議会条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第40、議案第31号「芦北町文化財保護審議会条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。福井生涯学習課長。

○生涯学習課長（福井成昭君） 議案第31号、芦北町文化財保護審議会条例の一部を改正する条例の制定について、御説明を申し上げます。

今回の改正は、芦北町教育委員会の組織の名称変更に伴い、条例の改正を行うものです。

文化財保護法に基づき設置しております芦北町文化財保護審議会について、事務局を生涯学習課としておりましたが、4月1日からの課の名称変更に伴い、スポーツ・文化振興課とするものです。

附則としまして、この条例は令和3年4月1日より施行するものです。

なお、提案理由につきましては記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第 31 号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第 31 号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

○議長（宮尾秀行君） 日程第 41、議案第 32 号から日程第 50、議案第 41 号までの指定管理者の指定に係る議案の審議の前に、指定管理者選定の経過について総務課長に説明を求めます。松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） 議案第 32 号から議案第 41 号までの指定管理者に係る議案につきまして、その選定の経緯等について、一括して御説明を申し上げます。

今回の 10 施設の選定につきましては、令和 3 年 1 月 25 日に指定管理候補者選定委員会を開催し、経営状況等を総合的に勘案し、候補者として決定したものでございます。

なお、今回の 10 施設の指定管理者の選定にあたっては、施設の設置目的を効果的かつ効率的に達成するため、地域等の活力を積極的に活用し管理を行うことにより、事業効果が明確に期待できるものとして、公募によらない選定を行っております。

指定の期間につきましては、全施設、令和 3 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までの 3 年間としております。

以上で、説明を終わります。

—————○—————

第 41 議案第 32 号 芦北町薩摩街道佐敷宿交流館の指定管理者の指定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第 41、議案第 32 号「芦北町薩摩街道佐敷宿交流館の指定管理者の指定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。川尾企画財政課長。

○企画財政課長（川尾敏浩君） 議案第３２号、芦北町薩摩街道佐敷宿交流館の指定管理者の指定について、御説明申し上げます。

施設の名称は芦北町薩摩街道佐敷宿交流館、指定管理者は熊本県葦北郡芦北町大字佐敷４４３番地７９、芦北ななうら会、会長 松原久美子。

指定期間は、令和３年４月１日から令和６年３月３１日までの３年間でございます。

提案理由は記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第３２号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第３２号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第４２ 議案第３３号 芦北町女島活力推進センターの指定管理者の指定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第４２、議案第３３号「芦北町女島活力推進センターの指定管理者の指定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。田淵住民生活課長。

○住民生活課長（田淵耕一君） 議案第３３号、芦北町女島活力推進センターの指定管理者の指定について、御説明申し上げます。

施設の名称は芦北町女島活力推進センター、指定管理者は芦北町大字女島７７０番地１４、女島開発委員会、会長 小崎宏一。

指定期間は、令和３年４月１日から令和６年３月３１日までの３年間となっております。

提案理由は記載のとおりでございます。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第３３号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第３３号は原案のとおり可決しました。

-----○-----

第４３ 議案第３４号 芦北町高齢者生活福祉センターの指定管理者の指定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第４３、議案第３４号「芦北町高齢者生活福祉センターの指定管理者の指定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。内田福祉課長。

○福祉課長（内田照也君） 議案第３４号、芦北町高齢者生活福祉センターの指定管理者の指定について、御説明申し上げます。

施設の名称は芦北町高齢者生活福祉センター、指定管理者は熊本県葦北郡芦北町大字湯浦１４３９番地１、社会福祉法人芦北町社会福祉協議会、会長 内山忠美。

指定期間は、令和３年４月１日から令和６年３月３１日までの３年間でございます。

提案理由は記載のとおりでございます。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第３４号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第３４号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第４４ 議案第３５号 芦北町水産物直売施設の指定管理者の指定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第４４、議案第３５号「芦北町水産物直売施設の指定管理者の指定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。佐竹農林水産課長。

○農林水産課長（佐竹貴幸君） 議案第３５号、芦北町水産物直売施設の指定管理者の指定について、御説明申し上げます。

施設の名称は芦北町水産物直売施設、指定管理者は熊本県葦北郡芦北町大字計石１９５番地１、株式会社葦彩、代表取締役 遠山菊江。

指定期間は、令和３年４月１日から令和６年３月３１日までの３年間でございます。

提案理由は記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第３５号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第３５号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第４５ 議案第３６号 芦北町吉尾温泉公衆浴場の指定管理者の指定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第４５、議案第３６号「芦北町吉尾温泉公衆浴場の指定管理者の指定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。釜商工観光課長。

○商工観光課長（釜 辰信君） 議案第３６号、芦北町吉尾温泉公衆浴場の指定管理者

の指定について、御説明申し上げます。

施設の名称は芦北町吉尾温泉公衆浴場、指定管理者は芦北町大字吉尾 2 4 番地 3、吉尾温泉管理組合、組合長 深川昭明。

指定期間は、令和 3 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 3 1 日までの 3 年間としております。

提案理由につきましては記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第 3 6 号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第 3 6 号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第 4 6 議案第 3 7 号 芦北町物産館の指定管理者の指定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第 4 6、議案第 3 7 号「芦北町物産館の指定管理者の指定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。釜商工観光課長。

○商工観光課長（釜 辰信君） 議案第 3 7 号、芦北町物産館の指定管理者の指定について、御説明申し上げます。

施設の名称は芦北町物産館、指定管理者は芦北町大字田浦町 1 4 5 番地、有限会社御立岬、代表取締役 藤崎正司。

指定期間は、令和 3 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 3 1 日までの 3 年間としております。

提案理由につきましては記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第 37 号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第 37 号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第 47 議案第 38 号 芦北町御立岬公園の指定管理者の指定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第 47、議案第 38 号「芦北町御立岬公園の指定管理者の指定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。釜商工観光課長。

○商工観光課長（釜 辰信君） 議案第 38 号、芦北町御立岬公園の指定管理者の指定について、御説明申し上げます。

施設の名称は芦北町御立岬公園、釣り場を除きます。指定管理者は芦北町大字田浦町 145 番地、有限会社御立岬、代表取締役 藤崎正司。

指定の期間は、令和 3 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までの 3 年間としております。

提案理由については記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第 38 号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第 38 号は原案のとおり

り可決しました。

-----○-----

第 4 8 議案第 3 9 号 芦北町御立岬公園釣り場の指定管理者の指定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第 4 8、議案第 3 9 号「芦北町御立岬公園釣り場の指定管理者の指定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。釜商工観光課長。

○商工観光課長（釜 辰信君） 議案第 3 9 号、芦北町御立岬公園釣り場の指定管理者の指定について、御説明申し上げます。

施設の名称は芦北町御立岬公園釣り場、指定管理者は芦北町大字田浦町 4 2 6 番地 3、芦北町漁業協同組合、代表理事組合長 山元光晴。

指定の期間は、令和 3 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 3 1 日までの 3 年間としております。

提案理由については記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第 3 9 号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第 3 9 号は原案のとおり可決しました。

-----○-----

第 4 9 議案第 4 0 号 芦北町大野温泉センターの指定管理者の指定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第 4 9、議案第 4 0 号「芦北町大野温泉センターの指定管理者の指定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。釜商工観光課長。

○商工観光課長（釜 辰信君） 議案第 4 0 号、芦北町大野温泉センターの指定管理者の指定について、御説明申し上げます。

施設の名称は芦北町大野温泉センター、指定管理者は芦北町大字佐敷 4 2 4 番地、

あしきた農業協同組合、代表理事組合長 千々岩巧。

指定の期間は、令和３年４月１日から令和６年３月３１日までの３年間としております。

提案理由につきましては記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第４０号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第４０号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第５０ 議案第４１号 古石地区生涯学習センターみどりの里の指定管理者の指定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第５０、議案第４１号「古石地区生涯学習センターみどりの里の指定管理者の指定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。福井生涯学習課長。

○生涯学習課長（福井成昭君） 議案第４１号、古石地区生涯学習センターみどりの里の指定管理者の指定について、御説明申し上げます。

施設の名称は古石地区生涯学習センターみどりの里、指定管理者は芦北町大字古石３９１番地２、古石緑創会、会長 森下弘美。

指定の期間は、令和３年４月１日から令和６年３月３１日までの３年間としております。

提案理由につきましては記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第41号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第41号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

○議長（宮尾秀行君） 以上で、本日の日程は全て終了しました。

本日はこれで散会します。

御苦労様でした。

—————○—————

散会 午後2時20分

令和3年第2回芦北町議会定例会議事日程（第2号）

令和3年3月11日

午前10時 開 議

於 議 場

1 議事日程

第1 一般質問

（閉 会）

2 出席議員（14人）

1番 楠 原 清 照 君

3番 林 田 燿 宏 君

5番 宮 内 道 則 君

7番 古 村 逸 男 君

10番 元 山 秀 志 君

12番 川 尻 成 美 君

15番 草 野 安 道 君

2番 長 口 隆 君

4番 坂 本 登 君

6番 寺 本 順 一 君

9番 前 田 徹 一 君

11番 平 松 洋 一 君

13番 寺 本 修 一 君

16番 宮 尾 秀 行 君

3 欠席議員（2人）

8番 白 坂 康 浩 君

14番 岡 部 恵美子 君

4 説明のため出席した者の職氏名（17人）

町 長 竹 崎 一 成 君

教 育 長 岩 田 繁 義 君

企画財政課長 川 尾 敏 浩 君

住民生活課長 田 淵 耕 一 君

健康増進課長 田 中 公 広 君

商工観光課長 釜 辰 信 君

上下水道課長 杉 本 芳 郎 君

教 育 課 長 白 坂 達 也 君

コミュニティセンター課長 志 水 哲 治 君

副 町 長 藤 崎 正 司 君

総 務 課 長 松 本 俊 造 君

税 務 課 長 元 山 俊 治 君

福 祉 課 長 内 田 照 也 君

農林水産課長 佐 竹 貴 幸 君

建 設 課 長 鎌 倉 博 之 君

会 計 管 理 者 福 田 貴 司 君

生涯学習課長 福 井 成 昭 君

5 職務のため出席した事務局職員の職氏名（2人）

議会事務局長 長 崎 十三男 君 次長（課長補佐） 田 代 忍 君

令和３年第２回定例会一般質問通告表

質問 順番	質問者	質問事項	質問の要旨	質問の相手
1	坂本 登	1 安心して暮らせるまちづくりについて	① 「芦北町復旧・復興計画」の理念である、『自然と共生する安全・安心の「新しいあたりまえ」を創造する』について、施政方針と予算大綱でも説明がありました。災害にとらわれず、全てのことについて必要なことと思います。具体的に、どういう「新しいあたりまえ」を創造していくのかお答えください。 ② 次期総合計画を策定するうえで、「新しいあたりまえ」を明文化し、基本理念とする考えはないかお答えください。 ③ 生活保護及び準要保護児童生徒就学援助費について、令和元年度と令和２年度の申請者数をお答えください。また、コロナ禍や豪雨災害で経済的に困っている人が多いと思うが、この支援制度の周知について、どのように取り組んでいく考えかお答えください。 ④ 介護保険の重度の要介護４、５の人は、障害者手帳がなくても特別障害者手当（２７，３５０円）が支給される可能性がある。制度の周知徹底を図る考えはないかお答えください。	町長及び教育長
		2 新型コロナウイルスのワ	① 新型コロナウイルスのワクチン接種が医療関係者から始	町 長

	クチン接種と感染症対策について まっています。住民の中には期待がある一方、不安の声も少なくありません。ワクチンの安全性・有効性、副反応などのリスクについて、徹底的な情報公開をする必要があります。町の考えをお答えください。 ② ワクチンは感染収束への有力な手段ですが、未知の問題を多く抱えています。ワクチン頼みで感染対策がおろそかになれば、大きな失敗に陥ることになります。無症状感染者を含めたPCR検査の抜本的拡充など、感染対策の基本的取り組みを、同時並行で行うことが重要です。町の考えをお答えください。 ③ 町はワクチン接種を担う医師・看護師の医療体制の確保はできているか。ワクチンがどれだけの量が届くのか。希望する町民に接種場所や申し込み方法などどう考えているか。また、町民に対しワクチン接種の情報について、いつごろどのように周知する考えかお答えください。	
3 町交際費減額について	① 私は毎年、3月定例会の当初予算審議において、減額や支出先の詳細な公開等を指摘し提案し続けてきた、町交際費が来年度は減額し提案され高く評価しています。決断に至る経緯及び根拠は何かお答えください。 ② 「広報あしきた」での交際	町 長

			費の情報公開を年1回から毎月詳細に公開する必要があります。その考えはないかお答えください。	
2	楠原清照	1 芦北町復旧復興計画及びその関連事項について	① 計画書30ページの2「地域に根づき、広がる魅活力」《産業の振興》(1)農業の復旧・復興の【施策の体系】に農地及び農業用施設の早期復旧が掲げられているが、農地等災害復旧事業のこれまでの進捗状況はどうなっているのか。 ② また、農地等災害復旧事業の今後の復旧スケジュールはどのように考えているのか。 ③ 広報あしきた2月号4ページには、佐敷川・宮浦川・田川川の改良復旧のための測量のお知らせが掲載してある。その中で河川掘削工事の工程は3月から6月までの予定と示されているが達成できる見込みはあるのか。 ④ 測量後の実際の工事の概要はどのようなものになるのか。	町長及び担当課長
		2 新型コロナウイルス対策について	① 新型コロナウイルス感染予防に係るワクチン接種対策の実施の枠組みと、その目的などについて説明を求める。 ② 今後ワクチン接種が本町でも始まるが、概ねのスケジュールはどのようなものになるのか。	町長及び担当課長
		3 公職選挙法の一部を改正する法律の施	① 法律施行を受けた、選挙公営の県下町村の取り組み状況はどうなっているのか。	担当課長

		行に伴う町の 対応について	② 今後の対応をどのように考 えているのか。	
3	林田燿宏	1 健康及び食 育について	芦北町は「すべては次代を担う子どもたちのために」という理念のもと、様々な分野において時代に沿った施策に取り組んでおられます。 そこで、今回は健康と食育について質問します。 ① 芦北町・津奈木町・水俣市の1人当たりの医療費は高いと聞いているが、芦北町の医療費はいくらで、県内で何番目に高いのか。また、2月11日の熊本日日新聞で、令和3年度国民健康保険の市町村の標準保険料が公表されましたが、芦北町は80,123円と県内で3番目の安い保険料となっていました。医療費は高いが保険料は安いのは、どういう仕組みになっているのかお尋ねします。 ② H29年度、H30年度、小学5年生を対象に親子の生活習慣病検診が行われました。 令和元年度は実施されたのか、実施されたのであれば、その結果はどうだったのかお尋ねします。 ③ あしきた健康フェアについて、昨年はコロナ禍で中止されたようですが、例年盛会に開催されて健康意識の向上のために大変いいことだと思います。その中で、清涼飲料水などに使用されている砂糖の	町長及び 教育長

			量が目視できるコーナーがあり驚きました。フェアに参加できない保護者等のため、PTA総会などに出向き啓発活動など出来ないか、お尋ねします。 ④ 教育委員会では、食育に関する取り組みが円滑に進むよう関係機関と連携されていると伺っています。どのような機関と連携しているのか、また、より安全で安心な給食をどう考えているのかお尋ねします。	
4	川尻成美	1 芦北町復旧・復興計画について	① 「芦北町復旧・復興計画」の策定までの経緯を説明ください。 ② パブリックコメントについて、20名の方から意見があったようですが、計画にどう反映されたのか伺います。 ③ 町民の声を聞く場として、懇談会の開催などは考えなかったのか伺います。 ④ 今後の進捗管理及び計画の見直しについて、年2回（9月・3月）計画されているようですが、どういう方法で改定されるのか伺います。 ⑤ 「住まい・生活再建の支援」について、解体したあと地の嵩上げ造成について、支援を望む声がありますが、支援する考えはないか伺います。 ⑥ 水産業の環境整備のなかに「漁場の環境改善」が盛り込まれています。県や漁協と連	町長及び担当課長

			携し環境調査等、具体的に取り組む考えはないか伺います。	
--	--	--	-----------------------------	--

開会 午前10時00分

-----○-----

○議長（宮尾秀行君） おはようございます。

直ちに本日の会議を開きます。

岡部君、白坂君から欠席届が出ております。

本日の日程は、お手元に配付しております議事日程のとおりであります。

-----○-----

第1 一般質問

○議長（宮尾秀行君） 日程第1「一般質問」を行います。

質問通告者は4人です。

通告書は、お手元に配付しております。

質問時間は、従来どおり、補助質問を含めて30分以内に制限します。

それから、一般質問は通告制であります。質問に関連して求める関連質問は許可しません。質問にあたっては、通告内容に基づいた質問をされるよう求めます。

なお、執行部の答弁も明快かつ簡潔に願います。

それでは、順番に発言を許します。

初めに、坂本君。

○4番（坂本 登君） 皆さん、おはようございます。

日本共産党の坂本登です。

議長の許可のもと、3項目について質問いたします。

最初に、安心して暮らせるまちづくりについてお聞きします。

①「芦北町復旧・復興計画」の理念である『自然と共生する安全・安心の「新しいあたりまえ」を創造する』について、施政方針と予算大綱でも説明がありました。災害にとらわれず、全てのことについて必要なことと思います。具体的にどういう「新しいあたりまえ」を創造していくのかお答えください。

②次期総合計画を策定する上で、「新しいあたりまえ」を具体化し、基本理念に明文化する考えはありますか。

③生活保護及び準要保護児童生徒就学援助費について、令和元年度と令和2年度の申請者数をお答えください。また、コロナ禍や豪雨災害で経済的に困っている人が多いと思いますが、この支援制度の周知について、どのように取り組んでいく考えかお答えください。

④介護保険の重度の要介護4と5の人は、障がい者手帳がなくても特別障害者手当、月2万7,350円が支給される可能性があります。制度の周知徹底を図る考えはありますか。

2、新型コロナウイルスのワクチン接種と感染対策についてお聞きます。

①新型コロナウイルスのワクチン接種が医療関係者から始まっています。住民の中には期待がある一方、不安の声も少なくありません。ワクチンの安全性・有効性、副反応などのリスクについて、徹底的な情報公開をする必要があります。町の考えをお答えください。

②ワクチンは感染収束への有力な手段と思いますが、未知の問題を多く抱えています。ワクチン頼みで感染対策がおろそかになれば、大きな失敗に陥る可能性があります。無症状感染者を含めたPCR検査の抜本的拡充など、感染対策の基本的取組を、同時並行で行うことが重要です。町の考えをお答えください。

③町はワクチン接種を担う医師・看護師の医療体制の確保はできていますか。ワクチンはどれだけの量が届きますか。希望する町民に接種場所や申し込み方法など、どのように考えていますか。また、町民に対し、ワクチン接種の情報について、いつ頃、どのように周知する考えかお答えください。

3番目に、町交際費減額についてお聞きます。

①私は毎年、3月定例会の当初予算審議において、減額や支出先の詳細な公開等を指摘し、提案し続けてきました。町交際費が、来年度は減額し提案され、高く評価しています。決断に至る経緯及び根拠は何かをお答えください。

②「広報あしきた」での交際費の情報公開を年1回から毎月詳細に公開する必要があります。その考えはありませんかお答えください。

以上で、本壇からの質問を終わります。再質問は質問席から行います。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君の1回目の質問が終わりました。答弁を求めます。竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 坂本議員の質問にお答えいたします。

質問の主題1の①につきましては、御指摘のとおり、今までの常識や固定観念といったあたりまえにとらわれず、環境の変化や社会情勢に対応することは、災害に限らず様々な側面で必要なことであると認識しております。職員一人一人がそれぞれの業務の中で、これまでのあたりまえにとらわれず、業務改善や事業の見直しを図り、町民とともに歩んでいくことを期待しています。

次に、②について、お答えいたします。現行の第2次芦北町総合計画は、2015年から2024年までの期間となっております。御質問いただきました次期総合計画での基本理念の設定につきましては、参考意見とさせていただきます。

次に、質問の主題3の①についてお答えいたします。町交際費につきましては、新型コロナウイルス感染症の問題や7月豪雨災害など、現下の状況を踏まえ、災害後の早い段階で担当課長に見直しの指示を出していたところであります。御質問の

ように、定例会では坂本議員がこのことにつきましては指摘、提言をなされておりましたが、今回、それに対応する形となったわけでもございますが、担当課で検討もしておりまして、今回の減額要求なったものであります。これは不断の見直しの一環であると理解しております。

なお、残余の質問につきましては、担当課長から答弁をさせます。

○議長（宮尾秀行君） 岩田教育長。

○教育長（岩田繁義君） 質問の主題１の③の準要保護児童生徒就学援助費についてお答えいたします。

準要保護児童生徒の申請者数につきましては、令和元年度は１５２名、令和２年度は１７４名が申請されております。制度の周知につきましては、毎年、学校を通じて全保護者に制度説明のチラシを配布しておるところでございます。また、豪雨災害に対応した制度についても、昨年１０月に周知を行っており、１２名の追加申請がっております。

○議長（宮尾秀行君） 松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） 主題１の①について、お答えいたします。具体的にどのような、新しいあたりまえを創造するかについてでございますけれども、まず先端技術の活用、いわゆるＩＣＴの積極的な活用が考えられます。例えば、スマートフォン用のアプリであるＬＩＮＥを活用して防災情報を発信するため、昨年１２月議会において予算を計上し、システムを構築しております。先般行われました県との合同防災訓練におきましても、試験的に運用を行ったところでございます。また、今回の当初予算に計上しております住宅移転に係ります補助金、これまでレッドゾーンからの移転に対して補助していた事業に加え、イエローゾーンからの移転を町独自で支援する内容となります。今、防災面での取組を御紹介いたしましたけれども、町長が申し上げましたとおり、防災に限らず、あらゆる側面において必要な視点であると考えますので、業務や事業を見直し、新たな取組を積極的に行えるよう、各職員への意識づけを行ってまいりたいと考えてございます。

次に、主題の３、①の交際費についてお答えいたします。令和２年度においては新型コロナウイルス感染症や豪雨災害などが影響しまして、予算額が大きく下回る状況で推移をしております。交際費の性質上、明確な積み上げはございませんけれども、現状や今後の動向、過去の支出状況の精査等を踏まえ、今回の予算額になったものでございます。

次に、②についてお答えいたします。交際費の情報公開については、現在、御指摘のとおり、広報あしきたなどで年１回、使途、金額などを公表しているところです。回数については、現時点では明示できませんけれども、他自治体も参考に、公

開内容、手法も含めて検討を進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 内田福祉課長。

○福祉課長（内田照也君） 質問の主題１の③の生活保護について、お答えいたします。

令和元年度の生活保護申請件数は２２件で、令和２年度は３月１日現在で６件の申請があり、新型コロナウイルス感染症拡大が原因で離職し、生活保護の決定となったのは１件です。なお、豪雨災害関係の申請はありませんでした。

制度の周知につきましては、生活保護の実施機関であります福祉事務所が、その制度について熊本県のホームページに掲載し、周知を図っております。また、本町におきましては、福祉課窓口での制度説明をはじめ、民生委員や社会福祉協議会、地域支え合いセンターによる見守り活動や困りごと相談を行っており、引き続き周知を図ってまいります。

次に、④についてお答えいたします。特別障がい者手当は介護認定及び障がい者手帳の有無に関わらず、国が示した基準に基づき、主治医の診断書により県が認定する制度となります。本町におきましては、県の要請により、まちだよりやホームページで周知を行っております。今後も身体の状態を最も把握しているケアマネージャー、介護支援専門員の協力を得ながら、戸別訪問を行い、制度説明を行った上で申請につなげてまいります。

○議長（宮尾秀行君） 田中健康増進課長。

○健康増進課長（田中公広君） 質問の主題２の①について、お答えします。ワクチンの安全性や副反応など、ワクチンの接種に迷っておられる方の不安解消を図るため、またワクチン接種は多くの方に接種してもらうことで、大きな予防効果を出すことができますので、多くの方に安心して接種を受けてもらうことが重要であると認識しております。そのためにも、ワクチンに関する情報につきましては、あらゆる情報を包み隠さず公開していくことが重要であると考えております。

次に、②についてお答えいたします。一般的にワクチンは重症化や発症を予防する効果はありますが、感染を１００％予防するものではございません。また、ワクチンの接種をされない方もいらっしゃいますので、感染対策は今後必要であると考えております。マスクの着用、手洗いの徹底、三密を避けるなど、徹底した感染予防を行い、新しい生活様式を実践することが感染予防では重要であると考えております。

なお、ＰＣＲ検査につきましては、全国、県、また本町の感染状況も最後に感染が確認されてから約１月が経過し、落ち着いてきており、ワクチン接種も始まることから、今後も感染状況を注視する中で検討していきたいと思っております。

次に、③についてお答えします。ワクチンの接種を担う医療体制の確保につきましては、水俣市・葦北郡医師会等の御協力をいただき、町内の医療機関をお願いをし、個別接種及び集団接種への協力について了解を得ているところでございます。

ワクチンの供給につきましては、最新の情報では高齢者分の最初のワクチンが4月下旬に供給され、最終的に6月中に配送を完了するとのことです。それ以降の日程や供給量については、現在のところ、全く示されておりません。また、町民へのお知らせにつきましては、3月の広報あしきたで広報を行います。

なお、新型コロナウイルスワクチン接種につきましては、対象者へ個別に御案内いたします。まず、3月中に65歳以上の高齢者の方に接種クーポン券、接種券でございまして、接種の御案内、接種申込書を送付いたします。その後、申し込みの集計等を行いまして、予診票と日時等の具体的な御案内を行ってまいります。64歳以下の方につきましては、ワクチンの供給状況や高齢者の接種状況等を判断しまして、案内等を行ってまいります。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） まず、安心して暮らせるまちづくりについて、再質問します。

新しいあたりまえについて、担当課長から答弁がされました。町長は、令和3年度施政方針と予算大綱の結びに、これまでのあたりまえと考えていたものが通用しない時代となりました。社会変革に対応した新しいあたりまえを町民の皆さんと創造し、全ては次代を担う子どもたちのために、被災前より光り輝く郷土芦北町を築くため、全力を傾注してまいります。議会並びに町民の皆様の御理解と御協力を心からお願い申し上げますと結ばれました。

また、芦北町復旧・復興計画には、はじめにのところで、「これまでのあたりまえと考えていたものが通用しない時代となっています。今までのあたりまえにとらわれることなく、新しいあたりまえを町民の皆様とともに創造してまいりたいと考えています。」と、このように記載されています。私は、令和3年度施政方針と予算大綱及び芦北町復旧・復興計画を何度も読み返しました。何回も読み返し、今までのあたりまえにとらわれることなくということを、私なりによく考えてみました。考えたことは、これまでのあたりまえはまちづくりの全てにおいて、どちらかというとコンサルタントや肩書や要職のある人、あるいは各組織の代表など、男性の意見が重んじられ、町民個人の声や女性の意見など届きにくく、性の多様性やジェンダー平等に対する認識も薄かったと思います。私は、このように解釈し、これまでのあたりまえが通用しない時代と理解しました。この思いで、今までのあたりまえにとらわれることなく、新しいあたりまえを町民の皆様とともに創造してまいりた

いという町長の言葉に心が動かされました。特に、新しいあたりまをを町民の皆様とともに創造するという、住民目線の新鮮さに感動しました。町民とともに新しいあたりまをを創造することに、大いに期待しています。

そこで、町長にお聞きします。町長は12月の芦北町長選挙において、圧倒的な町民の指示を得て再選されました。町民は、これから4年間の芦北町政を竹崎町長に託しました。コロナウイルス感染の克服、7月豪雨災害からの復旧・復興はもちろんのこと、安心して暮らせるまちづくりを進めるため、今期4年間の任期中に芦北町の最上位計画である2025年から2034年までの10年間の次期芦北町総合計画を町民とともに完成させ、安心して暮らせるまちづくりの道筋をつくることが最大の責務です。次期芦北町総合計画2025から2034年を策定するにあたっては、今までのあたりまえにとらわれることなく、住民2,000人アンケートをさらに発展させ、全世帯アンケートの実施など、学識者やコンサルタント委託はあくまでも補助的にし、住民目線での次期芦北町総合計画の具体化を考えていただきたい。

先ほど、新しいあたりまえには参考にすると1回目の町長からの答弁がありました。次期芦北町総合計画に対する町長の見解をお聞かせください。

○議長（宮尾秀行君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 今、坂本議員が述べられたとおりでございます、新しいあたりまをを構築していかなければなりません。これはもう一人本町だけの問題ではありませんで、全国的な課題でもありますし、世界的な課題でもあるわけでありまして。大きくその時流が変わりつつある中でありますので、今後、御提言がございましたようにですね、ジェンダー平等等も含めながら、住民目線、大切にして取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） 特に女性の地位の向上といいますか、今見て分かるように、この議場内に女性は今日欠席されていますので、いないという状況になっております。執行部の席にも女性が座れることを願っております。

次に、1の③についてお聞きします。生活保護及び準要保護児童生徒就学援助費について、令和元年度と令和2年度の申請者数と経済的に困っている人の支援制度の周知について、それぞれ福祉課長、また教育長から答弁がありました。

そこで、教育課長にお聞きします。誰にでも病気や事故による生活環境の変化及び自然災害などにより生活困窮になる可能性があります。児童生徒の保護者が経済的に困った状況になった場合、学校現場においては年間を通して先ほど答弁されました支援制度の申し込みがいつでもできますか。相談窓口はどこに行けばいいです

か、お答えください。

○議長（宮尾秀行君） 白坂教育課長。

○教育課長（白坂達也君） お答えいたします。

生活環境に変化があり、経済的に困った状況になった保護者からの準要保護児童生徒就学援助費の申請につきましては、個別に随時行っております。なお、相談窓口につきましては、学校または教育委員会で行っております。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） 確認です。年間通していつでもいいということですか。

○議長（宮尾秀行君） 白坂教育課長。

○教育課長（白坂達也君） はい。その通りでございます。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） 次に、コロナ禍や豪雨災害で経済的に困っている住民の声を紹介します。お聞きください。まず、40代男性の声です。「夫婦で小さな店をしていましたが、水害で自宅は公費解体を申し込み、店舗は再開することができなくなりました。商工会の支援もあり、何とか生活はできていますが、みなし仮設は2年後に出て行かないといけないという不安があります。また、お店の開店資金の借金の返済を考えて、妻が心を病んでしまいました。仕事が見つからず、生活のことを考えると不安で困っています。」という声です。

次に、20代女性の声です。「私はシングルマザーです。この1年、コロナと豪雨災害で生活環境が一変し、心が苦しく辛いです。ちょっとしたことでも子どもに八つ当たりしてしまい情けないです。経済的に不安な気持ちやいろいろ困っていることを聞いてもらえるだけでも安心できるんです。私の気持ちを分かしてほしい。どこに相談に行けばいいのか分からない。そして、どんな支援策があるか知りたいです。」という悲痛な声です。

次に、50代女性の声です。「7月の豪雨災害でパート先が閉店しました。3つのパートの仕事をしていたのですが、そのうちの1つが閉店したことにより、何とか今まで生活できてきたのが食費を切り詰めての生活になり、パート先を探していますが、なかなか見つかりません。もう少し辛抱すれば、景気もよくなると思って頑張っていますが、大変きつく困っています。」という声です。

私は、この女性の声を聞いて、芦北町で営業していた野坂屋旅館さん、ファミリーレストランのジョイフルさん、食料品スーパーマルショクさんなどが閉店しています。この女性と同じように、閉店したところでパートとして働いていた人たちがいると思います。その人たちも同じように経済的に困っている方がいるのではないかと思います。

そこで、福祉課長にお聞きします。今、御紹介した3名の方の声は、私が聞いた一部でしかありません。コロナ禍と豪雨災害により声を上げられずに困っている方がまだまだいると思われます。町があらゆる手立てを活用し、困っている人を把握して、現時点での支援策を100%適用していただきたい。困っている人がどんな人であっても寄り添い、誰ひとりとして見逃すことなく、個人として大切にします。この3人に対する支援策にはどんなことが考えられるでしょうか。また、どこに相談に行けばいいのでしょうか、お答えください。

○議長（宮尾秀行君） 内田福祉課長。

○福祉課長（内田照也君） ただ今の住民の方の声に対するそれぞれの支援策、あるいは相談先についてのお尋ねでございますが、共通しているところがございますので、主なものを申し上げますと、まず社会福祉協議会におきましては、仕事や生活費などの不安や困りごとに対する生活困窮者自立支援相談などがあります。これにつきましては、生活福祉資金緊急小口資金の貸付け等がございます。また、豪雨災害により被災された方の生活再建等につきましては、地域支え合いセンターの生活支援相談員が巡回訪問を行っております。そのほか、福祉事務所におきましては、女性相談員が就職相談や生活困窮相談などを行っております。

このように、様々な支援策や相談先がありますので、まずは悩まずに福祉課へ御相談いただきたいと考えております。適切に関係機関につないで、適切に対応してまいりたいと思います。

なお、もし相談されたい方がいらっしゃいましたら、情報をいただきますと、すぐに福祉課で対応してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） 素晴らしい答弁だったと思います。なかなか自分から声を上げるということができない方もいらっしゃいますので、今言われたように、もう相談員、いろんな方が訪問して、もう状況を把握して、是非寄り添っていただきたい、このように思います。

次に、商工観光課長にお聞きします。紹介した声にあったように、地場産業の中にはコロナ禍と豪雨災害により廃業になったところと、やむを得ず店を閉めたところもあり、廃業まではいかなくても、経済的に困っている地場産業もあると思われます。この間、国・県の支援策を含め、多くの支援策を町は実施されています。その中で、町独自に実施している主な支援策をお答えください。

○議長（宮尾秀行君） 釜商工観光課長。

○商工観光課長（釜 辰信君） お答えいたします。

地場産業の対策でございますが、今、芦北町では芦北町事業の継続支援金や家賃等の支援金、そして飲食店応援推進事業でクーポン券を発行し、特別資金での借入利息の5年間の全額補助等を幅広く支援しております。現在、町ホームページや広報紙等で周知をいたしまして、非常に相談数も多く、職員も親身になって対応しておるところでございます。

今後続くコロナ対策や災害対策と併用しまして、国・県の動向を見ながら、町独自の対応・対策を行ってまいります。いつでも相談に乗りますので、困っておられる方がいらっしゃいましたら、商工観光課にどしどし相談に来てください。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） 力強い答弁でした。

地場産業がこの本当に1、2年を何とか乗り切って、また活気ある地場産業になるように頑張っていたきたいと思います。

次に、④の要介護4と5の方の特別障がい者手当支給についてお聞きします。今後は、ケアマネジャーの協力で申請につなげていくと答弁されました。そこで、担当課長にお尋ねします。芦北町の介護保険の要介護4と5で、特別障がい者手当が支給される可能性がある方は何人ですか。そのうち、特別障がい者手当を現在支給されている人は何人ですか、お答えください。

○議長（宮尾秀行君） 内田福祉課長。

○福祉課長（内田照也君） 特別障がい者手当が支給される可能性がある方は50人で、そのうち特別障がい者手当の受給者数は1人となっております。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） 可能性がある方が50人、支給されている方が1人と答弁されました。

議長の許可を得てお配りしている参考資料を御覧ください。「障がい者手帳がなくとももらえる特別障がい者手当、月2.7万円、要介護4・5の人も可能性」と大きく見出しになっています。中身については、それぞれ御覧になってください。

芦北町では、特別障がい者手当を支給されている方は1名ということなので、その他の要介護4と5の方の50人もいくつかの基準をクリアすれば支給される可能性があります。申請には医師の診断書が必要になりますので、先ほど答弁されましたケアマネジャーの協力を受けて、申請できるように進めてほしいがいかがでしょうか。

○議長（宮尾秀行君） 内田福祉課長。

○福祉課長（内田照也君） 先ほどの繰り返しになりますが、今後も要介護者の生活の

状況や身体の状態を最も把握しているケアマネジャーの協力を得ながら戸別訪問を行い、制度説明を行った上で漏れがないよう申請につなげてまいりたいと考えております。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） ケアマネジャーが個別に状態をよく把握しており、協力を受けて対応すると答弁されました。いい答弁だと思います。可能性のある方々には大きな支援になると思います。是非とも50人のうち、基準をクリアした全員が特別障がい者手当を月2万7,350円を受け取れるように、ケアマネジャーの方と協議し、申請の手続きを進めてください。よろしくお願いします。

次に、新型コロナウイルスワクチン接種について、2回目の質問を行います。担当課長から現状について、それぞれについて答弁をされました。

ここで住民の声を紹介します。60代男性の声です。お聞きください。「コロナのワクチンが出来たと聞いた。やっと出来た、早く打ちたい気持ちはあるが、安全なのか心配もある。正直、用心のためにある程度の接種が終わり、安全性にどうもなければ自分も打ちたいと思う。ワクチンへの期待が大きいだけに徹底した情報を知らせて、安心して打てるようにしてほしい。」という声です。

次に、50代女性の声を紹介します。「私自身、コロナワクチンへの期待はかなりありますが、自分のことよりも子どものことが心配です。出産に影響はないのか、妊娠中の女性に打っても、胎児や母体は大丈夫なのか。また、女性の妊娠・出産に影響はないのか。男性の精子減少に影響はないのか。もし影響が出た場合の補償はあるのか。若い子たちのことを考えると心配です。」という声です。

次に、20代女性の声を紹介します。「コロナウイルス感染症のワクチン接種の報道をテレビで見たとき、一番先に思ったことは何年か前に子宮頸がん予防ワクチン接種のとき、女子中学生の副作用報道のことが頭をよぎりました。障がいが残ったときの責任は誰が取るのか。補償はあるのか。私たちの世代は妊娠・出産に対し安心できるのか、一番の不安なことが何も分からない。ワクチンを打つか打たないか、強制ではないといっても、打たないことで差別や偏見が怖いです。自己責任を言う前に、国は安心できる情報を徹底公開してほしい。」という20代の女性の声です。

そこで、健康増進課長にお聞きします。今御紹介した3人の声に共通することは、コロナウイルスワクチン接種に対する徹底した情報公開です。新しい情報が次から次に入ってくると思います。先ほど答弁もされました。今御紹介した3人の方々の不安の声に、現段階で分かっていることをお答えください。特に女性の妊娠・出産、こういった場面で今分かっていることをお答えをいただきたいと思います。また、今後

の具体的な政府の方針など、その都度、分かりやすく町民に周知してほしいがいか
がですか、お答えください。

○議長（宮尾秀行君） 田中健康増進課長。

○健康増進課長（田中公広君） お答えいたします。

まず、20代の女性の方の御不安といいますか、妊娠・出産に関することという
ことでございますけれども、妊婦の方につきましては、特別に推奨しないというよ
うなことで公開されていたというふうに理解しております。

また、情報につきましては、現実的にはテレビ、新聞等で報道されます情報が非
常に速ようございまして、私たちに入ってくる情報よりも一般的に公開されている
情報が非常に速いという状態でございます。

なお、現在もアナフィラキシーの情報が非常に出ておりますけれども、ああいつ
たこともですね、一つワクチンの接種につきましてはマイナスイメージにつながる
かと思っておりますけれども、国のほうも積極的に情報公開をしておりますので、情報公
開は包み隠さず行われているものというふうに考えておりますし、もし町のほうに
ですね、それ以外の情報が入りましたら、皆様にお伝えしていきたいというふうに
考えております。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） 町民の意識の中にはですね、まあそれはテレビ、いろんな情報
はたくさんあります。ネットもありますし、しかし、町の広報なりで一番やっぱり
出たのを、一番信じると思うんですね。安心できると思いますので。是非よろしく
お願いしておきます。

次に、感染対策について、健康増進課長にお聞きします。コロナ感染拡大の第3
波が芦北町にも拡がり、みつば学園での感染者の報道がされました。感染防止対策
を強化されたと思います。現在の感染者数と特徴をお聞かせください。また。どの
ような町独自の感染拡大防止対策を実施してきたのか、お答えください。

○議長（宮尾秀行君） 田中健康増進課長。

○健康増進課長（田中公広君） お答えいたします。

まず、障がい者施設のクラスターでございますけれども、クラスターにつきまし
ては47人ということで、感染が確認されたという状況でございました。内訳は、
入所者が40人、通所利用者が1人、職員が6人ということでございまして、その
中の職員のうちお二人は町外在住ということでございました。ただ、クラスターに
つきましては、2月26日金曜日、24時をもって収束ということで発表されてい
るところでございます。

現在、3月10日現在でございますけれども、芦北町で確認されております感染者数につきましては、累計で102人でございます。本町では8月18日に最初の感染が確認をされまして、12月22日には14人目の感染が確認されて、それからですね、1月中旬までが感染がほぼ毎日確認をされたという状況で増えてきたというところでございます。

その後は、先ほど申し上げましたように、1月20日に障がい者施設の最初の感染者が確認をされてクラスター発生ということもございまして、急激に感染者が増えてきたというような状況でございます。

現在、本町では最後の感染が確認された方がですね、2月11日が最後でございますので、ちょうど1月経過をしていると、感染が確認されていないという状況でございます。

それと、感染の防止対策でございますけれども、強化でございますけれども、非常にもう感染が多かったという状況でもございますので、感染対策につきましては、広報あしきた、まちだより、防災行政無線等のですね、あらゆる手段を使いまして周知を行ったところでございます。現在も防災行政無線で周知を図っているところでございます。

また、各家庭のほうには、広報紙と同時に健康増進課のほうで作成いたしましたチラシのほうを配布を行って、感染予防の対策を呼び掛けたところでございます。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） 1カ月感染者が出ていないということですが、もう決して安心することなくですね、第2波から第3波にきたときも、私は議会で取り上げましたが、自分自身の気が緩んでたと。だから、今回も1カ月出てないからということで、もう緩めることなく、ワクチン等の供与といいますか、考えていただきたいと思います。

そこで、このウイルスの感染対策について、最後に町長にお聞きします。コロナウイルス感染症について、12月議会及び2月には日本共産党南部地区委員会として、無症状者を含め、高齢者施設等のPCR検査の町独自の拡充を提案しました。町長は、お気持ちは十分理解できますので、研究させてくださいとお答えになりました。町民にワクチン接種が行き渡るには、まだまだ時間がかかります。国も高齢者施設等での社会的検査の拡充や、無症状者に焦点を当てた市中感染源発見のための検査を位置づけました。3月中にも実施されるかも分かりませんが、県内の熊本市、上天草市、山鹿市、宇土市などは、国の決定に先駆けて独自に検査を決めた自治体です。町独自の無症状者を含め、高齢者施設等のPCR検査の拡充を実施する

には、財源確保が課題になることは十分わかっています。みつば学園の感染拡大は抑え込んだとはいえ、安心はできません。是非工夫し、知恵を絞って、ワクチン接種と高齢者施設等のPCR検査の拡充を同時並行で実現してください。町長の政治判断を望みます。いかがでしょうか。

○議長（宮尾秀行君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 御要望にお出でまして、いろいろとお話を聞かせていただきました。本町でも担当課を交えまして、数度に渡り研究・協議を行いました。その間、新規の感染者、全国的にも減少傾向になりつつありまして、当面、状況を見ようということであるわけでありまして、さらにですね、私どももこの感染拡大防止については、しっかりとした対応をするようですね、臨んでいきたいと思います。先進例につきましても、こちらにもいろいろと調べたわけでございますが、いろんな制限付きだったり、条件付きだったりもあるみたいでありますけれどもね。まあ何がいいかというのをまた今後検討させていただきたいと思います。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） 町交際費減額について、再質問を行います。

担当課長から、減額に至る経緯、根拠を答弁されました。私は、議員に当選以来、一貫して町民の目線で交際費の減額提案をしてまいりました。毎回の3月定例会の採決では、賛同者はなく、一人ぼっちで孤立し、周りからは一人で反対しても何も変わらない。多数決だからあきらめたらと最初の頃はよく言われました。しかし、11年目にして交際費の減額提案がされたじゃありませんか。町民の代弁者に徹して、決してあきらめなかったからです。昨年、藤崎副町長に面会し、交際費減額に対する私の思いの丈をまっすぐにお伝えし、この思いを町長に伝えてくださいとお願いをいたしました。その後、何日かしてから竹崎町長に、日本共産党として、町長室で田村貴昭衆議院議員と一緒に災害復旧について懇談をいたしました。終了後、町長から話があるから残っていてほしいと言われました。そして、町長から、副町長から坂本議員の思いは聞きました。あなたの議員としてまじめな活動と議会での姿勢をずっと見てきました。あなたの思いは、政治家として約束するとおっしゃっていただきました。思いを伝えていただいた副町長に感謝をいたします。

今定例会、議会運営委員会の後配られた、令和3年度芦北町予算書を見て、町交際費の減額を確認したとき、本当にうれしかったです。残る課題は、町交際費の公開度が影響して、情報公開度県内最下位の報道を見返すことです。町長をはじめ、多くの町民が悔しい思いをしたことでしょう。情報公開度県内1位の熊本県と比較し、徹底検証し、芦北町情報公開条例の改正も含め、また職員一丸となって市民オンブズマンによる情報公開度県内最下位の報道を覆すこと、この使命を総務課長は

事務方トップとして負っていると思います。総務課長、先ほど検討すると言われましたが、そのようになるように一言答弁をお願いします。

○議長（宮尾秀行君） 松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） 御指摘のオンブズマンのですね、ランキングについては重々承知をして、内容も分析をしております。町交際費のですね、情報公開についても、検討も進めてございますので、あわせて検討を加えておりますので、できる限り速やかに行うように努めてまいりたいと思っております。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君。

○4番（坂本 登君） 是非、町民、また町長、また我々議会人も、二度と悔しい思いをしなくていいようによろしくお願いをいたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 坂本君の質問が終わりました。

しばらく休憩します。議場の時計で11時から再開します。

-----○-----

休憩 午前10時51分

再開 午前11時00分

-----○-----

○議長（宮尾秀行君） 全員お揃いですので、休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、楠原君。

○1番（楠原清照君） 楠原でございます。

議長のお許しを得て質問をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、本日は3月11日、東日本大震災発生からちょうど10年の節目を迎えております。ここに改めまして、犠牲となられた1万5,899名の御霊に哀悼の意を表明いたします。

それでは、議員としての私、初質問ということでございますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

私の政治信条といたしましては、今後、体調不良等がない限り、毎議会、一般質問をさせていただくつもりでございます。町長におかれましては、御迷惑とお手間をおかけしますが、御対応方よろしくお願い申し上げます。

もとより、議会におきましての私の質問は、是は是、非は非としつつも、できるだけ建設的、前向きな観点から質問をさせていただこうと思っております。また、ここ芦北町議会議場は、町民に開かれた議論の場、芦北町をともに一生懸命、そして真剣に考える議論の場、そして何より議会秩序を維持し、国会にもまさる品格のある議論の場であるべきと考えておるところでございます。

国会中継等を見ておりますと、解決せねばならない難題が盛りだくさんあると申しますのに、野党は政権の足を引っ張ることしか考えていないが如くであり、政府与党にあってはこれまた、のらりくらりの体たらくで、シャキッとせず、結果、国民の不満は高まるばかりと相成っておりまして、国会の信用は地に落ちようとしていると言っても過言ではございません。

我が芦北町議会は、これを他山の石として決して真似することなく、町民の負託にしっかりと応え、信頼される日本一の議会を目指していかなければならないと考えます。私は、新人の一末端議員ではございますが、志といたしましては、議員としての立場にとどまらず、時に総理大臣、時に県知事、時に町長になったつもりで物事を考え、判断し、発言してまいりたいと思っておるところでございます。

前置きが長くなりましたけれども、初の私の一般質問ということでお許しをいただきたいと思います。

さて、今回は大きく分けて3つの質問をさせていただきます。第1は、先に示されました芦北町復旧・復興計画及びその関連事項についてでございます。第2は、新型コロナウイルス対策についてでございます。最後になります第3は、公職選挙法の一部を改正する法律の施行に伴う町の対応についてでございます。

それでは、具体的に、まず第1に芦北町復旧・復興計画及びその関連事項について質問をいたします。この計画書の30ページには、農地及び農業用施設の早期復旧が掲げられておりますけれども、農地等災害復旧事業のこれまでの進捗状況はどうなっているのかお尋ねいたします。これが通告書の1の①でございます。

また、今後の農地等災害復旧事業のスケジュールはどのように考えているのか、重ねてお尋ねいたします。これが通告書の1の②でございます。

以上は農地等災害復旧事業につきまして、今年も到来する災害シーズンを前にして、農業者からこれまでの事業の進め方や今後の展開がどうなるのか、そのような声がありましたので、できるだけ情報提供し、説明する必要があるという観点から質問させていただくものでございます。

次に、その計画書に関連する事項としてでございますけれども、先般の広報あしきた2月号の4ページにですね、佐敷川、宮の浦川、田川川の改良復旧のための測量のお知らせが掲載してありました。その中で、河川掘削工事の工程は3月から6月までの予定と示されておりますが、これが実際に達成できる見込みがあるのかどうかお尋ねしたいと思います。これが通告書の1の③でございます。

さらに、測量後の実際の工事の概要はどのようなものになるのかお尋ねいたします。これが通告書1の④でございます。

以上は流域住民の皆さんの不安が未だに極めて高いこと、また当然のことながら、

河川の復旧は喫緊の課題であること。特に今般の水害に限らず、何十年にもわたって堆積した土砂の早期の、そして徹底した除去は関係流域の住民の皆さんの、これは大げさでも何でもなく、悲願なのでありまして、まず第1にはそれを望んでいるという観点から、少しでも住民の不安を解消するため質問をするものであります。なお、被災された皆さんの声を聞く度に、この不安感というものを乗り越えておりまして、災害に対して恐怖心に近い心理になっていることが実際のところであろうと痛感しているところでございます。

第2の質問は、新型コロナウイルス対策についてでございます。第1点は、新型コロナウイルス感染予防に係るワクチン接種対策の実施の枠組みと、その目的などについて説明をお願いいたします。これは通告書2の①でございます。

第2点は、今後、ワクチン接種が本町でも始まるようでございますけれども、概ねのスケジュールはどのようなものになるのかお尋ねするものです。これは通告書の2の②でございます。

以上につきまして、町民の新型コロナウイルス感染に対する不安感は未だに非常に強いものがありまして、ワクチン接種についても本町ではどのようにされるのか関心が極めて高いことから、ワクチン接種の概要を広く知らしめることで、町民の理解と協力を得て、円滑な接種に資することが重要との観点から質問するものであります。

第3の質問は、公職選挙法の一部を改正する法律の施行に伴う町の対応についてであります。公職選挙法の一部を改正する法律については、令和2年6月12日に成立し公布され、同年12月12日に施行されたところでありますが、これは簡単に申しますと、選挙公営制度に係る改正でございます。これまで市を対象としていた選挙公営制度の対象が町村にまで拡大されたということで理解をしております。このことにつきましては、近年、新聞やテレビでも取り上げられておりますけれども、全国各地で地方議員、特に町村議員の成り手不足が顕在化していることがその背景にあるといわれているところでございます。従って、この制度の趣旨は、そのような背景のもとに、候補者の選挙運動に係る経費の負担をできるだけ軽減することで、選挙の環境を改善し、立候補者の確保につなげていくという考えであると理解をしているところです。つまり、これをもっと砕いて申しますと、1つには金のかからない選挙にしようということ、2つには金のかからない選挙にすることで、その敷居を低くして、多様な人材に立候補してもらい、ひいては議会の活性化を図るということだと思います。私も今回、町議選に立候補いたしましたが、立候補にあたっては、いろいろとですね、苦勞もし、当事者となったことで、制度の必要性を強く感じているものの一人でございます。

そこで、今回の法律施行を受け、県内町村の取組状況はどうなっているのか質問します。これは通告書の３の①でございます。

また、芦北町では、まだ制度化されておりませんが、その必要性をどのように認識し、今後どのような対応を考えておられるのか質問いたします。これは通告書の３の②でございます。

以上で、質問を終わります。再質問は質問席から行わせていただきます。

○議長（宮尾秀行君） 楠原君の１回目の質問が終わりました。答弁を求めます。竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 楠原議員の質問にお答えいたします。

冒頭に、まず昨年末に執行されました芦北町議選補欠選挙におきまして、臨席の長口議員とともに、見事御当選を果たされました。改めてお喜びを申し上げます。役場職員としての経験、知識、ノウハウ等、いかに発揮されまして、哲学であります侍魂をもって町政発展のために格段のお取り組みをなさいますように御期待を申し上げたいと思います。

さて、質問の主題１の①及び②の農地及び農業用施設の早期復旧につきましては、御存知のように本町の基幹産業であります一次産業基盤の復活のため、発災直後から早期復旧に向け全力で取り組んでおります。今後も関係各所と連携し、一日も早い復旧・復興を目指してまいります。

次に、③についてお答えします。少々具体的になりますので、答弁の時間をです、ね、拝借したいと思います。７月の豪雨によりまして、町内の各河川で洪水が発生いたしました。特に町の中心部を流れる佐敷川流域においては、約３００ha、約１，３００戸を超える住宅等が浸水しております。この佐敷川につきましては、再度、災害防止に向けました復旧事業に取り組んでもらうよう、累次にわたり知事に要望したところであります。また、衆議院国土交通委員会の委員が現地を調査された際、現場において私が直接、豪雨当日の状況説明と復旧事業への支援を要望したところであります。この要望の内容はもう単純明快でありまして、堆積した土砂を取り除いてほしい、そして堤防、パラペット、これを嵩上げしてほしい、この２つがあれば災害は防げるということを強く申し上げたわけであります。

河川管理者であります熊本県は、豪雨後、速やかに浸水や護岸の被災状況などの調査に着手されておりまして、昨年の７月豪雨と同程度の増水があっても氾濫しないよう、災害復旧助成事業、いわゆる改良復旧の採択を目指し、１１月下旬には国土交通省と財務省による災害査定を受けております。その結果、新聞報道もありましたが、今月１日に国道３号、白岩橋上流の佐敷川、宮の浦川、田川川については、災害復旧助成事業として、事業費４２億３，０００万円で採択されたところであり

ます。そのほか佐敷川水系においては、国道３号白岩橋下流を防災減災対策等強化事業に取り組みます。これは全く別の制度の事業であるわけであります。既に単県事業で土砂掘削に着手しておりますが、今後、河道掘削や築堤が計画されております。

お尋ねの河川掘削工事につきましては、主に県の単独予算を用い、緊急対策として平常時の河川断面に戻すため、堆積状況や深掘りの状況など、それぞれの場所の状況に応じて安全度が高まるよう、いわゆるリスクを低めるよう、掘削工事に着手し、６月の梅雨期までもうあと４ヶ月でありますので、完了予定であると県の担当部局から説明を受け、約束をいただいております。

続きまして、主題３の②の御質問につきましては、平成に行われました市町村合併によりまして、本町に限らず、選挙運動の区域が拡大しております。全国的には市の平均を上回る面積となっております。また、地方議員の成り手不足などの課題も、お尋ねのように顕在化しておるところでありまして、全国町村会や全国町村議長会から要望も行われ、今般の法改正につながったものであります。必要性については、十分理解をいたしております。制度化にあたりましては、予算も伴いますので、議員各位の御議論と、そして平仄をあわせまして、制度化に向けた検討を進めていきたいと考えております。

なお、残余の質問につきましては、担当課長から答弁をさせます。

○議長（宮尾秀行君） 佐竹農林水産課長。

○農林水産課長（佐竹貴幸君） 質問１の①及び②につきまして、併せてお答えいたします。

まず、国の補助を受けて実施する規模の大きな災害復旧１９７件の進捗状況につきましては、発注まで定められた手順を踏む必要がありまして、昨年１２月まで国の災害査定が実施され、１月中旬に激甚災害に伴う補助率増高のための国との協議を行いました。その結果をもって、２月末日で対象となる農家さんへの意向調査を終了しており、現在、発注のための実施設計を行っているところでございます。

今後のスケジュールにつきましては、まずは多くの受益者が関係する農道や水路、ため池等の施設関係、また施工が可能な農地などから、準備が整い次第、順次発注していきたいと考えており、今月からの発注を予定しております。今回の災害は、規模も件数も多く、長期間を要するため、関係機関と連携を図りながら、令和４年度中の復旧を成し遂げることができるよう努めてまいります。

また、国の補助を受けない比較的規模の小さな災害につきましては、町単独の補助によりまして、随時、復旧を行っており、２月末時点で３７９件のうち３１７件、約８４％の復旧が完了しております。

○議長（宮尾秀行君） 鎌倉建設課長。

○建設課長（鎌倉博之君） 質問の主題１の④について、お答えします。

災害復旧助成事業につきましては、現在、現地測量が実施されております。工事の概要については、昨年の７月豪雨で河川からあふれた水を河道内に治めるため、築堤、引堤、河道掘削、また流水の阻害要因となる橋りょうや堰などの改築が計画されております。

事業区間につきましては、佐敷川が白岩橋から桑原地区までの約６km、宮の浦川が佐敷川合流点から上流へ約１．６km、田川川が佐敷川合流点から上流へ約１．３km、事業期間は令和６年度までの５年間です。

整備内容につきましては、測量成果をもとに今後具体的に定まってまいります。その後、地元への説明会が行われると聞いております。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 田中健康増進課長。

○健康増進課長（田中公広君） 質問の主題２の①について、お答えいたします。新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種は、予防接種法に基づき国の指示のもと、都道府県の協力により、市町村において予防接種を実施するものとされているところでございます。今回の予防接種は、新型コロナウイルス感染症による死亡者や重症者の発生をできる限り減らし、結果として新型コロナウイルス感染症のまん延を防止することを目的に実施されるものでございます。

次に、②についてお答えいたします。新型コロナウイルスワクチンの接種につきましては、優先順位が決められておるところでございます。町が実施する対象者につきましては、最初は６５歳以上の高齢者及び高齢者施設の職員等、次に６４歳以下の基礎疾患を有する方、その後、それ以外の方となります。なお、今回のワクチン接種につきましては、１６歳以上が対象となっているところでございます。６５歳以上の高齢者の方につきましては、３月中に接種クーポン券、接種券でございます、と接種の御案内、接種申込書を送付いたします。その後、申込の集計等を行い、予診票と日時等の具体的な御案内をいたします。６４歳以下の方については、ワクチンの供給状況や高齢者の接種状況を判断し、案内等を行ってまいります。

接種につきましては、ワクチンの供給状況により変わってまいりますけれども、本町の場合、最新の情報では高齢者分の最初のワクチン供給が４月下旬に行われ、最終的に６月中に配送を完了することになるので、高齢者の接種が７月中に終了し、その後、６４歳以下の接種が始まると思いますので、現在の状況では接種を希望される方の接種が全て終わるのは、いつ終わるかというのは、なかなか見通せない状況ということでございます。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） 質問の主題３の①について、お答えを申し上げます。県の担当部局に確認をいたしました。公式な調査の結果がございませんでしたので、当課より各自治体に電話による確認を行いました。その数値を申し上げます。御指摘のように、今回の法改正で選挙公営の範囲が町村にまで拡大をされております。本町を除きます３０町村の状況は、制定済は８団体、未制定であるものの選挙にあわせた制定予定が１７団体、制定しないが１団体、未検討が４団体となっております。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 楠原君。

○１番（楠原清照君） 御答弁ありがとうございました。

では、再質問を行います。

農林水産課長にですね、ちょっとお尋ねしたいと思います。今の御答弁で、農地等の災害復旧事業において、単独事業はですね、既に８４％が復旧しているということでございますけれども、ということは、令和３年度でほとんど完了するという見込みでよろしいのでしょうか。また、国庫補助ではですね、既に２月中に意向調査が終わっているとのことですので、対象農家の皆さんは、だいたい理解をされていると思いますので安心をいたしましたけれども、令和４年度中の復旧を目指すのであれば、令和３年度中までにはどの程度までの進捗を見込んでいるのか質問したいと思います。

○議長（宮尾秀行君） 佐竹農林水産課長。

○農林水産課長（佐竹貴幸君） お答えいたします。

まず、町単独事業の見込みについてでございますが、町単独事業の復旧につきましても、河川災害とほかの災害との絡みなどで、全てを令和３年度中ということにはならないかもしれませんが、ほとんどの箇所において完了するというふうに見込んでおります。

それから、国庫補助を受けて実施します復旧につきましては、令和３年度中までに件数ベースで約７割の完了を見込んでおるところでございます。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） 楠原君。

○１番（楠原清照君） ありがとうございました。

まあですね、いろいろ大変だとは思いますが、農地等の災害復旧の進捗状況等につきましてはですね、先ほども質問しましたとおり、今どこまで進んでおる

のか、自分の農地がどう取り扱われるのか、それらのことが分からないという声もありますものですから、今後とも農協に対する情報提供や各種広報媒体を活用して、できるだけ広く、あるいは個別にですね、周知の徹底を図る中で推進していただきたいと要望しておきます。

次に、建設課長へお尋ねいたします。

先ほど町長はですね、河川掘削工事については、平常時の河川断面に戻すために掘削工事を行うという答弁をされました。この平常時の河川断面とは、一体どういう状態のことを意味するのか、もう少し詳しく説明をお願いいたします。

○議長（宮尾秀行君） 鎌倉建設課長。

○建設課長（鎌倉博之君） お答えいたします。

平常時の河川断面に戻すとありますが、それにつきましては今回の7月豪雨で堆積した土砂と合わせて、豪雨以前にも堆積していた土砂も撤去した後の断面ということでございます。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 楠原君。

○1番（楠原清照君） ありがとうございます。

私はね、今のその答弁を聞いたかったです。これこそが地域住民がですね、望んでおる本格的な土砂撤去だと思います。これだけで私は本当にですね、100点を付けたいほど素晴らしい内容だと思います。

次にですね、本町の井上医院付近の佐敷川左岸のこの護岸の崩壊現場がございすよね。水害によりまして、護岸が数十メートルにわたり破壊されまして、今とりあえずですね、応急復旧と申しますか、土嚢が置かれてですね、保全されておるという状態でございますけど、あのままの状態ですね、今年の梅雨、災害シーズンを迎えるのだろうかとの強い懸念が住民にあります。ここの本格復旧はもう少し先になろうとは思いますが、差し当たって補強工事等は考えておられるのか、建設課長にお尋ねいたします。

○議長（宮尾秀行君） 鎌倉建設課長。

○建設課長（鎌倉博之君） お答えいたします。

お尋ねの井上病院の裏など、大型土嚢で仮復旧している箇所につきましては、梅雨期までにはシートとコンクリートで補強工事を行うということで県のほうに確認をしております。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 楠原君。

○1番（楠原清照君） ありがとうございます。

これで住民の皆さんもですね、ある程度、安心するのではないかなと思うわけでございます。河川復旧工事関係のですね、質問に対する今、町長及び建設課長の答弁は、応急復旧だけで終わるのではないかという私の懸念を払しょくさせる、想像以上のですね、徹底した本格復旧工事だということが分かりました。３月３日の熊日新聞にはですね、「復旧・復興プラン 県が工程表」とのタイトルで、大きく取り上げてありました。そして、そのサブタイトルでは、「梅雨期まで治水優先」とありました。記事本文の中では、「球磨川などの緊急治水対策は出水の危険性が高まる今年の梅雨期までに前倒しで実施、流域で要望が多い河道掘削や堤防整備、堆積土砂の撤去を急ぐ」とありました。まさに今、町長や課長が答弁されたことが記事になっていたわけでございます。本町の被災河川等の災害復旧にあたっては、町長が県に強力な申し入れをなさっておられますけれども、これが相当です、効いて、本格的な対策が実行されようとしていることは、誠に喜ばしいことであります。逆に町長が言わなかったら、こうならなかったかも知れんですからね。町長のプッシュが非常に効いておると思っとるわけです。関係住民に成り代わり、この場をお借りしまして深く御礼申し上げたいと思います。

実は、私自身が佐敷川のほとりに居住しておる関係上、川の状態には非常に関心が高うございまして、毎日のように川を観察する中で、何十年もの間に土砂がだんだん堆積していく様を見続けてまいりました。しかし、その間、県の河川管理体制は洪水等の防災意識、またその予算も十分なものとはいえず、失礼ながら油断をされていたのではないかと、甘く見ていたのではないかと危惧をいつも持っておりました。これは私に限らず、流域の皆さんも同様の思いであったと思います。去年の水害の前にも県土木に申し入れをして、土砂撤去をしていただきました。ところが、予算上のこともございましょうが、下流の河道堰を上げたまま、つまり上流に水をたたえたままですね、その水面から露出した堆積土だけを撤去されたのであります。たったそれだけの撤去ですか、なぜ堰を落としてやってくれなかったのですかと言いたかったわけですが、それでもやらないよりはましだろうということで、ちゃんとその場ではお礼も申し上げたわけでございます。これまではそのようなことが毎年のように繰り返され、私たちは失意のうちに次の年を迎えていたというのが実情でありました。そして、昨年の大水害だったわけでございます。ただ、もう過去のことは申しません。恨みつらみを言うのはですね、私のポリシーに反します。これからどうするのかということが最も大事なことであります。

町長はこれまでいろいろな場において、次に去年のような大水害が発生したら、それは人災であると語気を強めて申されておりました。そして、国・県に対しても、そのようにですね、強くおっしゃっておられましたけれども、今回の復旧計画はで

すね、まさにそのようなことが起きないように考えられた、本格的な復旧工事の内容でありまして、本当に安心したところでございます。私は流域の皆さんに、今日の一般質問が終わればですね、胸を張って川は本格復旧されるんだと、去年のような洪水にも耐えられる川になる。町長がしっかり、そして強力に国と県に要望しているので、必ず実現すると伝えることができます。災い転じて福となす、まさにこれを機に郷土強靱化を一気に推進され、災害に強い町を形作っていただきたいと思います。

佐敷川流域に限らず、これから始まる町内の被災河川の本格復旧、それは芦北町防災100年の歴史に深く刻まれる偉業となるに違いありません。町長におかれましては、これからも町民の命と財産をしっかり守る取組をよろしくお願いを申し上げます。

さて、新型コロナウイルス関係でございますけれども、御答弁ありがとうございます。これは、先の坂本議員の類似質問でも答弁されておりますので、これ以上の追加質問はいたしません。しかし、これだけはちょっと申し上げておきたいと思います。それはですね、コロナウイルス対策の主体は国や県であるということが分かりました。しかしですね、町民はそう見ていないということでもあります。町は、ある程度感染が落ち着いておりますけれども、クラスター発生時はですね、町は何をしているのか、情報提供はどうなっているのかという不満の声が噴出していただいております。つまり、町は基本的には管轄外であったとしてもですね、まさに我がこととして考え対応しなければ、町民の理解は得られないということでございます。町民の声を集約し、県に様々な対策や情報提供の申し入れを行っていく、あるいは防災行政無線をもっともっと活用し、出来得る限りの情報を提供していくという姿勢が大事ではないかと思います。先ほど課長も答弁されましたけども、今後、再度感染拡大があるかもしれません。町民は、国、県、町の違いなど関係ないのであります。町で発生したことは町も深く関わり対応すべきだという意識でございますので、この町民意識というものを十分お汲み取りの上、適切な御対応をいただきたいということを切に要望しておきたいと思います。

総務課長にお尋ねいたします。先ほどは丁寧な説明、本当ありがとうございます。一応条例化をしなくちゃいかんということでしょうけれども、1点質問いたします。公費負担の対象となる経費や限度額はとなっておりますか。

○議長（宮尾秀行君） 松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） お答えいたします。

対象となります選挙は、町長選挙、町議会議員の選挙となり、選挙期間中の経費が対象となります。公費対象の経費は、選挙期間中の車の借上げの費用、燃料費、

運転手の雇用費、ポスター作製費、ビラ作成などが対象になってまいります。1 人の負担額でございますけれども、町長選挙が 7 3 万 2, 5 7 6 円、町議会議員が 7 0 万 7, 0 4 2 円が全て使われたときの限度額ということになってまいります。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 楠原君。

○1 番（楠原清照君） どうもありがとうございました。

説明を聞く限りにおきましてはですね、いろいろまだ細かいところで問題はあるものの、ある程度の負担の軽減がなされるようでございますし、供託金ですね、納入しなければなりませんけれども、これならですね、自分も立候補してみようかという人も出てくるかも知れませんが、議員になった後のことについて申し上げればですね、現在の議員報酬のみでは生計を立てることは極めて困難ではなかろうかと思っているところです。これがいわゆる現役世代と申しますか、若い世代が議会になかなか進出してこない大きな要因ではなかろうかとも思っております。一方、私のようなですね、年金受給者や仕事を持っている者につきましては、今のままでも何とかやっていけるという面もございます。

このように、なかなか難しい問題がございますけれども、基本的には議員の仕事の量を増やすとともに、報酬も上げるという方向性が、新しい風を入れる、議員活動に集中させる、議会の多様性を図るということにつながりまして、議会改革、議会の活性化に資するのではと、個人的には考えるものです。これは本来、私という議員自身が議員報酬の問題をですね、それも引き上げるということ、この本議会で申し述べるということには抵抗がなくはないわけでございますけど、しかし誤解のないように申し上げておきますけれども、私自身の報酬を上げてもらいたいという、そのような姑息な考えでは決してございません。あくまでも議会の活性化に資するという純粋な考えからの発言でございますので、念のため申し上げておきたいと思います。

また、令和 2 年 7 月豪雨や新型コロナウイルス感染下の状況において、当然ですね、議員報酬のアップは町民の理解が得られないことも十分理解しておるところでございます、この報酬問題というものは今後の課題ということにさせていただきたいと思います。

最後に、冒頭に申し上げましたとおり、本日は 2 0 1 1 年に発生した東日本大震災からちょうど 1 0 年目となる日でございます。この日に災害復旧工事に関する一般質問ができたことは、私にとって極めて感慨深いものがあります。私は役場を定年退職後の 2 0 1 7 年 9 月に、東日本大震災の地に一人赴きました。仙台空港地先の海岸です。海岸から太平洋に向かって立ち尽くしますと、その太平洋から大きな

波が海鳴りをとどろかせて押し寄せてまいりました。海の向こうは南米のペルーに続いております。自然の圧倒的な圧力がそこにありました。陸地のほうを振り返るとですね、海を遮る形で新設された大規模な海岸防災林が延々と続いておりました。そして、その海岸堤防林の内側にですね、復旧された仙台空港や民家が立ち並び、何事もなかったかのような日常の人々の営みがあつたわけでございます。自然はどこかで無慈悲に牙をむく、その日が必ず来る。だから、人間は常に備えなければならないということを教えていました。

そして、我が町もとうとう昨年、自然が牙をむいたわけでございますが、今こそ、私たちは自然の驚異を真正面から見据え、一致団結してこれに立ち向かわなければならぬのであります。同じ時代に生きる人間同士が争うのは愚かなことです。了見が狭すぎると思います。自然の驚異の前では、できるだけ助け合って生きることこそが、人間の生きる道だと思うわけでございます。

今般の令和2年7月豪雨では、いろいろな方々に御支援をいただいております。各地から駆け付けてくださった災害ボランティアの皆様には、大変お世話になりました。自衛隊の皆様にもお世話になりました。役場職員の皆様も本当に大変でございました。社会福祉協議会の皆様や各種団体の皆様も、本当にお疲れ様でした。また、何より竹崎町長や藤崎副町長、町幹部職員の皆様も、言うに言えぬ御苦労が多々あつたと存じます。夜の3号線を車で通りますと、毎日のように、そして今でも夜遅くまで町役場の明かりは煌々と灯っております。ああ今日も頑張っておられるんだなと感謝の念でいっぱいでございます。復旧・復興は長丁場となりますが、とりあえず今の段階におきまして、一人の議会人として、災害復旧に関係された皆様に御礼の言葉を申し添えます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

これで、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（宮尾秀行君） 楠原君の質問が終わりました。

ここで暫時休憩します。

午後1時から再開いたします。

-----○-----

休憩 午前11時44分

再開 午後 0時58分

-----○-----

○議長（宮尾秀行君） 全員お揃いでありますので、休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、林田君。

○3番（林田耀宏君） 議長の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

ます。

今日、東北大震災から10年、お亡くなりになられました方々、そしてまた被災されました皆様には、心から御冥福とお見舞いを申し上げます。

さて、昨年12月の芦北町町長選におきまして、見事、5期目当選されました竹崎町長には、心からお祝い申し上げます。町長選では、復旧・復興なくして芦北町の再生はあり得ないと、復興第一を掲げられていました。その通り、早速、河川の掘削、家屋の解体、道路改修など、目に見えて進んでいます。まだまだ課題も多くあると思いますが、私たちも住民の皆様の声を聞き、芦北町の再生に取り組んでいく所存であります。

昨年は、コロナ禍と災害豪雨と、未曾有の出来事に遭いました。その間、対策に当たられました町長をはじめ、職員の皆様、応援に駆けつけていただきました関係者の皆様、そして医療従事者及び関係者の皆様には、本当に心から御礼と感謝を申し上げます。災害に遭われた、被災されました皆様には、心からお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染は、今年に入り再度拡大し、二度目の緊急事態宣言が発令されましたが、今は落ち着いた状態であります。しかしながら、経済面においては、リーマンショック以来の大恐慌となっております。飲食をはじめ、宿泊、観光、その他の業種まで相当な影響が出ております。

そんな中、芦北町では、商店に対してはコロナ対策や利子補給、飲食店応援クーポン券、その後、第2弾の芦北町飲食店応援キャンペーンなど、そして全住民に対しては生活応援券など、町独自の手厚い支援策を打ち出され、たくさんの喜びの声が聞かれ、大変うれしく思っているところでございます。一商業者として、また住民として衷心より厚く御礼申し上げます。

現在、関東以外は緊急事態宣言は解除されたものの、まだまだ見えないウイルスで、安心はできません。また、豪雨災害で被災され、仮住まいにお住まいの方、またお店の改装中などで開店されていないお店もあり、まだまだ今後もしっかりとした支援が必要かと思えます。

先日、芦北町復旧・復興計画が示され、これからはコロナ禍とともに、理念である自然と共生する安全・安心の新しいあたりまえに向かって、前へ進もうと思えます。

そこで、今回は安全で安心な健康と食育という観点から質問させていただきます。まず、①芦北町、津奈木町、水俣市の1人当たりの医療費が高いと聞いているが、芦北町の医療費はいくらで、県内で何番目に高いのか。また、2月11日の熊本日日新聞で令和3年度国民健康保険の市町村の標準保険料が公表されましたが、芦北

町は8万123円と、県内で3番目の安い保険料となっていました。医療費は高いけども保険料は安いというのは、どういう仕組みになっているのかお尋ねします。

②平成29年度、平成30年度、小学5年生を対象に、親子の生活習慣病検診が行われ、平成29年度は親子4組8人、平成30年度8組16人が受診され、その結果、異常なしが30%、その他の受診の必要があるが70%となっています。これは検診を受けた親子が少ないということもありますが、少し驚いた結果となっています。令和元年度は実施されたのか、実施されたのであれば、その結果がどうだったのかお尋ねします。

③芦北健康フェアについて、昨年はコロナで中止されたようですが、例年盛会に開催され、健康意識の向上のために大変いいことだったと思います。その中で、清涼飲料水などに使用されている砂糖のコーナーがあり、驚きました。フェアに参加できない保護者のために、PTA総会などに出向き、啓発活動などできないかお尋ねします。

④教育委員会では、食育に関する取組が円滑に進むよう、関係機関と連携されていたかと思います。どのような機関と連携しているのか、また、より安全で安心な給食をどう考えているのかをお尋ねします。

以上で、1回目の質問は終わります。

○議長（宮尾秀行君） 林田君の1回目の質問が終わりました。答弁を求めます。竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 林田議員の質問の①について、お答えいたします。本町の国民健康保険事業につきましては、毎年、水俣芦北地域振興計画の特別要望事項として、水俣病被害者に係る医療費の増額分につきましては、負担が生じないように財源措置を講じることを国へ強く要望しており、その結果、特別調整交付金の交付率が向上するなど、着実にその成果は得られており、保険料軽減につながっているものと考えております。今後も安定した財源を確保し、健全な事業運営を堅持してまいります。

なお、残余の質問につきましては、具体的内容となりますので、担当課長から答弁させます。

○議長（宮尾秀行君） 岩田教育長。

○教育長（岩田繁義君） 質問④について、お答えいたします。

教育委員会では、給食センターにおいて、保健所や県学校栄養士協会、県栄養教諭研究会等のほか、町の健康増進課や農林水産課と連携しており、食育に関する研修や衛生管理、地場産業育成に関する情報共有を行っているところでございます。また、食事の食べ方の指導、栄養バランスのとれた魅力ある栄養管理のあり方など

を実践に生かしております。より安全で安心な給食は、子どもたちの健やかな成長のために大切なことだと考えております。

○議長（宮尾秀行君） 田渕住民生活課長。

○住民生活課長（田渕耕一君） 質問の①について、お答えいたします。

本町の1人当たりの医療費は、最新データである平成30年度で56万3,360円となり、県内で3番目に高くなっております。ちなみに、医療費が近い主要因は、6カ月以上の長期入院人数及び高血圧症や糖尿病の生活習慣病に起因する疾病人数の割合が高いことによるものです。6カ月以上の長期入院人数は県平均0.9%に対し、本町は2.1%と、1.1%高く、また、生活習慣病に起因する疾病人数は、県平均41.3%に対し、本町は59.2%と、17.9%高い状況でございます。

もう一つの要因として、水俣病に係る医療費が高いことが挙げられます。国保被保険者のうち、水俣病手帳所有者の割合は44.7%で、その通院件数は手帳所持者以外の被保険者の約3倍であることから、1人当たりの医療費が約74万円となり、手帳所有者以外の1人当たり医療費の約44万円と比べて30万円高くなっております。

なお、県が示した1人当たりの標準保険料は、本町の医療費に対して必要な保険料額の目安となりますが、国・県への度重なる要望活動により、水俣病に係る医療費については、特別調整交付金などの財政支援を受けており、県内でも低い保険料となっております。この特別調整交付金などの交付率は、平成17年度、合併当時の53.3%から、現在は80%に伸びているところでございます。

また、本町では、繰越金を財源に充て、令和2年度では実際の保険税は1人当たり約6万5,000円で、県が示す標準保険料8万123円より、約1万5,000円安く、国保世帯の負担軽減を図っているところでございます。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） 田中健康増進課長。

○健康増進課長（田中公広君） 質問の②について、お答えいたします。令和元年度は、

7月28日日曜日と8月4日日曜日に開催をし、15組30人の親子に受診をしていただきました。平成30年度は異常なしが30%で、残りの70%が何らかの数値に問題があったということでございます。令和元年度の結果につきましては、子どもの26.7%は異常なしで、残りの73.3%にはコレステロール値など、血液検査で所見が見られたところでございます。また、保護者に関しましては、20%が異常なしで、残りの80%に体格や脂質異常などの所見がみられました。

次に、③についてお答えいたします。現在の状況ではPTA総会に出向き啓発活

動を行うことは考えておりませんが、各小中学校の健康教室につきましては、予算作成の時期に健康応援メニューの一覧を各学校に送付し、次年度の実施の希望を調査しております。また、応援メニューにない項目でも、希望があり実施可能であればお受けすることとしております。そのため、各小中学校の希望に沿った健康教室を実施できているものではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 林田君。

○3番（林田耀宏君） それでは、2回目の質問をさせていただきます。

まず、①でございます。次の質問を用意しておりましたが、今回、田渕課長最後の答弁ということで、詳しく今説明いただきましたので、それでは本町の説明で、保険税は国や県から特別調整交付金などの財政支援を受けて低くなっているということでございます。また、繰越金を充当して保険税を低くしているということがよく理解ができました。これは先ほども町長が言われましたけども、県や国へ重ねて要望されたということで、また、この繰越金についてもですね、担当課の努力の賜だと思っております。

本町においては、これまで子育て支援をですね、目的として、18歳以下の子どもの均等減免や、本年度は新型コロナウイルス感染症の生活支援など対策をして、また均等割額、平等割額を減免するなど、町独自の手厚い支援を行っていただき、町民の方は非常に助かっております。今後も全ては次代を担う子どもたちのために、理念のもと、その子どもたちを育て、子育て世代の経済的支援が是非必要かと思いますので、引き続き18歳以下の均等割減免の減額を強く要望し、次の質問に入ります。

②の2回目の質問でございます。先ほど、異状なしが30%から、令和元年ですね、30%から26%減って、逆にコレステロール値とか血液検査で所見が見られた子どもが73.3%に増えたと。そしてまた、保護者においてもですね、80%が何か所見が見られたと。少し驚いた結果となっております。

まあそういうところで、受診者数も少し増えてまいりましたけども、今後も受診数をですね、増やしていければと思いますけども、今後も受診者数を増やしていく考えでありますでしょうか、お尋ねします。

○議長（宮尾秀行君） 田中健康増進課長。

○健康増進課長（田中公広君） お答えいたします。

少しずつ受診者につきましては、増えている状況ではございますけれども、親子の生活習慣病検診につきましては、毎年夏休み期間中に実施をしております。今年度につきましては、災害と、あと新型コロナウイルス感染症等の影響がございましたので、

中止をいたしました。将来の生活習慣病の予防には、子どもの頃からの生活習慣が基本となりますので、親子で健康状態の確認と生活習慣を見直し、実践できるよう、今後も受診者につきましては増やしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 林田君。

○3番（林田耀宏君） そうですね。これはもう親子の家庭での食や生活の見直しにもなると思いますので、今後もどんどん受診者を増やしてほしいと思います。

ところで、この子どもや保護者で異常が見つかった人たちに対しては、特別な保健指導など、特別なその指導はその後行われておりますでしょうか、お尋ねします。

○議長（宮尾秀行君） 田中健康増進課長。

○健康増進課長（田中公広君） お答えいたします。

検診から約1カ月後に、検診の結果説明会を開催しておりますところでございます。説明会では、結果票の見方から、異常があった検査項目などがあれば、生活する上での注意すべきことなどをお伝えしているところでございます。また、手軽にできる運動なども紹介して、生活習慣の改善のお手伝いをしているというところでございます。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 林田君。

○3番（林田耀宏君） そうですね。今、生活習慣病は家庭の食育にも関係していると思いますので、引き続き、是非お願いしたいと思います。

それでは、次の③について質問いたします。先ほど、私もその健康フェアに行きまして、砂糖の量を見てびっくりしたんですけども、これだけ砂糖をジュース飲んで、飲んでるのかなと思ってびっくりしたわけですけども、先ほどはPTA総会などでですね、出向き啓発活動できないかということと言いましたけども、今のところできないと、健康教室は実施できると、要望があればということでもありますけども、それでは健康フェアに参加されない保護者に対しまして、例えば1口目は野菜からとか、子どもの生活病ことなど伝えていく、そういう考えはないかお尋ねします。

○議長（宮尾秀行君） 田中健康増進課長。

○健康増進課長（田中公広君） お答えいたします。

健康増進課では、健康フェア以外の健康教室等も実施をしているところでございます。その中で必要な情報をお伝えしていくということに心掛けておるところでございます。保護者の皆様には、各イベントや健康教室などのお知らせにつきましては、各学校を通じて行っておりまして、呼びかけを行っているところでございます。

その中でも、関心のある保護者の方と、あまり関心がない保護者の方がいらっしゃるといことも認識をしておりますので、健康に対する意識付け等は一朝一夕にできるものではないというふうに考えておるところでございます。ただ乳幼児健診等の保護者の方と十分話す機会がありますときに、しっかり伝えていくようにしているところでございます。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 林田君。

○3番（林田燿宏君） そうですね。やっぱり家庭でのその保護者の意識づけが大変大事かなと思っておるところでございます。本当にこの砂糖のインパクトはありましたけども、今ではその防腐剤とかですね、合成着色料など、添加物のコーナーもですね、実は同時にあったらいいかなと思ったわけですけども、実は海外で使用禁止の添加物や農薬など、日本ではですね、使用のほうは少し緩いかと聞いておりますので、現在、様々な情報が入ってくる時代ですので、特に成長期の子どもを持つ保護者の方にはですね、選ぶ目を持ってほしいと考えております。次回から、その添加物のコーナーの設置なんかについてはどう思われますか。

○議長（宮尾秀行君） 田中健康増進課長。

○健康増進課長（田中公広君） お答えいたします。

添加物につきましては、保存料ですとか、発色剤とか、ほとんどの加工食品に、生肉にも発色剤等は使われているというような状況でございます。かつ、量が少量のためですね、食品に含まれる砂糖の量を表現するように表現することは非常に困難ではないかというふうに思っております。ただ、なかなか比較するには難しいかとは思いますが、今後どうにか工夫して、表現できるような形を検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 林田君。

○3番（林田燿宏君） 是非ですね、そういうところもですね、検討のほうをよろしくお願いしたところでございます。

皆さんも新聞で御存知かと思えますけども、つい先日ですね、4日の日に熊本日日新聞におきましてですね、化学物質から子どもたちを守ろうと、環境省は2011年に子どもの健康と環境に関する全国調査と、エコチル調査というのを始めたと掲載されておりました。ちょうど私がこの原稿を書いていたときでございましたもので、気になったわけですけども。それによりますと、近年、子どものぜんそくやアトピーなど、アレルギー性疾患、発達障害などが急増しているとのことで、そのことが影響があるのではないかということですね、調べておられまして、胎児期

の方から13歳まで調べて、この芦北の方も何か応募されておりました。先の文教の決算委員会でもですね、児童生徒数は減少している中、特別支援学校の子どもたちは増加していると、比率としてはかなり増加しているのではないかとということで、教育課ではそういう時代に合わせて、いろいろ対策をされておまして、新たに子ども自立支援室を設置したり、あらゆる対策を取られ、いろいろ努力をされております。

その中で、私たちの委員からもですね、家庭教育や食育が影響しているのではないかという意見も出ました。私もライフスタイルや食生活の変化など、影響していると思います。また、最近の御家族は共働きが増え、ついつい時間もなくてですね、食事を作る時間もないときには、簡単に済ませる家庭もあるかと思います。今、早い、簡単、便利の時代でですね、企業もそれを売りにしていますから、ますます心配になっております。

先ほどもありましたようにですね、何らかの所見が見つかったのが70%から80%あると、小学5年生、そして若い保護者がですね、そういう結果でございましたので、このまま年齢を重ねていくとどうなるのかと、日本の将来はどうなるのかと本当に心配になったわけでございます。今後の復旧・復興のキーワードは、やっぱり安全・安心だと思っております。

それでは、安全・安心の食育について質問いたします。④です。先ほど、給食の円滑な関係者ということで、いろいろ多岐にわたってですね、関係をされております。また、健康増進課でも先ほど言いましたように、1口目は野菜を運動とかですね、運動事業を行い、いろいろな課題も見つかって成果も上げられ、素晴らしいことだと思います。やっぱり気になるのは、生活習慣病の先の検査でございますけれども、私も学生時代、月末になるとですね、仕送りもなくなりますので、毎日、朝昼晩インスタントラーメンとかを食べていた時期がありました。そしたら、1週間したぐらいでですね、友達が蕁麻疹が出てですね、びっくりしたことがありましたけれども、そのとき、やっぱりその食べるのは体に影響があるんだなということを思ったわけですね。日本の未来の宝である子どもたちを考えるとですね、やっぱり小さい頃からの食は大切だなと思ったところでございます。

それでは、さらに質問させていただきますが、朝食や偏食とか、また昼食での残食率やアレルギーに対して、この調査はされたことはありますか。参考までにですね、朝食・夕食など、主にどんなものを食べているのか、調査もできたらいいかなと思っておりますけれども、それをお伺いしたいと思います。

○議長（宮尾秀行君） 白坂教育課長。

○教育課長（白坂達也君） お答えいたします。

熊本県が行っております令和元年度の食育推進に関する調査によりますと、本町におきましては、朝食を毎日食べるの項目で、小学生が８５．３％、中学生が８１．４％となっております。偏食の現状につきましては、小学生が６４．０％、中学生が６１．９％となっております。

給食の残食率につきましては、令和元年度調査で小学校が１．６３３％、中学校が０．３０３％となっております。

また、アレルギーに関しましては、小学校入学前に全新入学児童を対象に、アレルギー対応食実施意向調査を行っております。その上で、個々に応じたきめ細やかな給食を提供しているところでございます。

なお、朝食、夕食などにどのようなものを食べているかにつきましては、家庭環境もそれぞれ違いますので、今後検討させていただきたいと思っております。

○議長（宮尾秀行君） 林田君。

○３番（林田耀宏君） ありがとうございます。

小学校８５、中学校８１ということで、県の数字はもう少し高かったのではないかなと思っておりますけども、ここはですね、家庭のそれぞれの事情があつてのこととでございますのでですね、これは一つの調査としてですね、これを参考に今後、給食に生かせればということだと思っております、やはり給食は子どもたちの基礎をつくる栄養源でございます。そして、家庭でできない栄養をですね、この給食で何とか補っていけないかなという思いが私にもあるものですから、今日は質問させていただきました。ある保護者は、本当にコロナ禍の中ですね、あのとき学校給食があつてよかったなという、そういう声も聞いておりますので、本当によかったなと思っております。

ある中学校でですね、生徒が朝礼など貧血で倒れるのが多かったので、家での食生活を調べたと。そして、問題を起こす生徒ほど、食生活が乱れていたということが分かり、そこの校長先生がもう生命をかけてですね、給食の改善に手を付けられていきました。そして、その中で朝食を食べていない子どもや、食べていてもパンやハムやウィンナーなど、それと合成着色料や甘味料、保存料の入ったジュースとか、もう血液をきれいにする栄養素がなく、ドロドロにする食事が多かったということで、それからなるべく腹に溜まる米食に切り替え、野菜や魚を中心にバランスのよい献立にされていかれたと聞いております。

その学校では、米飯と言いましてもですね、血液をきれいにする、柔らかくしてくれるギャバが含まれる発芽玄米をですね、その米の中に１０％加え、そして野菜や魚類の食材もですね、地元で調達して、無農薬か低農薬、減農薬を使用していかれたそうです。そうするうちに、保護者の意識も変わり、保護者の食生活も変わり

ですね、食育のほかに授業の改善とか、それぞれで学校の花を作ったりですね、何か意欲的になり、子どもたちが元気になって、問題行動も減って、数年後には子どもたちの学習意欲も高まってきたということで、その後、町内にその活動が広まったということですね、改めて体は食べ物でできていると、どれだけ食べ物が関係しているのかということが分かったわけでございます。

成長時の子どもの頃が一番栄養をとる時期だと思っております。基礎をつくる時期だと思っております。それが大人になったときに基礎になるかと思えます。私たちも日頃、日常でですね、よくこれは無農薬で作ったよとか、いただいたことがありますけども、今そういう意識も多いようでございます。また、身土不二という言葉がありますが、人の体と人が暮らす土地は一体で、切っても切れない関係で、その土地の食べ物を食べ、生活するのがよいという意味で、いわゆる地産地消の推進でございますけども。

ところで、その安全で安心な給食のための地産地消の取組はいかがでしょうか。県の目標は確か60%だったと思っておりますけども、芦北町は今現在、どのくらいの推移でいっていますでしょうか、お尋ねします。

○議長（宮尾秀行君） 白坂教育課長。

○教育課長（白坂達也君） お答えいたします。

県の目標が60%という数値につきましては、熊本県が行っております食育推進に関する調査におきます熊本県産食材の活用率の目標だと思えますけれども、その調査によりますと、本町においては、総使用品目78品目中50品目で、64.1%となっております。

○議長（宮尾秀行君） 林田君。

○3番（林田耀宏君） 芦北町ではですね、高い水準となっております、努力されているなど思っております。

先ほど、先日、芦北町の給食のメニューを拝見させていただきました。やはり米飯中心でですね、たまに麦ごはんとかいうて、栄養士さんをはじめ、関係者の皆様が大変知恵を出して努力されているなど思ったわけでございますけども、やはり問題はまだ食材でございます。ある地域では、地元で獲れた魚、地場産の無農薬、減農薬を多くした米飯給食に変えて、先ほどは別のところでございますけども、そこは町が食の条例まで制定したところがありまして、今では医療機関、施設、企業など、地域全体でそういったことに取り組んでおられます。そして、その関係かと思えますけども、学力が全国で高い位置になっております。

なぜ、食と学力が関係あるのかと思われますけども、やっぱり発芽玄米とかそういうので血流がよくなって、咀嚼することで脳を刺激し、それから保護者や関係者

の意識も変わった、そういうことも原因の一つだと思います。今では、その地場の産業の支援にもなっているということですね、この食を変えることは町の産業の活性化にもなると私も思います。何回も申し上げますけれども、キーワードは安全・安心な食の町芦北でございます。食事が人格をつくるという、そういう取組こそ、食育、教育ではないかと思います。

少し長くなりましたけれども、次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに育ってほしいとの願いを込めて、教育長に改めて質問させていただきます。町はじめ、校長先生はじめ、教職員の皆様、保護者の方や栄養士さん、そして地元業者さんなどの協力をいただき、1日3回食べるわけですが、そのうちの1回のこの給食ですね、バランスのいい栄養価値の高い発芽玄米を入れた米飯や無農薬の、あるいは低農薬の野菜など、そしてなるべく合成着色料や保存料、そういう添加物を使っていない食材、そして地元の魚などを使った給食を目指していただきたいと思いますが、どうでしょうか。お尋ねします。

○議長（宮尾秀行君） 岩田教育長。

○教育長（岩田繁義君） 大変熱いお言葉、ありがとうございます。

成長期にある児童生徒にとって、学校給食はとても重要なことだと考えております。学校給食では、健康の増進や食育の推進を図るために、望ましい栄養量を算出した学校給食法に基づく学校給食摂取基準がございます。この基準に基づきまして、専門的知識を有する栄養教師等による栄養バランスの整った献立を作成しているところでございます。

議員からいただきました御提言につきましては、今後の献立作成の参考とさせていただきますと思っているところでございます。

教育委員会といたしましては、今後とも安全・安心な食材等で、美味しい給食の提供を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（宮尾秀行君） 林田君。

○3番（林田耀宏君） なかなかですね、本当にこれは一つの改革ということになりますので、難しいなとは思いますが、まずは目標をもっていただければと思っています。

私も、約20年前ぐらいからですね、もうこの家庭教育の必要性というのは思っ
てまいりまして、そしてPTA活動などでさらに強くそれを感じたわけですが、PTA活動中、そのとき県の総会などに行きますと、ここにおられる県のPTA会長が竹崎町長でございました。そのとき、竹崎町長も県のPTA総会に行くと、子どものことを一生懸命考え、前で挨拶された姿を見て、すごいなと思っておりまし

た。そのことが、今現在、芦北町は次代を担う子どもたちのためにということで、子育てに手厚い施策をとられ、有言実行の町長だと思っております。先ほどから私も食育のことで言いましたけども、本当に朝食抜きで子どもが食べなかった地域では、朝給食まで出すところが増えております。もう時代の背景がこんなに変わるのかと、本来ならば家族でしなければならないのが、もうやはり学校がそういうことまでして、朝ご飯まで出す、希望者にですね。そういう学校もあります。本当はあと一回、家庭教育を見直したいと思いますけども、今日は給食のことでまたお願いしたいと思います。

そしてまた、今回の豪雨災害からの復旧・復興、さらには今回のコロナ禍で見えた一つとして、テレワークやオンライン化が一極集中から分散へ、都会から田舎へと意識が変わり、田舎に住みたいという家族の思いも増えるのではないかなと思います。芦北町は、海あり、山あり、温泉あり、そして面積も広く、IT企業も今誘致され、新しい生活様式をするには最高の町だと思っております。都会から子育て世代が移住してくるかも知れません。教育は、知育・徳育・体育、そして食育だと思っております。現在、徳育としましては、論語の素読を、そして体育では空手を取り入れられ、特色ある教育を推進し、知育ではICT化を進めて、子どもたちのために今頑張られております。あとは食育だと思っております。

最後に、町長に質問させていただきます。大切な宝である子どもたちのために、安全な食材を使った給食の改革で、食育と子育てに特化した安全・安心な食育の町芦北を目指して、復旧・復興の一つとしていただきたいと思います、いかがでしょうか。

○議長（宮尾秀行君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） お説のとおり、これまで知徳体という教育の基本的なですね、考え方がありましたが、それに食育が加わっておるということ、それも理解をいたしておるところでございます。今後、御提言もございましたし、教育委員会と、また町長部局も検討しながらですね、しっかりと子どもたちの健全な成長のためにですね、さらに努めてまいりたいというふうに思います。

○議長（宮尾秀行君） 林田君。

○3番（林田耀宏君） ありがとうございます。

さすがPTAの先輩でございまして、有難いと思っております。私も本当、子どもたちがですね、今、少なく人数がなっていますけども、本当に健全で立派に育てほしいなという、その思いだけで今日は質問させていただきました。

それでは、本当、今後期待しまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（宮尾秀行君） 林田君の質問が終わりました。

続いてまいります。次に、川尻君。

○12番（川尻成美君） それでは、3月定例会最後の一般質問となっております。午後の眠気を誘うところではございますが、今しばらく御清聴いただきたいと思います。

それでは、今回の質問は、芦北町復旧・復興計画一本に絞り、質問をいたします。

今日は、東日本大震災から10年の節目の日であります。この場を借りましてですね、あの真っ黒い津波を思い起こされ、テレビ放映をくぎ付けになったことを思い浮かべております。未だ行方不明の2,525名ですか、もおられるわけであります。犠牲になられた多くの方々に哀悼の意を表したいというふうに思います。

さて、熊本豪雨災害から早8カ月が経過しております。私、昨年7月4日午前3時頃から地元消防団員とともに、現地の被災状況を目の当たりにして活動しました。目の前に土石流が押し寄せ、身の危険を感じ、自然の猛威にまざまざと体験をしたところであります。トラウマという言葉がありますけども、これがトラウマかというふうな思いで、今も生活をしているところでございます。多くの方々の犠牲もありました。まだまだ被災者、多くの方々が平常の生活に戻らない状況でございます。犠牲になられた方々の御冥福をお祈りするとともに、いち早く平常の生活に戻られることを願い、一般質問をするところでございます。

本町は、被災市町村ではいち早く復旧・復興計画の作成に取り組まれております。まず、この計画の策定までの経緯を具体的に説明をしていただきたい。これが1番目の質問であります。

2点目は、この復旧・復興計画策定にあたり、町民に広く周知し、計画づくりを参考とするために、意見公募、いわゆるパブリックコメントを実施されておりました。この公募期間は12月21日から1月19日までの30日間であり、計画の素案は芦北町ホームページ、あるいは閲覧ができる場所を指定してありました。意見提出者は町内在住者・勤務者、町内の事業所または事務所、また個人法人与規定してありました。その結果、20名から多くの意見が寄せられたわけであります。我々議員にもその20名の意見を配付していただいております。

そこで、この計画に対して提出された意見が、この復旧・復興計画書の中に反映されている部分はどの部分なのかお伺いするものであります。

3点目は、町民の声を広く聞く場として、懇談会や協議会等、開く必要があったのではないかというふうに思います。具体的にそういう場があったのかお伺いをいたします。

次に、計画書に今後の進捗管理及び計画の見直しということで、年に2回、9

月・3月に計画をさらに改訂するというようなことが書いてあり、良かったなというふうに思いますが、その改訂方法はどのような方向で進められるのか質問するものであります。

5点目は、計画書の項目に被災者の生活再建があり、住まいの再建支援がうたっています。現在、公費解体・自費解体が徐々に軌道に乗りはじめております。解体された被災者や、今後解体を待っておられる方々は、住宅敷地の嵩上げ、あるいは造成等の支援を望む声が非常に多いわけではありますが、その支援策を考える必要があるというふうに思いますが、どう対処されるのか質問するものであります。

最後に、水産業の環境整備の中に、漁場の環境改善が盛り込まれております。県、町、漁協、有識者、漁民、連携し、環境調査等を踏まえ、具体的かつ計画的に取り組まれる必要があると思いますが、今後の取組をどう考えているのか質問するものであります。

以上申し上げましたが、町長再任されて、竹崎町政のですね、一番今回の思いは復興元年という位置づけをされ、全身全霊で取り組まれる強い意識をもっていくと述べられて期待をするものであります。着実に計画が進むことを願い、素晴らしい明快な答弁を期待いたしまして、登壇しての質問といたします。

○議長（宮尾秀行君） 川尻君の1回目の質問が終わりました。答弁を求めます。竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 川尻議員の質問の①について、お答えをいたします。芦北町復旧・復興計画の策定にあたりましては、昨年8月に総務課内に設置した復旧・復興推進室を事務局として、策定にあたるよう指示をいたしたところです。計画策定のための会議を開催し、庁内の復興推進本部会議での議論や被災者へのヒアリングも行っておるところでございます。

次に、質問の⑥について、お答えをいたします。漁場の環境を改善するためには、県や漁協と連携して取り組むことが重要であると考えております。特に漁協とはこれまでも漂流ごみの回収など、連携しながら環境改善に取り組んでまいりましたが、今般の豪雨による漁場への影響につきましては、大変憂慮しております。環境の改善を図るため、復旧・復興計画に掲げたわけであります。今後は計画に基づきまして、さらに県や漁協との連携を強化して、効果的な事業を展開してまいります。

なお、詳細及び残余の質問につきましては、担当課長から答弁させます。

○議長（宮尾秀行君） 松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） 主題1の①について、お答え申し上げます。先の全員協議会において申し上げたかも知れませんが、復旧・復興計画の策定にあたっては、まず有識者1名、町民14名を委員とする計画策定推進会議を立ち上げ、9月

18日に第1回目の会議を開催いたしました。その後、10月29日、11月12日と、計3回にわたり会議を開催いたしました。また、同時に推進室におきまして、被災者ヒアリング、被災事業者のヒアリングを実施をいたしまして、被災者の生の声を伺ったところでございます。追って、庁内の復興推進本部会議での議論、各課の取組を踏まえて、今後の復旧・復興に必要な事項を取りまとめ、12月21日に計画案として公表させていただきました。案の公表と同時に、12月21日から1月19日までの30日間、意見公募パブリックコメントを実施しております。その後、意見公募でいただいた御意見も踏まえ、御意見に対する回答とあわせ、2月1日に計画の公表に至ったところでございます。

次に、②についてお答え申し上げます。パブリックコメントで意見が多く寄せられた緊急時の情報通信機能について、また河川の復旧・改修について、より分かりやすい表現となるよう修正を加えてございます。また、八代海の浚渫についての御意見も踏まえまして、水産業の振興の記載の中で、河口部の浅海化対策について県に要望していく旨も追記をしております。なお、頂戴した意見については、全て各課と共有しております。現段階で計画の文章として盛り込めなかった事柄も含めて、いただいた御意見を参考にしながら、今後の取組を進めてまいります。

次に、③についてお答えをいたします。懇談会など、集会形式での意見聴取は行っておりませんが、先にも述べましたとおり、計画策定にあたって会議を開催したほか、被災された方や被災地域の区長様など、個別にヒアリングを実施しております。今後、具体的な取組を進めるにあたって、町民の皆様、特に被災者の方々のお声をしっかり拝聴して、事業を進めてまいります。

次に、④についてお答え申し上げます。復旧・復興計画の検証については、まずは復興推進本部会議において、個別の事業の進捗を確認し、課題等を整理してまいります。その上で新年度に新たに設置する検証のための会議において、有識者をはじめとする委員の方に意見を伺い、掲載内容などの修正等を行うという形で進めてまいりたいと考えております。

次に、⑤についてお答えいたします。現在のところ、自宅等を解体した跡地の嵩上げについて、町独自での支援策は検討してございません。嵩上げに対する補助ではございませんけれども、熊本県の復興基金の事業メニューにおいて、住まい再建に係る各種支援制度がございますので、活用のアナウンスをですね、しっかり行ってまいりたいと考えてございます。

○議長（宮尾秀行君） 佐竹農林水産課長。

○農林水産課長（佐竹貴幸君） ⑥の質問について、お答えいたします。海底の環境調査の一環といたしまして、令和3年度は県の補助事業を活用した海底耕耘事業にあ

わせ、海底調査を2回実施する計画で当初予算に計上させていただいております。現在の海底の堆積物の状況、流木やごみの有無、また耕耘による状況の変化、効果を確認するため、耕耘前後にダイバーによる調査を行い、その結果を今後の効果的な海底耕耘、清掃などに反映させ、漁場の環境改善につなげたいと考えているところでございます。

また、本年度、県に要望し、実施いたしました浅瀬の流木等の除去につきましても、今後、県と連携し調査した上で、漁業の支障となる箇所については、引き続き除去の要望を行ってまいります。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） それでは、順を追って再質問をいたします。

経過をちょっと聞いたのは、要するに我々も素案、骨子から素案まで説明を受けました。いわゆる県からも2名お出でいただいております、素案作りに頑張っておられたというのは、もうちゃんと確認済みであります。私は復興計画については、素晴らしいものが出来たというふうに理解をしますが、復旧に対して12月議会も一般質問をしましたけども、今やるべきこと、住民が望むことは、やはり公費解体やいろんな平常の生活をするためにいち早く進めるべきものは何なのかというのを、常に思って町民の声も聞いております。そういう形で、何か新聞でよく取りざたされているのが、ずうっと取っておりましたが、やっぱり県からも来て、お出でいただいていたので、いち早く県知事にお会いになって、この出来たのを報告をされた記事もあっております。実は、私もほかの町村の知り合いからも、被災したところからもあるんですけども、坂本あたりはパブリックコメントの期間をやっぱり1カ月やったですね、八代のほうも。延ばしてくれてという新聞の記事があったんですけども、延ばせなかったというのは、この計画書は何月まで出せと、1月いっぱいに出せという決まりはあったんですかね、なかったんですか。その点をまずお聞きしたいと思います。

○議長（宮尾秀行君） 松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） お答えいたします。

これは法定の計画ではございませんので、あくまでも被災された市町村でもって判断をしていくというふうなことになりますので、特に期限の定めはございません。

○議長（宮尾秀行君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） 何か急がれてるなというふうに、ちょっと思ったものですから、どこでも通常、パブリックコメントという形ですね、意見公募をされてるのが通例でありますけども、やっぱりあるところは出向いて、被災者の生の声を、膝

つき合わせて聞いて回る、特に芦北においては球磨川流域の地区、佐敷の町内で牛渕とか女島とか湯北とか、そういうところはですね、やっぱり直接聞いていただければ、非常に被災者も有難かったのかなというふうな声も多く聞きましたので、救われるのがこれに要するに改定を年2回、9月・3月という見直しがあるということで安堵しておりますので、今後、先ほど言われましたけども、どういう方法で書いて、これをちょっと改訂されていかれるのか、もう少し具体的に町民の声をやっぱりまた大事にしなければいけないと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（宮尾秀行君） 松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） お答えいたします。

先ほど、計画策定までのプロセスを申し上げたかと思いますが、策定の期間中もそうでありますけれども、竹崎町長をはじめ、担当課長、相当数、現地に赴いて被災された方から直接御意見も伺っておりまして、被災現場の確認も数多く行っております。町民の声を多く聞いているという点においてはですね、他の自治体に比してもですね、劣っていないというふうに認識もしておりますし、町長もいつも声なき声に耳を傾けていくというふうなことで、我々もそれを体現してきたということもございますので、その辺は是非御理解を賜っておきたいというふうに思っております。

計画は、先ほど申し上げましたとおり、適宜見直す方針でございます。特に、まずは孤立した集落のですね、コミュニティの再生というのが対応がやはり喫緊と捉えておりますので、これまでの集会形式での開催を呼び掛けておったわけでございますが、コロナの影響で先送りになったというのが結論でございます。また、来週から開催をしていくということでございます。今後、当然、区長様を通じて御要望等をいただくということになってまいりますので、できるだけ町民の方と膝をつき合わせてお話をする機会を設けていく中で、見直し等について反映をさせていただきたいと考えてございます。

○議長（宮尾秀行君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） いわゆる被災者が何を望んでいるのかというのがですね、一番私は大事なことというふうに思いますし、今、総務課長のほうもそういう方向を重ねながら、改定していくということで安堵したわけでもありますけども、いわゆるそういう中で、今、みなし住宅100戸ぐらいが、データで出ているんですけども、よそから来て被災されて、みなしに入っておられる人は別として、芦北在住の方もおられます。県が示した今後、長期避難をする、人吉、坂本、芦北、津奈木で51世帯か何かという形で、芦北は30いくつ危険で、長期避難をせざるを得ないという状況もデータが出ておりますが、それはまた後でしますが、今、公費解体で一番

された後に、その場所に家を造るのか、あるいはもう危険だから、もうよそに町外に安全なところに住みたいとか、娘さん、息子さんのところに住みたいという方のデータをですね、いち早く察知しないと、人口が減っていく中に、さらに減っていく、虫食い状態になっていくような感じがされてならないわけです。東日本大震災から10年になって、相当の人口が減っておるのはもう分かっておられるので、芦北町もそういうことにならないように、やっぱり元のところに少しでも安全な立場をつくってやって、住んでもらえる。また、有効な場所を提供といいますか、助言してやって、芦北町に住んでもらいたいと、そういうことの手立てをしないと、私はどうなのかなというふうに思っておりますが、要するに嵩上げですするのにお金がやっぱりかかりますし、氾濫とか決壊とか、もうこの今の気象状況では起こらんと、もう予想されますので、その点を強く思うんですが、いかがですか。

○議長（宮尾秀行君） 松本総務課長。

○総務課長（松本俊造君） 嵩上げの場合でございますけれども、パブリックコメントの中でもですね、実は御意見として出されておまして、例えばその湯浦とか佐敷地区とかですね、歴史の連続性があるようなところで嵩上げをやってしまうと、その街並みの連続性が失われるというふうな、やっぱり危惧される御意見があることも一つ事実であることは事前に申し上げておきたいというふうに思います。

支援を行う場合、その対象とする地域をですね、どの程度まで広げていくのか、あるいは全体とすると、相当の量の金額にもなってまいりますし、全体を嵩上げするのか、個々を支援していくのかというふうな問題がございます。また、被災された地域の被災者の方だけを対象にするのか、あるいは被災地に来られる、新しい、被災されてないことも対象にするのかですね、そういった問題もあります。また、ほぼ新築される方は嵩上げされると思いますけれども、今でもですね。嵩上げの高さをどこまでするかとか、そういった問題もあろうかと思います。また、高基礎だったらどうするかという問題も加えてあろうかと思います。また、嵩上げをやりますと、やっぱり隣との調整というものもやはり必要になってきますので、そういったことへの行政の積極的な推奨というものがですね、果たしてどうなのかというふうなところは、やはり慎重に議論した上で、やはり判断をしていくべきだろうなというふうなことで現在は考えてございます。

○議長（宮尾秀行君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） 行政としてはですね、なかなか難しい公正・公平な立場とか、そういうのも考慮されると思います。今、着実に3月には100件ぐらいの公費解体が完了すると。12月いっぱいぐらいまで申請のところはかかるんじゃないかということでもありますけども、その今答弁されたことをですね、しっかりとやっぱり

住民の声を寄り添いながら、やっぱりやっていただけないと、せっかく郷土に住んだことが、これでやっぱり移住しなければいけない状況になれば、非常にいけないというふうに思っております。湯北地区においては、いつも通う生活の、私も拠点にしておりますので、虫食い状態になったらいかんというふうなことで、球磨川中流・下流におきましては、もう嵩上げというのを打ち出して知事もおられますけども、しかしながら、やっぱりですね、初めてのことでありますので、ここは慎重に、かつ計画的にやってもらえるように、義援金等の使い道等もこの中に入ってくればですね、非常にいいかなというふうに思いますので、そういう計画をやっていただければと思います。町長、この点については町長の考えはいかがでしょうか。

○議長（宮尾秀行君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 仮設住宅とか、みなし仮設とか、その他町営住宅とか、現在避難をしておられる方々がいらっしゃいます。また、在宅避難の方もいらっしゃるわけではありますが、その避難中にですね、生活再建とか生業再建、十分検討していただきまして、将来の設計図を描いていただく、そしてまた設計をしていただくじゃないかということで、この制度がありまして、家賃等も全てみるわけではありますが、およそ2年間のうちにということであります。それに合わせまして復興計画のその実施につきましても、スピード感をもってやろうということしております。それで復旧・復興計画につきましてはですね、パブリックコメントを取ったわけですが、他の地域は少ないんですよ。芦北は非常に多かった。よかったなということで、多くの意見が寄せられましたので、なるだけそれを盛り込んで、しかもスピード感をもとうということでもありますので、一日も早い復旧・復興を願っておられますので、スピード感を忘れたら駄目でありますので、ある時期でやはり政治判断をして実施をしていくということになりますので、本町では十分これはですね、踏まえた上で現在に至っておると思います。思いは一緒でありますので、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

○議長（宮尾秀行君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） 良い悪いとは私は言うておりませんので、非常に町民の声を代弁する役目として、今これを伝えております。

この20名の方のあれを私どもに配付していただきました。あの1カ月の短期間で、またホームページを見られたりしてですね、やっぱり真剣だなというふうにつくづく感じました。これをやっぱりですね、まだまだ検証しながらですよ、改定の中にやっぱり入れていただくということも切に考えていただければというふうに思っております。やっぱり町民のメッセージでありますのでですね、よろしく願いしておきます。

非常にいち早く良い制度、地域支え合うケアの方とも何回か、みなし住宅に来られる姿を見てですね、非常に激励をして、この頃は前とすれば大分笑顔が出るようになったと、そういう話も私も聞き及んでおりますので、心のケアというか、そういうのも必要だなというふうに感じたところであります。

そして、漁場の環境なんですけども、実は私もいち早く農林水産課の担当課も船に乗っていただきまして、漁協の参事も乗っていただきまして、干潮時期にですね、9月やったですかね、見てもらいました。ブイも付けておいて、そうすると芦高生も藻場のですね、干潟の生育調査もやって、ブイも今もまだあります。一時的に回収していただいたということで、有難く思っておりますけども、先ほど言われましたように、直接、町がですね、行くことばかりじゃありませんので、やっぱり県の予算もありますので、やはり交渉が一番大事だと思います。もう素晴らしい今日までの竹崎町政の効果が、今、着実に県とのパイプも現れてきておりますので、是非、海底調査ですね、水中カメラ等での実態、これは言っているのかあれですけども、何か直接は聞いておりませんけども、間接的に今、アクアラングで潜っておられる方もおられまして、もう砂が岩場に堆積してですね、カサゴ、全然いないということも聞いておりますし、私も漁をたまにはしますけども、全然もう4回出て4回ともですね、ヒラメなんかゼロなんです。カワガニがかかるんですね。川のものがおるんですね、干潟の近くに。生態系が崩れているんですね。これはやっぱり海の中は見えないので、農業と違い。やっぱり相当な有識者のデータのもと、やっぱり検証する、それが今後の漁場再生あるいは稚魚の育成、漁獲高につながるというふうに思っておりますので、その点は農林水産課長も言われましたけども、しっかりと計画を積んでですね、これに取り組んでいかなければ、漁業者はもう上がったことになるんじゃないかと思います。町長、いかがでしょうか、この点について。

○議長（宮尾秀行君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） そのことにつきましては、漁業関係者、組合長をはじめですね、頻繁にお会いする度に深刻な問題として承っております。また、対岸の天草のほうからもですね、芦北町だけの問題じゃありませんので、不知火海そのものの問題でありますので、環不知火海の自治体が寄って、このことは本格的に取り組んだらどうかというですね、提言もあっております。そのことは既にそういう動きがある、そして実施しようじゃないかということは、県にも話しております。

一方、法的にはですね、有明八代海再生特別措置法というのがございまして、本来はこれに基づいてやればいいわけです。ところが、海底の耕耘であるとか、あるいはその海底ごみの排除というのはですね、大変やはり膨大な経費もかかると予想されますし、時間もかかるということ。それと、本格的なその作業に入るためには、

詳細なデータが必要なんですね。今おっしゃったようなダイバーさんからのいろんなですね、所見もあるようでございますが、今回はダイバーによる調査もですね、部分的であるがやると。部分的にやって、全体が見えればいいわけですが、特に不知火海の外海への出口でありますですね、水俣市の地先におきましては、あそこがごみの集積場みたいになっておると。ごみの墓場になつとるんじゃないかというですね、報告もあっております、少し時間がかかりますけども、深刻な問題でありますので、今後ともきちんと対応してまいりたいと思います。

○議長（宮尾秀行君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） だいたい私も出尽くしたようでありますけども、何せ被災された方々の住まい再建には、特段の援助を、支援をお願いをせざるを得ない状況でありますので、やっぱり今後とも被災者の声をですね、聞いて、最善の努力をしていただきたい。そして、義援金とか配分も、国から、県からのやつも配分されておりますけども、芦北町に寄せられた義援金も基金としても積み立ててありますので、有効な、被災者に住宅再建のほうを利用していただければ幸いかなというふうに願い、終わりたいと思います。

○議長（宮尾秀行君） 川尻君の質問が終わりました。

以上で、一般質問を終わります。

—————○—————

○議長（宮尾秀行君） 本日の日程は全て終了しました。

本日はこれで散会します。

御苦勞様でした。

—————○—————

散会 午後2時18分

令和3年第2回芦北町議会定例会議事日程（第3号）

令和3年3月12日

午前10時 開 議

於 議 場

1 議事日程

（一括議題＝日程第1から日程第11まで）

- 第 1 議案第11号 令和3年度芦北町一般会計予算
- 第 2 議案第12号 令和3年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算
- 第 3 議案第13号 令和3年度芦北町介護保険事業特別会計予算
- 第 4 議案第14号 令和3年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算
- 第 5 議案第15号 令和3年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算
- 第 6 議案第16号 令和3年度芦北町有温泉事業特別会計予算
- 第 7 議案第17号 令和3年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算
- 第 8 議案第18号 令和3年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算
- 第 9 議案第19号 令和3年度芦北町水道事業会計予算
- 第10 議案第20号 芦北町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定
について
- 第11 議案第21号 芦北町災害復興基金条例の制定について
- 第12 議員派遣の件

（一括議題＝日程第13から日程第17まで）

- 第13 総務常任委員会の閉会中の継続調査の申出
- 第14 建設経済常任委員会の閉会中の継続調査の申出
- 第15 文教厚生常任委員会の閉会中の継続調査の申出
- 第16 議会広報委員会の閉会中の継続調査の申出
- 第17 議会運営委員会の閉会中の継続調査の申出

追加日程

- 第 1 議案第42号 令和2年度芦北町一般会計補正予算（第11号）
（閉 会）

2 出席議員（15人）

1番 楠 原 清 照 君
3番 林 田 燿 宏 君
5番 宮 内 道 則 君

2番 長 口 隆 君
4番 坂 本 登 君
6番 寺 本 順 一 君

7番 古 村 逸 男 君
 10番 元 山 秀 志 君
 12番 川 尻 成 美 君
 14番 岡 部 恵美子 君
 16番 宮 尾 秀 行 君

9番 前 田 徹 一 君
 11番 平 松 洋 一 君
 13番 寺 本 修 一 君
 15番 草 野 安 道 君

3 欠席議員（1人）

8番 白 坂 康 浩 君

4 説明のため出席した者の職氏名（17人）

町 長	竹 崎 一 成 君	副 町 長	藤 崎 正 司 君
教 育 長	岩 田 繁 義 君	総 務 課 長	松 本 俊 造 君
企画財政課長	川 尾 敏 浩 君	税 務 課 長	元 山 俊 治 君
住民生活課長	田 渕 耕 一 君	福 祉 課 長	内 田 照 也 君
健康増進課長	田 中 公 広 君	農林水産課長	佐 竹 貴 幸 君
商工観光課長	釜 辰 信 君	建 設 課 長	鎌 倉 博 之 君
上下水道課長	杉 本 芳 郎 君	会 計 管 理 者	福 田 貴 司 君
教 育 課 長	白 坂 達 也 君	生涯学習課長	福 井 成 昭 君
コミュニティセンター課長	志 水 哲 治 君		

5 職務のため出席した事務局職員の職氏名（2人）

議会事務局長	長 崎 十三男 君	次長(課長補佐)	田 代 忍 君
--------	-----------	----------	---------

議員派遣の件

次のとおり議員を派遣する。

全国町村議会議長会議長・副議長研修会

期 日 令和３年５月１９日（水）

場 所 澁谷公会堂（東京）

目 的 分権時代に対応する議会の活性化に資するため

派遣議員 副議長

熊本県町村議会議長会正副議長による県関係国会議員への要望活動

期 日 令和３年５月２０日（木）

場 所 グランドアーク半蔵門（東京）

目 的 県内町村政策要望

派遣議員 副議長

令和３年３月１２日

芦北町議会議長 宮 尾 秀 行

開会 午前１０時００分

-----○-----

○議長（宮尾秀行君） おはようございます。

定刻より少々早いですけれども、全員お揃いでありますので、直ちに本日の会議を開きます。

白坂君から欠席届が出ております。

本日の日程は、お手元に配付しております議事日程のとおりであります。

-----○-----

- 第 １ 議案第 １ １ 号 令和３年度芦北町一般会計予算
- 第 ２ 議案第 １ ２ 号 令和３年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算
- 第 ３ 議案第 １ ３ 号 令和３年度芦北町介護保険事業特別会計予算
- 第 ４ 議案第 １ ４ 号 令和３年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算
- 第 ５ 議案第 １ ５ 号 令和３年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算
- 第 ６ 議案第 １ ６ 号 令和３年度芦北町有温泉事業特別会計予算
- 第 ７ 議案第 １ ７ 号 令和３年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算
- 第 ８ 議案第 １ ８ 号 令和３年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算
- 第 ９ 議案第 １ ９ 号 令和３年度芦北町水道事業会計予算
- 第 １ ０ 議案第 ２ ０ 号 芦北町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定について

第 １ １ 議案第 ２ １ 号 芦北町災害復興基金条例の制定について

○議長（宮尾秀行君） 日程第１、議案第１１号「令和３年度芦北町一般会計予算」から日程第１１、議案第２１号「芦北町災害復興基金条例の制定について」までを一括議題とします。

それでは、定例会初日に各常任委員長に付託をしておりましたので、委員長及び副委員長に報告を求めます。

質疑は、終了した後、一括して行います。

はじめに、平松総務常任副委員長。

○総務常任副委員長（平松洋一君） おはようございます。

総務常任委員会に付託されました議案第１１号、令和３年度芦北町一般会計予算及び条例２件について、審査の経過及び結果を御報告申し上げます。

はじめに、議案第１１号、令和３年度芦北町一般会計予算について申し上げます。

令和３年度の一般会計予算総額は、前年度に対し４１億７，７００万円の増の１４０億円が計上されています。地方交付税は３６億６，５００万円が見込まれ、町債は災害復旧債等２５億６，２４０万円が措置されています。

特別会計は7会計の合計で、前年度に対し3億430万円増の63億930万円が計上され、一般会計、特別会計及び水道事業会計をあわせた予算総額は、206億5,930万円となり、復旧・復興を着実に実行していくための予算編成が行われています。

以下、審査の概要について申し上げます。

はじめに、企画財政課では、前年度に対し6,365万6,000円増の14億9,640万3,000円が計上されています。増額の主な要因は、ふるさと納税関係事務経費の増等によるものです。

ふるさと応援寄附金事業では、町内企業と連携し、返礼品の充実が図られるとともに、地方創生と災害からの復旧・復興のための財源確保策として、企業版ふるさと納税が推進されます。

また、交通対策では、乗り合いタクシー「まちなかルート」の実証実験を行い、町民の移動手段を確保するとともに、持続可能な地域公共交通の構築に向けた取組が行われます。

主な質疑を申し上げます。

企業版ふるさと納税コンサルティング委託料について、返礼品の取り扱いはどうなるのかとの質疑があり、返礼品はないが、企業にとっては税控除が最大9割あることや、自社が取り組みたい事業と自治体の提案事業が重なることで、業務推進が図られること等のメリットがあるとの答弁がありました。

次に、総務課では、前年度に対し1億7,709万6,000円増の15億6,971万4,000円が計上されています。増額の主な要因は、災害復旧・復興業務に従事する中長期派遣職員に係る経費等によるものです。

防災対策では、情報伝達の重層化を図るためのSNSの活用、WEB版防災マップの整備や、孤立集落における防災機能強化のため、屋外拡声子局の増設と球磨川沿いの7地区に備蓄倉庫を設置する費用が計上されています。また、これまで土砂災害危険区域からの住宅移転について、レッドゾーンのみ対象であった区域をイエローゾーンまで拡大し支援する制度が創設されます。

主な質疑を申し上げます。

災害時における停電について、役場本庁舎ではどのような対策をとっているかとの質疑があり、現在、ソーラー発電・蓄電池により、本庁舎執務室の電力を賄うこととしているが、今後、停電発生時においても災害対策本部の運営に支障が生じることのないよう、必要となる電力量等について総合的に検討するため、非常時電源設計業務委託を計上しているとの答弁がありました。

次に、会計室では、出納事務に必要な経費である印刷製本費や窓口収納手数料等

417万円が計上されており、一時借入金利子の増により、前年度に対し59万8,000円の増額となっています。

次に、税務課では、前年度に対し470万3,000円増の1億3,590万2,000円が計上されています。増額の主な要因は、新規事業である固定資産家屋評価業務委託等によるものです。

主な事業として、固定資産税課税土地評価業務委託のほか、賦課徴収、そのほか税務の業務に関する経費となっています。

主な質疑を申し上げます。

昨年の豪雨災害により、固定資産税の減額があると思うが、どういう状況かとの質疑があり、公費解体される家屋が約700万円、償却資産をあわせると1,100万円程度の減額になるとの答弁がありました。

次に、議会事務局では、議会費と監査委員費において1億1,890万6,000円が計上されています。

主な質疑を申し上げます。

議会交際費の予算額について質疑があり、近年の実績から10万円減額したとの答弁がありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、当委員会に付託されました議案第11号、令和3年度芦北町一般会計予算につきましては、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第20号、芦北町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定について申し上げます。

本案は、災害対応や今後の復旧・復興等の行政課題に対し、高度な専門性を備えた人材や、一定期間業務の増加が見込まれる業務等に任期を定めて職員を採用するため制定するものであるとの説明がありました。

主な質疑を申し上げます。

具体的にどのような方を採用する計画かとの質疑があり、豪雨災害の経験も踏まえ、防災教育の普及、災害時のサポート役として、防災マネージャー等の採用を想定しているとの答弁がありました。

質疑終了後は討論もなく、議案第20号、芦北町一般職の任期付職員の採用等に関する制度についてにつきましては、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第21号、芦北町災害復興基金条例の制定について申し上げます。

本案は、令和2年7月豪雨災害により被災した本町に対し、災害支援として寄せられた寄附金等を財源に、1日も早い復旧・復興を図るために基金を積み立て、後

年度にわたり有効に活用することを目的に制定するものであると説明がありました。
主な質疑を申し上げます。

第1条に、災害からの復興及び復旧を目的とした事業に充てるためとあるが、どのような事業に充てる予定かとの質疑があり、広く復興・復旧に係る事業の財源として活用していく予定で、特に特定財源が乏しいソフト事業への充当を想定しているとの答弁がありました。

質疑終了後は討論もなく、議案第21号、芦北町災害復興基金条例の制定については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、総務常任委員会に付託されました議案の審査経過と結果の報告を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 次に、宮内建設経済常任委員長。

○建設経済常任委員長（宮内道則君） おはようございます。

建設経済常任会に付託されました令和3年度予算関係5議案について、審査の経過及び結果を御報告申し上げます。

はじめに、議案第11号、令和3年度芦北町一般会計予算について申し上げます。

まず、建設課では、令和2年7月豪雨で被災した道路、河川の復旧を最優先とし、早期の現場復旧を図るための予算が措置されています。また、町道の計画的な維持修繕や橋りょう点検、昨年末に全線開通した町道射場芦北線周辺の河川や排水路改修等が進められます。

自然災害対策として、排水機場の機能強化を図るための解析調査も実施されます。

公営住宅については、安心して暮らせる住環境の提供と子育て世代の移住定住の促進を図るため、地域優良賃貸住宅の建設に係る設計費等の予算が措置されています。

以上、主なものを申し上げますが、建設課に係る令和3年度当初予算の歳出総額は33億4,784万1,000円となっており、災害関係予算により前年度比440%の大幅増となっています。

主な質疑を申し上げます。

令和3年度は豪雨災害の関係でかなりの事業量になると思われるが、早期の復旧を図る上でどのような対策を考えているかとの質疑に対し、現在、福井県、鳥取県、高知県、熊本市から6名の職員を派遣してもらい対応している。4月からも引き続き、派遣職員を含め、建設課一丸となって対応していきたいとの答弁がありました。

次に、上下水道課では、農業集落排水事業及び生活排水処理事業特別会計繰出金のほか、浄化槽設置整備事業において、合併浄化槽45基分の補助金が計上されています。また、水道区域外の地域に対し、安全・安心な生活用水の確保を図るため、

豪雨災害で被災した施設の復旧に対し、飲料水供給施設災害復旧事業補助金が措置されており、歳出総額は2億480万6,000円、前年度比1%の減となっています。

主な質疑を申し上げます。

下水道としての普及率はどうかとの質疑に対し、合併浄化槽と集落排水をあわせると約65%であるとの答弁がありました。

次に、商工観光課の商工業振興については、副業人材を活用して創造的復興に取り組む商工業者を支援するための新たな補助金が創設されるほか、プレミアム付商品券発行補助金も引き続き措置され、商工業の育成・強化及び町内での消費喚起による地域経済の活性化を図るための取組が行われます。

企業誘致については、IT企業の集積に向け、遊休施設等を活用したサテライトオフィス誘致活動を行うとともに、進出企業と連携し、ICTを活用した地域課題解決への取組が進められます。

観光振興については、観光うたせ船の担い手確保に資するため、地域おこし協力隊の確保を進めるとともに、町内を舞台としたアニメを活用した情報発信を行い、観光イベントについては新型コロナウイルスの状況を踏まえ、開催方法等、慎重に検討しながら取り組むこととされています。

芦屋海浜総合公園、御立岬公園等の観光施設については、被災箇所の早期の復旧と計画的な維持修繕や適正な施設運営に努めるとともに、御立岬公園では新たにキャンプ場の整備を行い、誘客に向けた取組が進められ、指定管理については利用料金制への移行も行われます。

以上、主なものを申し上げますが、商工観光課に係る令和3年度当初予算の歳出総額は5億6,236万1,000円と、前年度比17.4%の増となっています。

主な質疑を申し上げます。

芦北うたせマラソン等のイベントについて、開催・中止の判断基準はあるかとの質疑に対し、各イベントには実行委員会が設けられており、各団体と協議し、コロナ感染症等の状況を注視しながら、開催の可否を含め、検討していくとの答弁がありました。

次に、農林水産課では、令和2年7月豪雨で被災した農地、農業用施設、林道の早期復旧を進めるとともに、農業の振興として、農業次世代人材投資資金を活用して新規就農者の支援や人材確保等の取組が行われます。

農業委員会では、耕作放棄地の発生防止や解消、担い手への農地集積に努め、農地利用の最適化に向けた取組のための予算が計上されています。

鳥獣被害対策については、新たな取組として地域おこし協力隊を任用し、ICT

等を活用し効率的な有害鳥獣対策の推進と、猟友会や狩猟免許取得支援等に関する予算が措置されています。

また、本町独自の取組である木造住宅建築支援事業では、町産材の需要拡大とあわせて、被災者の住宅再建を支援するための新たな取組が行われます。

漁業の振興については、豪雨による土砂堆積や海底ごみにより環境悪化が懸念されることから、海底耕耘を実施し、漁場の環境改善への取組が行われます。

また、漁業者の所得向上対策として、クマモト・オイスターやマガキ養殖への助成や各種放流事業への支援継続とともに、「田浦銀太刀」のブランド力強化や新たなブランドとして「田浦釣サワラ」に対する支援が行われます。

以上、主なものを申し上げましたが、農林水産課に係る令和３年度当初予算の歳出総額は９億９,７７６万５,０００円と、前年度比１２０.６％の増となっています。

主な質疑を申し上げます。

被災者した農地での高収益作物の開発や、新たな産地づくりを行う考えはないかとの質疑に対し、災害は原形復旧が原則であるが、稼げる農業も視野に入れ、ＪＡ等とも連携しながら取り組んでいきたいとの答弁がありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第１１号、令和３年度芦北町一般会計予算については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第１４号、令和３年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算について申し上げます。

令和３年度は、被災した施設の災害復旧事業に取り組むとともに、芦北処理場の電気機械設備の更新工事に係る予算が措置されており、歳出総額は３億９,６００万円、前年度比７１.４％の増となっています。

主な質疑を申し上げます。

老朽化が進み、今後、維持管理費が増えると思われるが、どう対応していくかとの質問に対し、各施設供用開始から２３年以上経過しており、適正な維持管理と計画的な施設更新に努めていくとの答弁がありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第１４号については全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第１５号、令和３年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算について申し上げます。

令和３年度も、町が管理する浄化槽からの放流水の状態に応じた効率的な管理が計画されており、歳出総額は６,１００万円、前年度比５.２％の増となっています。

主な質疑を申し上げます。

老朽化により、今後、維持管理費が増えるのではないかと質疑に対し、現在のところ横ばいで推移しているので、引き続き適正な維持管理に努めていくとの答弁がありました。

以上、質疑終了は討論もなく、議案第15号については全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第16号、令和3年度芦北町有温泉事業特別会計予算について申し上げます。

各施設について、快適な利用環境を確保するための予算が措置されており、歳出総額は1億2,200万円、前年度比8%の増となっています。

主な質疑を申し上げます。

温泉観光センター運営費が、前年度比438万7,000円の減額となっている理由はとの質疑に対し、令和2年度に実施した屋根改修工事が終了したことによるものとの答弁がありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第16号については全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第19号、令和3年度芦北町水道事業会計予算について申し上げます。

令和3年度は、水道の安定供給のため、水道事業長期計画に基づき、施設や管路の更新及び耐震化を重点的に行うとともに、災害対策として停電時に供給が停止しないように発電機設置に係る予算が措置され、引き続き安定した事業経営に取り組んでいくとの説明がありました。

主な質疑を申し上げます。

今後の水道管布設替えについて、どう進めていくかの質疑に対し、漏水の多い路線を優先しており、今後も耐震化とあわせ管路更新を行っていく。使用する管については、耐震性と柔軟性に優れているポリエチレン管を基本に計画するとの答弁がありました。

以上、質疑終了は討論もなく、議案第19号については全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、建設経済常任委員会に付託されました議案の審査経過と結果の報告を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 最後に、林田文教厚生常任委員長。

○文教厚生常任委員長（林田耀宏君） 文教厚生常任委員会に付託されました令和3年度予算関係5議案について、審査の経過及び結果を報告申し上げます。

はじめに、議案第11号、令和3年度芦北町一般会計予算について申し上げます。福祉課では、前年度に対し2億4,654万6,000円増の25億9,758万

5,000円が計上されています。増額の主な要因は、保育所等整備事業補助金等の増によるものです。また、新たに豪雨災害対策費として応急住宅転居費用等助成金が計上されています。

高齢者福祉及び障がい者福祉では、ニーズ・状態に応じた適切な支援やサービスの提供を引き続き行っていくとともに、被災者支援については、地域支え合いセンターで被災者を巡回訪問し、被災者に寄り添いながら、丁寧に支援を行っていく。

また、児童福祉では、子ども医療費の無料化、認定こども園等の施設整備への支援に取り組んでいくとの説明がありました。

主な質疑について申し上げます。

放課後児童健全育成事業とは何かとの質疑に対し、小学生を対象とした学童保育で、芦北町においては4カ所で事業を実施している。平日だけではなく、土曜、長期休暇においても対応しており、この経費については補助金を交付していくとの答弁がありました。

また、地域支え合いセンターの設置により、災害で精神的に落ち込んでいた被災者の不安や悩み等を相談できる機会が提供され、精神的なケアが行われており、これはとても素晴らしいことである。今後も継続して実施し、またいろいろな情報を把握してほしいとの要望もありました。

次に、住民生活課では、前年度に対し683万円減の12億8,847万6,000円が計上されています。減額の主な要因は、マイナンバーカードに係る国の事業費減少に伴う個人番号カード関連委任事務交付金の減などによるものです。

各業務においては、マイナンバーカード普及推進やパスポート申請等の事務処理に努めるとともに、水俣病関連事業に係る情報発信事業、もやい直し事業、地域再生事業に引き続き取り組んでいく。なお、ごみ処理業務では、引き続き、清掃センターでの平日午後と、田浦事業所での火・木曜午前中の持ちごみの受入を行うとともに、祝日の収集業務を行い、町民の利便性を確保する。また、ごみの分別の推進と意識向上を目的に、広報等による周知を図っていくとの説明がありました。

主な質疑を申し上げます。

歳入の雑入で、ごみ中間処理物売払収入が増額となっているが、理由は何かとの質疑に対し、衣類の売払単価がマイナス単価のため、歳出の保管処理委託料に経費として計上したことによるものとの答弁がありました。

次に、健康増進課では、前年度に対し3,745万1,000円増の2億4,324万4,000円が計上されています。増額の主な理由は、新型コロナウイルスワクチン接種に係る人件費及び接種委託料を新たに計上したことによるものです。

平成30年度から6年間を計画期間とする「芦北町健康づくり推進計画」に基づ

き各種事業を行っており、新規事業としては、新型コロナウイルスワクチン接種事業を国の指示のもと、感染症による死亡者や重傷者の発生をできるだけ減らし、感染症のまん延防止を図ることを目的に、都道府県の協力により町が実施するとの説明がありました。

主な質疑について申し上げます。

新型コロナウイルスワクチン接種に係る周知はどのように考えているかとの質疑に対し、3月の町広報へ全体的な流れを掲載し、65歳以上の対象者には3月中に個別通知を行うとの答弁がありました。

次に、教育課では、前年度に対し84万5,000円減の4億6,631万6,000円が計上されています。

学校教育については、児童生徒のさらなる学力向上のため、教育現場に精通した指導主事を配置するとともに、ICT機器を活用した効率的・効果的な授業の推進、リモート授業やウェブ学習ができる体制の構築により、学力の向上に取り組み、また不登校対策としては、不登校対策支援員の配置や、新たに子ども自立推進室を設置し、支援していくとの説明がありました。

主な質疑について申し上げます。

子ども自立支援室については詳細をとの質疑に対し、不登校傾向でなかなか登校できない子どもたちに対して、学校とは異なる場所で実施するもので、卒業するまでには最低限の学力をつけて卒業させてあげたいという思いから、学習支援の場を設けるものであるとの答弁がありました。

次に、生涯学習課では、前年度に対し4億4,662万4,000円増の8億1,529万3,000円が計上されています。増額の主な要因は、町民総合センターの大規模改修等によるものです。

スポーツの振興では、競技力の強化と生涯スポーツの推進を図っていくとともに、町民総合センターについては、内装をはじめ、屋根、機械設備等の改修工事を行い、施設の長寿命化を図っていく。また、文化の振興では、新芦北町誌通史編を刊行して事業が完了するとの説明がありました。

主な質疑を申し上げます。

町民総合センター改修の概要はとの質疑に対し、築23年経つことから、老朽箇所及び空調、天井等を改修するもので、照明のLED化を含め2年間の継続事業で実施するものであるとの答弁がありました。

また、コロナ禍で各スポーツクラブの活動の現状はどうかとの質疑に対し、コロナ禍に豪雨災害が重なり、社会体育クラブの活動は減少しているが、苦しい中、活動している。町としても各クラブには活動費の支援を引き続き行っているとの答弁

がありました。

次に、コミュニティセンター課については、前年度に対し１億４，９１２万４，０００円減の１億３，１６４万８，０００円が計上されています。減額の主な要因は、コミュニティセンター整備事業の完了に伴う減によるものです。

復興のシンボルとして運用を開始した芦北町総合コミュニティセンターでは、あらゆる世代が集い、交流し、町民一体となって子育てができ、魅力あふれる郷土を受け継いでいく、次代を担う子どもたちを育む場所を目指して、施設全体の魅力向上と快適な利用環境の提供に努めていくとの説明がありました。

主な質疑を申し上げます。

地域づくりの原点は公民館活動と考えているが、自主的な公民館活動を促進していくためには、今後どのように取り組むべきかとの質疑に対し、自治公民館連絡協議会の役員を中心としてどのような活動ができるのか検討を進めていくとの答弁がありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、当委員会に係ります議案第１１号、令和３年度芦北町一般会計予算については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第１２号、令和３年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算について申し上げます。

事業勘定については、前年度に対し５，６００万円増の２９億８，８００万円が計上されています。

本年度も生活習慣病予防に重点をおいた特定健診等に取り組み、重症化防止に努めるとともに、子どもに係る保険税の均等割全額減免を引き続き行うとの説明がありました。

直診勘定については、前年度に対し１，８７０万円減の３３０万円が計上されています。

直診勘定における減額の主な要因は、診療所被災より休診中ため診療ができず、委託料が減額したためです。

主な質疑を申し上げます。

水俣病に係る特別交付金はいくらかとの質疑に対し、令和元年度で国は１億１，９８０万５，０００円、県は３，９９３万５，０００円であるとの答弁がありました。

また、吉尾温泉診療所は現在休診しているが、今後の状況はどうかとの質疑に対し、豪雨災害の被害が大きかったため、今後の診療所のあり方については令和３年度で検討していくこととし、当面はこれまでの受診者に対し町内医療機関までの送迎で対応していくとの答弁がありました。

質疑終了後は、討論もなく、議案第12号については、全会一致で原案とおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第13号、令和3年度芦北町介護保険事業特別会計予算について申し上げます。

前年度に対し8,300万円増の23億9,500万円が計上されています。

要介護保険事業では、第8期芦北町老人保健福祉計画・介護保険事業計画に基づき、介護予防・日常生活支援総合事業の充実に努め、さらに地域包括ケアシステムの深化・推進を図って、在宅医療・介護連携推進事業や認知症総合支援対策に取り組んでいくとの説明がありました。

主な質疑について申し上げます。

介護認定者は何人かとの質疑に対し、令和元年度が1,647人であり、65歳以上が7,360人に対し、認定率は20%を超えているとの答弁がありました。

質疑終了後は、討論もなく、議案第13号については全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第17号、令和3年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算について申し上げます。

前年度に対し800万円増の3,700万円が計上されています。増額の主な要因は、新たに新型コロナウイルス感染症による支援として奨学給付金の上乗せ給付を計上しているためです。

主な質疑について申し上げます。

奨学資金の標準的な返済期間はどれくらいかとの質疑に対し、4年生大学の場合、準備金も含め、借入は総額290万円になり、毎月1万5,000円返済した場合、約16年で返済となるとの答弁がありました。

質疑終了後は、討論もなく、議案第17号については全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第18号、令和3年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算について申し上げます。

前年度に対し100万円減の3億700万円が計上されています。

事業については、引き続き被保険者の健康維持・増進を図るとともに、疾病の早期発見と重症化の防止に努めていくとの説明がありました。

主な質疑を申し上げます。特別徴収保険料が増額となっているが要因は何かとの質疑に対し、特別徴収に係る被保険者の割合が76.23%から77.16%と、前年に比べ0.93%増加する等、特別徴収被保険者の割合が増えたためであるとの答弁がありました。

質疑終了後は、討論もなく、議案第18号については全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、文教厚生常任委員会に付託されました議案の審査経過と結果の報告を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 委員長報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を一括して行います。質疑はありませんか。川尻君。

○12番（川尻成美君） 各委員会に付託されました案件は、決算からこの予算、随分、委員長報告が要約されております。十分な審議はされたというふうに思いますが、私自身、施政方針等を聞きまして、新たな事業等が他委員会で審議された内容が興味がありましたので、総務常任委員会にまず1点お聞きいたします。

町長の施政方針予算大綱のページ、6ページに防災教育という中で、防災専門官の配置が検討されておりました。そして、議案第20号の芦北町一般職の任期付職員の採用基準等に関する条例制定の報告も先ほどいただいたところであります。中身については、御説明がありましたので十分理解をいたしました。採用はなるべく早めというふうな、私も考えをもっているものですから、大変いいことですので、その採用等についてはどう説明されたのかというのが1点です。

そして、建設経済常任委員長報告の中で、これも町長の施政方針の中で、ページ3の上段に本町独自の木造住宅建築支援事業を拡充し、被災した住宅の再建等に積極的に支援するというふうなうたっております。予算の説明でもありましたが、中身について、昨日もちょっと一般質問しましたが、委員会ではこの被災した家屋の再建を望む声もあるということも伝えておりましたので、中身について審議があればお聞かせいただきたいというふうに思います。

○議長（宮尾秀行君） まず最初に、総務常任副委員長、平松君。

○総務常任副委員長（平松洋一君） 川尻議員の質問にお答えします。

議案第20号、芦北町一般職の任期付職員の採用基準等に関する条例の制定についての説明において、担当の部署から別添資料ということでですね、かなり詳細にわたってこの条例制定の背景とか、あるいは目的とか、そういうものについては説明がありました。そして、非常に高度な専門性を要するという事で、防災マネージャーとか、あるいは危機管理監とか、IT関係とか、具体的な例えばの構想としての説明もあっております。それから、高度な専門性を有する特定任期付職員が5年以内を目途に、それから一般任期付職員を原則3年以内で採用していくとか、詳細な説明がありました。

お尋ねの採用についての検討でございますが、これについては時期とか人数とか

についてはですね、今回あくまで条例制定についての委員会審議でありましたので、そこまで立ち入った具体的な採用の時期とか人数等については説明があっておりませんし、これはもう当然、制定後に検討されるものだろうというふうに思っておりますが、川尻議員質問の採用についての検討については、委員会ではあっておりません。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） 次に、宮内建設経済常任委員長。

○建設経済常任委員長（宮内道則君） 川尻議員の御質問にお答えいたします。

各、私のほうのですね、建設委員会では、ただ今の件につきましてはですね、質問はなかったわけですが、担当課のほうに確認をいたしました結果ですね、令和３年度からは令和２年７月豪雨で被災した住宅の再建にも対応するよう拡充するとの説明があり、説明資料では２０坪から４０坪までは通常の新改築が坪当たり２万５,０００円の補助であるのに対し、被災住宅の再建では３万５,０００円となっております。また、床、壁の木質化についても、補助対象に組み入れられることとなりました。

なお、今後の支援について、周知はどのように行うのかとの質疑に対し、被災者住宅再建への上乗せ、そして床、壁の木質化については、新規の事業となるので、今後周知を徹底していきたいとの答弁がありました。ちなみに、昨年度までは柱だけの補助でございました。令和３年度からはただ今申し上げましたように、床、壁の木質化が補助対象になったということです。

以上です。

○議長（宮尾秀行君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） これで質疑を終わります。

これから日程第１、議案第１１号から日程第１１、議案第２１号までを順次討論を行い、採決します。

日程第１、議案第１１号、令和３年度芦北町一般会計予算について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第１１号を採決します。

お諮りします。委員長及び副委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第１１号は原案のとおり可決しました。

日程第２、議案第１２号、令和３年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第１２号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第１２号は原案のとおり可決しました。

日程第３、議案第１３号、令和３年度芦北町介護保険事業特別会計予算について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第１３号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第１３号は原案のとおり可決しました。

日程第４、議案第１４号、令和３年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第１４号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第１４号は原案のとおり可決しました。

日程第５、議案第１５号、令和３年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第15号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第15号は原案のとおり可決しました。

日程第6、議案第16号、令和3年度芦北町有温泉事業特別会計予算について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第16号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第16号は原案のとおり可決しました。

日程第7、議案第17号、令和3年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第17号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第17号は原案のとおり可決しました。

日程第8、議案第18号、令和3年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第18号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定する

ことに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第１８号は原案のとおり可決しました。

日程第９、議案第１９号、令和３年度芦北町水道事業会計予算について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第１９号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第１９号は原案のとおり可決しました。

日程第１０、議案第２０号、芦北町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第２０号を採決します。

お諮りします。副委員長報告は原案可決であります。副委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第２０号は原案のとおり可決しました。

日程第１１、議案第２１号、芦北町災害復興基金条例の制定について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第２１号を採決します。

お諮りします。副委員長報告は原案可決であります。副委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第２１号は原案のとおり可決しました。

-----○-----

第 12 議員派遣の件

○議長（宮尾秀行君） 日程第 12「議員派遣の件」を議題とします。

お諮りします。議員派遣の件については、地方自治法第 100 条及び会議規則第 127 条の規定により、お手元に配付のとおり派遣したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、お手元に配付のとおり議員派遣することに決定しました。

議員派遣につきましては、やむを得ず、目的先、期間及び派遣議員について、変更が生ずる場合は、議長に一任したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議長に一任することに決定しました。

-----○-----

第 13 総務常任委員会の閉会中の継続調査の申出

第 14 建設経済常任委員会の閉会中の継続調査の申出

第 15 文教厚生常任委員会の閉会中の継続調査の申出

第 16 議会広報委員会の閉会中の継続調査の申出

第 17 議会運営委員会の閉会中の継続調査の申出

○議長（宮尾秀行君） 日程第 13 から日程第 17 までの各委員会の閉会中の継続調査の申出を一括議題とします。

各常任委員長及び副委員長、並びに議会運営委員長から、お手元に配付の申出書のとおり提出されております。

お諮りします。申出書のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、申出書のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

-----○-----

○議長（宮尾秀行君） ここで、議案配付のため、しばらくお待ちください。

〔議案配付〕

○議長（宮尾秀行君） 配付漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 配付漏れなしと認めます。

執行部より、議案追加の申出があり、昨日開催した議会運営委員会により、追加日程の答申があっております。

お諮りします。ただいま配付しました議案第４２号を日程に追加し、追加日程第１として議題にしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議席に配付のとおり、日程に追加し、議題とすることに決定しました。

—————○—————

追加日程第１ 議案第４２号 令和２年度芦北町一般会計補正予算（第１１号）

○議長（宮尾秀行君） 追加日程第１、議案第４２号「令和２年度芦北町一般会計補正予算（第１１号）」を議題とします。

本案について説明を求めます。川尾企画財政課長。

○企画財政課長（川尾敏浩君） 議案第４２号、令和２年度芦北町一般会計補正予算（第１１号）について、御説明いたします。

今回の補正は、予算の総額に歳入歳出それぞれ３，６４２万円を追加し、総額を２３０億９，１６８万円とするものです。また、第２条で繰越明許費の補正を計上しております。

歳出から説明いたします。

予算書は９ページをお開きください。

款４衛生費です。項１目２予防費の補正額１００万円は、新型コロナウイルスワクチンの接種に際し、個人単位の接種状況を把握し、全国の自治体で情報共有を図るため、既存システムと全国共有のワクチン接種記録システムとを連携させるための改修費用です。補助率は国１００％であります。

次に、款６商工費です。項１目５御立岬公園費の補正額３，５４２万円は、御立岬温泉センターの源泉ポンプの故障に伴う取替工事で、孔内洗浄作業、水中ポンプ新設、揚湯試験を実施予定です。

次に、歳入について説明いたします。

予算書は８ページになります。

款１４国庫支出金、項２目３衛生費国庫補助金の補正額１００万円は、新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費補助金です。

款１８繰入金、項２目１町有施設整備基金繰入金の補正額３，５４２万円は、御立岬温泉センターのポンプ取替工事に充当しております。

予算書４ページをお開きください。

第2表繰越明許費補正について御説明いたします。今回、予算計上いたしました2事業をともに全額繰り越すために追加するものです。

以上で、一般会計補正予算（第11号）の説明を終わります。

○議長（宮尾秀行君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。寺本修一君。

○13番（寺本修一君） 商工費の御立岬公園温泉センターのポンプ取替工事、担当課にお伺いいたしますが、故障原因と現在の状況はどうなっているのか詳しく説明を求めます。

○議長（宮尾秀行君） 釜商工観光課長。

○商工観光課長（釜 辰信君） 質問にお答えいたします。

1月27日に源泉ポンプの異常が発覚しました。予備費で源泉ポンプを引き上げ、水中カメラ等で調査を行ったところでございます。その結果、井戸が1,000m中のちょうど真ん中あたり、489m地点で孔内が沈殿物でふさがっており、そのふさがっている箇所が1mほどあるということでありました。

今後の工事につきましても、この沈殿物を全部取り払わなければならないということがありまして、孔内の洗浄、ごみの除去、カメラで1,000mまでの調査、湯量を分析するため揚湯調査を行い、新設のポンプを設置する予定でございます。

○議長（宮尾秀行君） 寺本修一君。

○13番（寺本修一君） 2番目に、工事概要をお聞きしたいと思っておりましたが、既に今答弁がありましたので、管の掘削、洗浄、ポンプ取替、調査等、いろいろあるようでございます。私も時間がありますときには、御立岬温泉を利用いたしておりますが、利用者の方々は1日も早い復旧を、それから町外からお出でになる方々も、料金は半額になっておりますので、それで結構で、掲示もぴしゃっとしてありますので問題ないかと思いますが、本来の温泉としてのですね、センターの機能をいち早く復旧していただくようお願いしたいと思いますが、工事の完工はどれくらいを予定されておりますでしょうか。

○議長（宮尾秀行君） 釜商工観光課長。

○商工観光課長（釜 辰信君） 作業期間は約80日と聞いております。水中ポンプは発注後2カ月の納品となる予定です。

○議長（宮尾秀行君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 討論なしと認めます。

これから議案第42号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（宮尾秀行君） 異議なしと認めます。したがって、議案第42号は原案のとおり可決されました。

—————○—————

○議長（宮尾秀行君） これで本日の日程は全て終了しました。

会議を閉じます。

令和3年第2回芦北町議会定例会を閉会します。

—————○—————

閉会 午前11時01分

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

芦北町議会議長

署名議員

署名議員